

素人小僧

三、ふな材木ヲ以テ諸器具ヲ製スルニ其材木ノ性質上貴重品ヲ製スル能ハザルモノト思考ス此熱誠ニヨリ器具ニ對シ其代價ヲ記入シ他材ノ器具ト比較ヲスルノ便宜ヲ與ヘラレタシ

四、ふなノ器具ヲ見ルトキハ實ニ美ナルモノニシテ櫛ノ如キ木材ノ遠ク及バザルガ如ク小生ハ見受ケタリ薪炭ハ雜木ヲ以テ之ヲ製スルモノナレバふなノ如キ良材ヲ用フルニ至テハ宜敷ク使用シテ桐ノ如キ高價ノ器物ニ換ヘラレンコトヲ望ム

宮城縣 石川 幸七

五、ふなニ對スル御説ハ尤モナリサレド其造ルベキモノヲ選バザルベカラズ「ビール箱、棍棒ノ如キ少シ計リクルヒテモ差支ナキモノハ大ニ經濟的ナルベシ書籍箱、机等ノ如キ現ニ甚ダシククルヒ居ルニアラズヤ發案者一見豫期以上ノ御考ヘ有之ベクト存候全體ふなノ木ノ非常ニクルヒ易キハ御承知ト存候之ヲクルハ又様ニセントスルニハ乾燥法ニ依ラザルベカラズ爰ニ至リテ又經濟的の問題ハ起ルナリ他ニ適當ノ樹種ナシトセバ種々ノ法ヲ講ズサレドモ先ヅ現今ノ處經濟的原則ニ支配セラレ居ルモノト存候希ハクハ書籍箱、机等ノ如キクルハ又様ニ持ヒ然シテ他ノ樹ト比較經濟的御試驗セラレンコトヲ希望ニ堪ヘザル處ニ候

五月一日午前十時 秋田 富岳

六、千里ノ馬アリト雖モ之ヲ見ルノ伯樂ナクンバ何ゾ千金ノ價アラシ「ブナ」木材ノ既往薪炭ノミニ常用セラレ他物ニ登用セザルハ其實用ヲ知ラザル輩ノ即チ之ヲ見ルノ伯樂ナキニ不幸有用ニ登用セラレザル結果ナラント信ズ然ルニ貴署ニ於テ伯樂アリテ之ヲ世ニ照會シ公衆ノ爲メニ其價值ヲ傳布シ斯界ノ爲メ喜ブベク賀スベク將來ニ於テ該木ノ利用多キヲ見ル火ヲ睹ルヨリモ明ナラン一寸余輩モ喜ビノ餘リ一言以テ斯材ノ世ニ出デタルヲ祝ス

相馬 馬陵 城下

七、山毛櫛ノ實ハ胡桃ニ代用ヲナシブナ胡桃ト稱ス製作品ニ於テハ略々遺憾ナキガ如シ然レドモ箱類トシテ他ニ搬出スルモノニ至リテハ實ニ策ノ得タルモノニアラズ飾器具ニ至リテハ何ニ限ラズ尤モ好適ナリ木地引ノ材料ニハ可成の水ニ浸シ置キ(一箇月以上)之ヲ乾カシタル後加工スベシ又脆クシテ薄板用トシテハ折レ易キモノニシテ重量ノ乘ルベキ板類ニハ尤モ研究スベキモノナリ此材質ハ漆器ノ材料トセバ光澤アリテ優美ナリ此材質ハ濕氣ヲ受クベキモノニハ腐朽シ易キヲ以テ使用スベキモノニアラズ

羽前國西置賜郡鮎貝内町

桂農園主 鈴木 佐兵衛

八、「ブナ」ハ一般ニ材木トシテハ腐朽シ易ク板下シテハグルヒ易クシテ其需用薪炭用ニ限ル様認メラ

林産物審査報告 百七十一

レ候得共我山形縣月山ノ麓ニハ用材及板共悉ク「ブナ」ヲ以テ造ラレタル大ナル數百年ヲ經タル堂宇アリ又今日迄同山麓ノ人家ノ造材ハ(ブナ)ヲ用フルモノ多シ依テ思考スルニ(ブナ)ハ乾燥シテ用フレバ建築用ニ充分ノ需用アラン要ハ乾燥シテ市場ニ出シ他木ヨリ廉價ニ販賣セラル、様ノ方
法ヲ講究スルニアルノミト考フ

山形西山生

九、今ヤ山林學上森林ニ關スル研究ハ進歩ノ現象アリブナ樹ノ薪炭用トシテ從來使用シ來リタルハ炭トシテ如何ナル特質ヲ備ヘシカ他樹ニ必ズ優ニテ優等ノ位置ヲ占メシモノナリ比較的善良ノ者ニ過ギズ御省器物ニ是レガ應用セラレテ國ノ爲メ充分ノ盡力セラレシハ深ク不肖ノ感謝スル所ナリ然レドモ其器具ニ製セラレシヤ最近ノ事ニ屬シ其效果ヲ充分ニ認ムルニハ相當ノ年月ヲ待ツテ初メテ眞ノ批評ヲナシ得ベシ材木ノ收縮度並ニ是木ノ特質ハ優劣ヲ慮リ銳意是レガ成績ノ良好ヲ計劃セラレ充分ノ研究ヲ望ム委細ノ希望ハ歸縣後御省ニ報告參考ノ資ニ供セン恨ムラクハ是等職ニアラザル爲メ研究セシ書籍持參セズ故ニ亦木質ニ付善惡ノ特質ヲ詳記セズ依テ後日ニ讓ル

三重縣三重郡興農會菰野村

四區委員 剗職 宇佐美

生絲審查報告

審查官 增田由之

服部宇左衛門

生絲ハ總出品點數三百二十二點人員三百〇八名ニシテ内器械生絲百三十八點座練生絲百八十四點ナリ之レヲ前回出品數ト比較スル時ハ秋田、青森、岩手ノ三縣ニ於テ多少ノ減少ヲナシタリト雖ドモ主催地タル福島縣ノ激増シタルト前回ニ洩レタル宮城縣ノ加入シタルトニ依リテ點數ニ於テ百九十四點人員ニ於テ百九十二名殆ンド二倍以上ノ増加ヲ示シタリ今其ノ詳細ヲ表示スレバ左ノ如シ

縣名	器械生絲	座練生絲	合計
宮城	三八	二二	六〇
福島	四四	一一四	一五八
岩手	一〇	一一三	一二三
青森	九	一一	二〇
山形	二八	四	三二
秋田	九	三九	四八
計	一三八	一八四	三二二

即チ出品點數ノ最モ多キハ福島縣ノ百五十八點ニシテ宮城、秋田、山形、岩手ノ諸縣順次遞減シ青森

縣ノ十一點最モ少ナシ

以上ノ出品生絲ハ肉眼審査ヲナシ又悉ク器械審査ニ付セリ蓋シ器械審査ヲ重要視シタレバナリ而シテ器械審査ハ横濱市ニ設ケラレタル生絲検査所ニ於テ之レヲ施行シ更ニ製産額市價出品數量等ヲ審案シ全成績中百二十八點ヲ選出シ之レガ擬賞ヲナセリ即チ左表ノ如シ

縣名	出品點數	擬賞				數合	計	出品點數ニ對スル擬賞割合
		一等	二等	三等	四等			
宮城	六〇	二	六	八	九	二五	四二	
福島	一五八	一	二	七	九	五九	三七	
青森	一一			一	三	二二	二二	
山形	三三		七	一	三	一四	三六	
秋田	四八	六	一	二	七	一六	三三	
計	三三二	六	一六	二七	七九	一二八	四〇	

即チ總出品點數ニ對スル擬賞割合ハ四割ニシテ山形縣ノ六割六分擡ンデテ多ク宮城、福島、青森、秋田ノ諸縣順次遞減シ岩手縣ノ二割三分最モ少シ

以上審査ノ成績ニ依リ各縣出品生絲ニ就キ概評ヲ試ムベシ

宮城縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲三十八點座線生絲二十二點合計六十點其ノ出品人員五十二名ナ

リ出品物ハ概シテ白味強ケレドモ澤少ナク觸感粗軟ナリ東裝ハ束絲拵造共ニ佳ナリト雖ドモ緒留力絲ノ不完ナルモノ多シ即チ緒留ノ全ク缺除シタルモノ又総端ノ一小部分ニ緊結シ發見シ難キモノアリ其ノ他絹絲ヲ以テ力絲トナシタルモノ數十點ノ多キヲ示セル等整理上ノ缺點ハ宜シク改善ヲ要スベキ所ナリ又器械審査ノ成績トシテハ再練織度強伸力ノ比較的優良ナル成績ヲ表ハセリ然レドモ其ノ目的織度ヲ過ルモノ少ナカラザルハ線絲上多大ノ注意ヲ拂フベキナリ

福島縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲四十四點座線生絲百十四點合計百五十八點出品人員百五十四名ニシテ聯合縣中最多額ヲ占ム出品物中器械生絲ニ在リテハ概ネ稍々褐色ヲ帶ビ澤光ニ乏シク且ツ手觸軟弱ニシテ抱合不良ナリ殊ニ出品數ノ大部分ヲ占ムル座線生絲ニアリテハ僅カニ色澤ノ佳良ナルモノアリト雖ドモ概シテ徒ラニ絲色ノ強白ヲ努メ爲メニ絲質ヲ軟弱ナラシメタルガ如キハ著シキ缺點ナリトス東裝ハ折返造多ク捻造リナルモノハ僅カニ三四十點ニ過ギズ共ニ其技拙ニシテ原態ヲ保持シ絲織ノ整齊セルモノ少ナシ此ノ點ニ於テハ折返造殊ニ甚ダストス宜シク金盃造以上ニ改ムルヲ要ス其ノ他稜角ノ固着甚シク爲メニ再練ニ際シテ絲條ノ切斷ヲ多カラシメタルモノ緒留絲ノ小サキニ過ギ又ハ所在不明ノモノ少ナカラズ其ノ他類節ハ其ノ數少ナクシテ賞スベキ點ナリト雖ドモ織度ハ整齊ヲ缺クノミナラズ其ノ目的織度ヲ誤リタルモノ多シ此等ハ線絲上特ニ注意ヲ要ス

岩手縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲十點座線生絲三點合計十三點其ノ人員十二名ニシテ出品物ハ概

シテ茶褐色ヲ帶ビ澤乏シク且ツ齊一ヲ缺ケリ而シテ抱合不良ニシテ觸感粗硬ノモノ多シ又認ノ整理ハ甚ダ拙劣ナリ器械審査ノ成績ニ依レバ織度ノ整齊ヲ失シ類節ノ多キハ缺點ナリ宜シク改善ニ留意スベシ

青森縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲九點座線生絲二點合計十一點其ノ出品人員十一名ナリ出品物ハ概シテ其ノ色合白ケレドモ澤光ニ乏シク且ツ手觸軟弱ナリ認ハ梓角固着シ絹絲ヲ用キタルモノアリ敗ムベシ又織度ハ不齊ナルモノ多ク且ツ目的織度ヲ過レルモノ少ナカラズ類節多ク伸度乏シキハ宜シク線絲上注意スベシ

山形縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲二十八點座線生絲四點合計三十二點人員三十二名ニシテ出品物ハ概シテ色合稍々褐色ヲ帶ビ齊整ニシテ澤光佳良觸感滑カニシテ抱合密着セル優品甚ダ多シ然レドモ座線生絲ハ概ネ品質不良ナリ束裝ハ稍々佳ナリト雖モ又括絲及編絲ニ青色ノ絹絲ヲ用キタルモノアリ之レ虚飾タルノミナラズ轉線ノ作業ヲ害スルナリ又力絲ノ太キニ過ギタルモノ絡留絲ヲ失シタルモノ等アリ須ラク改善スルヲ要ス器械審査成績ハ概ネ優良ナリト雖モ其ノ目的織度ト遠隔セルモノアルハ大ニ遺憾トスル所ニシテ宜シク留意スベキナリ

秋田縣 本縣ノ出品點數ハ器械生絲九點座線生絲二十九點合計四十八點其ノ出品人員四十七名ニシテ出品物ハ色澤褐色ヲ帶ビ整齊ナリ然レドモ觸感稍々粗硬ニシテ抱合宜シカラズ束絲ハ拙劣ニシテ結

東ニ適セズ認最大ニシテ且ツ乾燥不良ナリ其ノ他力絲ノ太キニ過グルモノ梓角ノ固着セルモノアリテ認ノ整理上缺點少ナカラズ再線中切斷少ナク織度亦稍均齊ナレドモ類節多シ表繭線絲上注意ヲ要ス今參考ノ爲メ器械検査ノ成績ヲ掲グベシ

縣名	絲別	點數	再線中切斷數			織度			類節		強力	伸度
			平均	最多	最少	平均	最多	最少	大	小		
宮城	細	二〇	二	五	〇	九七九	一四三	二二五	一	五	三六二	二〇九
	中	二二	一	四	〇	一一三二	一四六	三三三	一	一〇八	四五四	二一八
	太	一九	〇	三	〇	一四二七	二〇七	三二五	一	一一四	五二一	二二三
	細	六六	一	九	〇	一〇〇八	一六三	五〇〇	二	四八	三六〇	二一三
福島	細	六六	一	五	〇	一一三九	一七二	三二五	二	六〇	四三六	二一七
	中	二八	一	九	〇	一四九六	二二二	五〇〇	二	八三	五二九	二二三
	太	六四	一	五	〇	一一二九	一七二	三二五	二	六〇	四三六	二一七
	細	二八	一	九	〇	一四九六	二二二	五〇〇	二	八三	五二九	二二三
岩手	細	一	二	一	〇	一一〇	二〇〇	一	一	三九	三七〇	二二〇
	中	五	〇	二	〇	一二四八	二四五	五〇〇	一	一〇六	四二六	二二六
	太	六	一	四	〇	一五八三	二五八	三三〇	六	六四	五五七	二三三
	特太	一	〇	〇	〇	一七六五	四二五	一	一	四八	六〇〇	二四〇
青森	細	五	一	三	〇	一一〇六	一八〇	二五〇	一	一四三	三六四	二二四
	中	三	一	〇	〇	一一〇六	一八〇	二五〇	一	一四三	三六四	二二四
	太	二	〇	〇	〇	一八八〇	一七五	二〇〇	二	二四八	六八〇	二四〇
	特太	一	〇	〇	〇	一八八〇	一七五	二〇〇	二	二四八	六八〇	二四〇

秋田			山形			
太	中	細	特太	太	中	細
三三	三三	三三	二	二〇	四	六
一	二	一	二	〇	一	一
六	六	二	四	二	二	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四、五一	一二、五三	一〇、九三	二〇、七五	一四、四一	一一、二五	一〇、一〇
一六、九	一八、三	一五、八	五、二五	一、八一	一、三一	一、五四
三二、五	三七、五	二五、〇	八、〇〇	三、〇〇	一、五〇	二、〇〇
〇、五〇	〇、七五	一、〇〇	二、五〇	〇、二五	一、〇〇	〇、七五
二	一	五	一三〇	一	一	一
一三八	一〇三	一一三	八三	一〇四	一八四	一〇〇
五四、六	四五、二	三八、三	七三、五	五五、五	三九、六	二二、三
二二、〇	二二、四	二二、〇	二、四〇	二、四〇	二、三三	二、〇七

已上今回ノ審査成績ニ照シ將來ニ於ケル希望ヲ序説スレバ左ノ如シ

一色澤 元來生絲ノ色澤ハ其ノ品質ヲ標榜スル唯一ノ要素タルヲ以テ製絲用水ノ選定乾蒸貯藏煮繭繰絲揚返等ニ注意シテ原質固有ノ色澤ヲ發揮スルニ勉ムベキナリ然リト雖モ勉メテ白カラシムルガ如キハ其ノ當ヲ得タルモノニアラズ宜シク之レヲ避クベシ

一束裝 之レガ目的トスル所ハ絲縷ノ紊亂スルヲ防ギ運搬取扱上ノ便ト併セテ商品タルノ美ヲ具備スルヲ要ス今回出品生絲中捻造及括造良美ナルハ僅カニ山形、宮城ニ縣下ノ出品ニ見ルノミ折返法ハ絲條ノ整理ヲ保ツ上ニ於テ完キヲ得タルモノニアラズ宜シク改造一定スルヲ要ス

一緒留 緒留ハ鍍角ヨリ一寸五分以内ノ所ニ於テ上緒ヲ五六折ニシ少シク擦ヲ加ヘ縷巾二分ノ一ヲ割リ編絲ニ近ク沿フテ之レヲ回繞シ下緒ト合セテ縷ノ右耳ニ留ムルヲ以テ適良トナス又終絲ヲ輪トナシ

編絲ニ編込マシムルモ亦可ナリ

一力絲 力絲ハ縷ノ形態ヲ保持シ絲條ノ紊亂ヲ防グ爲メニ行フモノナレバ敢テ絹絲ヲ用キ又ハ力絲ニ着色スルノ要ナキノミナラズ却テ之レガ爲メニ生絲ヲ汚染シ又ハ編絲ヲ切ラントスルニ際シ絲條ヲ損傷スルノ恐レアリ故ニ力絲四十二番手晒シ双子絲ヲ以テ鍍角ヨリ二寸五分ヲ離レタルニケ所ニ相對シテ五編ミ若シクハ四編トナスベシ此ノ如クセバ編絲ノ捻絲ノ外部ニ露出スルヲ防グ事ヲ得ベシ

一鍍角 鍍角ハ適度ニ固着セシメ過不及ナキヲ要ス指頭ヲ以テ鍍角部ヲ壓シ固着ノ離レ得ルヲ適度トス今回ノ出品物ハ概シテ其ノ當ヲ得タルモノ尠ナク座繰生絲中ニハ甚ダシキ固着ノモノ多カリシ宜シク注意スベシ

一絡交 現今絡交ノ適度ハ絡交桿一往復ニ對シ大棒ノ回轉數一回四五分餘トセリ之等ハ僅カニ一部器械ノ改造ニ依リテ事足ルモノナルヲ以テ宜シク之ニ倣フベシ

一總量及總長 一縷ノ絲量ハ八匁乃至十匁ヲ標準トシ二縷ヲ合セテ一本ノ捻造リトナスベシ又一縷一捻ノモノナレバ十七八匁乃至十九匁ヲ適量トス總量重キニ過グレバ乾燥不良再繰困難ニ陥リ易シ總長ハ四尺九寸乃至五尺ヲ以テ適當トス

一再繰 再繰中切斷ノ多寡ハ主トシテ絲條不齊鍍角ノ固着抱合ノ不良或ハ失緒セルモノ等ヨリ來ル今回出品生絲中切斷ノ多キハ織度ノ不均鍍角ノ固着之レガ主因タリ殊ニ折返生絲ニ在ッテハ之レニ加フ

ルニ絡交ノ粗麗又ハ縹中ノ切斷絲多キガ爲メナリ宜シク鑑ミテ之レヲ避クルニ努ムベシ
 一織度 織度ハ生絲ノ品位ヲ表證スベキ要素ナリ故ニ練製ニ從フモノハ先ヅ目的ノ織度ヲ定メ其ノ均
 齊ヲ保タンメザルベカラズ今回出品生絲ノ織度ハ稍々整齊ト謂フヲ得ベシ然レドモ目的織度ニ至リテ
 ハ之レヲ過ルモノ多ク甚ダシキハ五デニール以上ニ達セルモノアリ大ニ斯業者ノ注意スベキ點ナリト
 ス

一類節 類節ノ多キハ原繭ノ不良乾燥貯藏ノ不備蒸繭練絲ノ不適等ニ原因ス出品生絲ノ類節ハ比較的
 良成績ヲ示シタリ
 一強伸力 主トシテ原繭ノ優劣抱合ノ良否並ニ絲織ノ細太ニ關係スルモノナリ
 之レヲ要スルニ今回ノ出品生絲ハ器械生絲座練生絲共ニ優品尠ナカラザルハ斯業ノ進歩ヲ示セルモノ
 ニシテ大ニ慶スベシト雖モ尙舊慣ニ拘泥シテ需要者ノ意嚮ニ伴ハザルモノアルガ如キハ遺憾トスル所
 ナリ須ラク經濟的ニ絲質ノ優良ト産額ノ增多トヲ期シ以テ貿易品タルノ資格ヲ完備スルニ努ムベキナ
 リ

眞綿審査報告

眞綿ハ出品總數二百八點出品人員二百一名ナリ審査ノ方法ハ色澤、形狀、張力、調製ノ如何ヲ觀察シ
 出品者ノ狀況等ヲ調査シ其優劣ヲ判定セリ其出品點數左表ノ如シ

縣名	出品點數	出品人員
宮城縣	二六八	二四八
福島縣	一八六	一八六
岩手縣	二九六	二六六
青森縣	二二九	一九六
山形縣	二二	一九
秋田縣	一〇八	一〇一
合計	一〇八	一〇一

即チ出品點數ノ最モ多キハ山形縣ノ二十九點ニシテ福島、秋田、岩手、宮城ノ諸縣順次之レニ次ギ青
 森縣ノ六點最モ少シ而シテ審査ノ結果優等品ヲ選出シ擬賞シタルモノ十四點ニシテ出品總點數一百八
 點ニ對シ一割三分弱ニ當レリ今各縣ニ於ケル受賞者數及ヒ出品點數ニ對スル受賞ノ割合ヲ縣別シ比較
 セバ左表ノ如シ

縣名	擬賞等級				出品點數ニ對スル擬賞割合
	一等	二等	三等	四等	
宮城縣	二	四	一	二	二五
福島縣	一	一	一	一	一九
岩手縣	一	一	一	一	〇六
青森縣	一	一	一	一	一七

生絲審査報告

山形縣	1	1	1								
秋田縣	1	1	1								
合計	2	2	2						0	1	0
									0	9	

百八十二

前表示ス所ニ由リテ之ヲ觀レバ授賞點數ノ割合最モ多キハ宮城ニシテ福島之ニ次ギ青森、山形、秋田又之ニ次グ而シテ岩手最モ少シ

今審査ノ成績ニ基キ各縣出品眞綿ニ對シ是レガ概評ヲ下スコト左ノ如シ

福島縣 本縣ノ出品點數ハ二十六點ニシテ色澤純齊形狀整一調製良美ナルモノ多シ然レドモ只徒ラニ色合ヲ強白ナラシメンコトヲ欲シ却テ張力ヲ害シタルモノアルハ本縣出品眞綿ノ缺點ナリトス宜シク精練ニ注意ヲ加フルヲ要ス

山形縣 本縣ノ出品點數ハ二十九點ニシテ成品ハ概シテ緊張力ニ富ムト雖ドモ稍々色光ニ乏シク暗褐色ヲ帶ビ調製ノ可ナラザルモノアリ宜シク精練ト水洗ノ方法ニ注意シ感觸ヲ滑カニシテ浮光ヲ放タシメンコトニ勉ムルヲ要ス

秋田縣 本縣ノ出品點數ハ二十一點ニシテ品質ノ優良ナルモノ少シ概シテ調製區々ニシテ厚薄齊一ヲ缺キ張力ニ乏シ出品解説書ノ示ス所煮練ニ時間餘ニ互ル如キハ過煮ナリト謂フベシ宜シク改ムベシ
岩手縣 本縣ノ出品點數ハ十八點ニシテ色澤概ネ褐色ヲ帶ビ整齊ヲ缺キ綿條紊亂シ緊張力乏シキハ過

練ノ結果ナルベシ宜シク煮熟ヲ適當ニシ且ツ水洗ニ注意スベシ

青森縣 本縣ノ出品點數ハ僅カニ六點ニシテ六縣中最モ少數ナリ本縣ハ斯業ノ發達幼稚ナルヲ以テ素ヨリ優良ナル出品ヲ望ムベカラズト雖ドモ出品眞綿ハ概ネ褐色ヲ帶ビ張力ニ乏シク調製宜シカラズ宜シク練液ノ濃淡ト水洗トニ注意ヲ加フベシ

宮城縣 本縣ノ出品點數ハ八點ニシテ其出品物中優良品トシテ見ルベキモノナキモ澤光ノ佳良ナルハ福島縣ニ亞ギ調製法亦佳ナリ然レドモ緊張力ノ少ナキハ其缺點ナリトス宜シク改善ヲ謀リ尙進ンデ其産額増進ヲ計ルベキナリ

染織物審査報告

第一章 總說

審査官 山口 貴 雄

奥羽六縣ハ米澤、仙臺、川俣、秋田等舊來ノ機業地ナキニアラザルモ其他ハ比較的進歩ノ產地ニ屬セルモノ多ク縱令舊來ノ產地ニ於テモ其ノ業隆盛ナラズ僅ニ各藩ノ名産トシテ珍重セラル、ニ過ギザリシガ維新後各縣共ニ斯業ノ發展ヲ企圖シ其施設ノ完整ニ向テ大ニ努力スルモノ、如シ即チ宮城縣ニ於テハ染織技師ヲ置キ羽二重ノ精練、力織機ノ普及等ニ關シテ多大ノ補助ヲ縣費ヨリ支出シ岩手縣ニ

染織物審査報告

於テハ染織講習所ヲ設ケテ技術ノ傳習ト普及ニ勉メ又染織技師ヲ置キ當業者ノ指導ニ當ラシメ青森縣ニ於テハ染織技師ヲ置キ巡回講話或ハ講習會ヲ開キ山形縣ニ於テハ工業學校ヲ設置シ人材ノ養成ヲナスト同時ニ斯業ニ關スル試驗研究ヲナシ又染織業ニ對シ多大ノ補助ヲ縣費ヨリ支出スルガ如キ福島縣ニ於テハ工業試驗場及工業學校ヲ置キ致々トシテ斯業ノ獎勵ニ勉メツ、アリ獨リ秋田縣ニ於テハ未ダ染織業ニ關シ何等ノ施設ヲナスニ至ラザルノミ今最近五箇年間ニ於テ染織業ノ爲メニ支出シタル勸業費ノ重ナルモノヲ調査スルニ左ノ如シ

縣名	宮城縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	秋田縣
明治四十年	一一四七五	一五二七三	八二九五		一〇七八〇	
明治三十九年	五〇二二	一五八二二	八五七七		一四六一一	
明治三十八年	三、七七六	一三二四八	八六五三		一四、八三〇	
明治三十七年	四九〇〇	一六二五六	八六八〇		一、七〇〇	
明治三十六年	五五〇〇	二一三三三	一〇、三四二		二四、二九五	

同業組合ハ斯業發展上必要ナル機關ナルニ拘ラズ宮城、福島、山形三縣ノ外ハ未ダ其ノ設置ヲ見ルニ至ラズ産業組合ニ至ツテハ一層其ノ甚ダシキヲ感ズ蓋シ小規模ニシテ資本ノ豊富ナラザル多數ノ當業者ヨリ成レル機業地ニ於テハ此等組合ノ設置ヲ最モ必要トスルモノナルニ未ダ其ノ機運ニ接到セザルハ惜シムベキ事ナリ今奥羽六縣ニ於テ染織業ニ關スル施設ノ主要ナルモノヲ統計スレバ左ノ如シ

勸業費	同業組合	産業組合	工業學校	講習所	試驗場	技師
宮城縣	二	一				
福島縣	一五、二七三	四	縣立	縣立	縣立	三
岩手縣	八、二九五		縣立			
青森縣						
山形縣	一〇、七八〇	五	縣立	縣立		
秋田縣						

次ニ各縣ノ染織物産額ヲ調査スルニ最近三箇年ノ統計左ノ如シ

縣名	三十九年	三十八年	三十七年
宮城縣	六一九、七六九	四八四、九〇九	六五六、八五八
福島縣	五、一九九、四七九	五、〇七〇、一二六	四、六二二、〇二二
岩手縣	六九、九四五	六六、三三三	九五、三五八
青森縣	一一〇、三七〇	七四、四四四	八七、七二八
山形縣	三、二六八、二九〇	二、一七三、一三七	一、六七〇、九〇三
秋田縣	一八一、二八七	一二九、三九三	一八一、八一三
計	九、四四九、一四〇	七、九九八、三三二	七、三一四、六八三

實際ニ於テハ以上ノ統計ニ洩レタルモノ多少之アルベキガ故ニ奥羽六縣ヲ通ジテ現時染織物ノ産額先
ヅ一箇年一千二百萬圓ト概算スルコトヲ得ベシ更ニ之ヲ内譯スレバ輸出羽二重類六百萬圓其他ノ染織
物六百萬圓ナリトス之ヲ要スルニ奥羽ノ染織業ハ年ヲ逐フテ漸次産額ヲ増進シツ、アルハ事實ナリ而
シテ總テノ關係ニ於テ宮城、福島、山形ノ三縣ハ常ニ其ノ覇權ヲ握リ施設、機關モ亦比較的完整ニ近
キヲ見ルヲ得ベシ

奥羽ノ染織業ニ影響ヲ與ヘタル事績ヲ數フルニ際シテハ力織機ノ發明ナル事實ヲ忘ルベカラズ願レバ
明治三十一年山形縣鶴岡町齋藤外市氏が力織機ヲ發明シ特許ヲ得齋外式ト稱シテ諸ヲ世ニ公ニシテヨ
リ羽二重ニ力織機ヲ利用スル聲漸ク高マリタリシヲ以テ二階堂、平田、武田、大橋、高柳、千葉、遠
藤、徳山等諸式ノ力織機ノ發明踵ヲ接シテ起リ今日ニ於テ力織機ノ利用ハ奥羽六縣ヲ通ジテ其臺數ニ
千基以上ヲ算スルニ至レリ斯クノ如ク力織機ノ普及ニヨリテ奥羽羽二重ノ品位ヲ一整シ製産費ヲ低廉
ニシ勞力ノ効果ヲ増加シタル結果前途ニ向テ斯業ノ好望ナル事ヲ證明スルニ至リタルハ誠ニ喜バンシキ
現象ニシテ今回ノ出品ニ於テ歷々之ヲ徴知スルコトヲ得タリ

力織機ノ効果ハ獨リ羽二重ニ於テ之ヲ認ムルノミナラズ木綿織ニ於テモ亦然リトス即チ宮城縣ニ於テ
ハ仙臺模範機業場起リ木本式力織機ニヨリテ白木綿ヲ製産シ福島縣若松市ニ於テモ亦然リ、山形縣ニ
於テハ先年米澤輸出織物模範工場ヲ起シ「タフタ」ノ製織ヲ始メ近來又絹「モスリン」ヲ製出スルニ至レ

リ又岩手縣ニ於テハ盛岡市ニ力織機ニヨリ絹木綿ヲ織出サントスルノ計畫アリ、夫レ斯クノ如ク奥羽
ノ染織業ハ從來ノ如ク舊ニ農家ノ副業又ハ手内職ニ行ハル、ノミナラズシテ純然タル工業トシテ成
立セントスルノ傾向アルハ近來ノ一現象トシテ記憶セザルベカラザルコトナル可シ

奥羽綿織物ノ改良發展上足踏織機ノ應用ハ最モ適切ナル方法ナルベキニ一ニ當業者が試験的ニ之ヲ使
用シタルニ止マリ廣ク之ヲ應用スルニ至ラザルハ不審ニ耐ヘザル處ナリ遠州縞、伊勢縞、播州縞ノ如
キハ盛ニ之ヲ利用シツ、アリ而シテ是等ノ綿織物ハ多ク奥羽地方ノ需用ナルヲ思ハ、足踏織機利用
ノ利害ハ炳乎トシテ明カナルニアラズヤ、其他繰返機ト云ヒ管卷機ト云ヒ整經機ト云ヒ相當ノ方法ヲ
立テ、其ノ應用ヲ促シタランニハ左迄困難ノ業ニアラザルベシ縣當局者ノ猛省ヲ祈ルモノナリ

今回ノ出品ニ就テ特ニ注意ヲ惹キタルハ舊來ノ製産ハ措置キ福島縣ノ染物、山形縣ノ酒田染、臈月緋、
「シフオン」(米澤絹織物模範工場製)宮城縣ノ「セル」、白木綿(仙臺模範機業場製)岩手縣ノ後染縞子等
ニシテ何レモ物産トシテノ價值ハ未ダ大ナリト云フベカラザルモ此等ノ新製品ガ現ハル、ニ至リタル
ハ兎ニ角一段ノ進歩トシテ慶スベキ事ナル可シ其他綿織物類ハ未ダ廣ク縣外ニ販出スルニ至ラザルノ
ミナラズ其産額モ亦未ダ多カラザレドモ品質ノ一齊ヲ來シタル點ニ於テ稱揚スベキハ岩手縣及山形縣
(山縣市及其附近)ニシテ將來多少ノ指導ヲ加フルニ於テハ發展ノ餘地アルモノハ福島縣ノ坂下縞、會
津縞、秋田縣ノ横手木綿等ナリトス而シテ其詳細ニ至リテハ他ノ審査官ノ報告ヲ参照スベシ

之ヲ要スルニ奥羽六縣ノ染織業ハ、年一年ニ發展シツ、アルコトハ事實ノ證明スル處ニシテ將來ニ於テモ主トシテ獎勵スベキハ斯業ニアルコトヲ信ゼズンバアルベカラズ即チ氣候ノ關係ニ於テ冬季ヲ經濟的ニ利用スベキハ戸内ノ工業ニシテ就中染織業ハ最モ適當ナルモノナリトス是レ其ノ理由ノ一ナリ、農業ノ副産トシテ獎勵スベキ工業ハナルベク簡易ニシテ素養アリ且ツ製産後直ニ之ヲ販賣スルニ容易ナルモノヲ選擇セザルベカラズ此點ニ於テ染織業ノ如キ當ニ然ルベキモノナリトス是レ其ノ理由ノ二ナリ、原料豊富ナルカ若クハ之ヲ得ルニ容易ナル工業ナラザルベカラズ而シテ奥羽ハ蠶絲ノ業盛ニシテ他地方ヨリ比較的低廉ナル價格ヲ以テ生絲ヲ購求シ得ベク又綿絲ト雖モ交通機關ノ整頓セル今日ニ於テハ東京若クハ大阪ヨリ自由ニ其供給ヲ仰ギ得ベシ是レ其ノ理由ノ三ナリ、奥羽ニ於ケル農業ノ利益ハ他地方ニ比スレバ極メテ僅少ナルガ故ニ他ノ副業ニヨリ之ヲ補充セザルベカラザル状態ニアリ是レ其ノ理由ノ四ナリ、奥羽地方ハ近來鐵道ニヨル運輸交通便ナルニ至リタレドモ他地方ニ比スレバ運賃高價ナリ是レ他地方ノ如ク船運ニヨル能ハザルニヨルモノニシテ運賃ニ多額ノ費用ヲ要スルガ如キ工業ハ容易ニ發展スルモノニアラス依テ染織業ノ如キ比較的運賃ヲ要セザルモノヲ企畫セザルベカラズ是レ其ノ理由ノ五ナリトス夫レ斯クノ如ク染織業ヲ獎勵スルトキハ農業ノ發展ヲ妨グベシトノ杞憂ヲ懷クモノアルモ是レ大ナル謬見タルベシ抑モ奥羽ノ振ハザル原因ハ種々アルベシト雖ドモ其ノ住民勤勉ノ性ヲ缺クハ其ノ最タルモノナルベシ而シテ此勤勉ナラザル所以ハ土地ヲ原資トスル事業即チ農業ノ外ニ富ヲ作ルノ方法ナシトスルノ妄信ト氣候、運輸其他ノ關係上他地方ノ如ク勤勞ニ伴テ充分ナル報酬ヲ得ルノ確信ヲ缺キタルニヨルナルベシ故ニ簡易ナル工業ヲ起シ勤働即チ富ナリトノ實例ヲ示スハ彼等ノ不勤勉ヲ矯正スル唯一ノ手段ニシテ工業ヲ獎勵スルハ即チ農業ヲ獎勵スル所以ナルヲ信ズ

終リニ臨ンデ附記シ置キタキハ審査事務ニ關スル要領是レナリ請フ左ニ其二ニテ語ラン
出品解説書並ニ同業組合ノ説明等ハ比較的正確ニシテ信據スベキモノ多カリシハ出品審査上大ニ便宜ヲ感ジタル一ナリキ

審査員ハ聯合縣内ヨリ十二名東京ヨリ一名ヲ採用シタルヲ以テ各地方ノ狀況ヲ詳知スルノ便宜アリテ前同ノ如ク聯合縣外ノミヨリ採用シタルト審査上ノ便否較セズンテ明ナリ、只將來採用上注意スベキハ徒ラニ地方的感情ニ偏シテ公平ナル職責ヲ守ルノ志操ナキ人物ヲ排スベキノミ
審査場ノ設備ハ稍秋隘ヲ感ゼシモ別ニ一室ヲ獨占シタルヲ以テ左迄不便ヲ告ゲザリキ
審査結了後審査員ヲ集メ各地方染織業ニ關シテ講習ヲ加ヘタルニ益スル處少ナカラザリキ、今後共這般ノ會合ヲ開催シテ斯業ノ發展ニ資センコトヲ望ム

第二章第十七類 染物

審査官 近藤 只三

染物ハ聯合各縣共多少ノ出品アラザルハナク之ヲ縣別ニスレバ山形縣第一ニ位シ宮城縣第二位ヲ占メ秋田、福島、岩手、青森ノ各縣之ニ次グ而シテ總出品點數四百八十六點人員一百十三人ナリ之ヲ前同ニ比スルニ點數ニ於テ三十三、人員ニ於テ十六ノ増加ヲ示シタルガ如キモ前同ニ於テハ宮城縣獨リ聯合ヲ辭シタリシヲ以テ今同ニ於テモ宮城ノ出品一百三十八點十八人ヲ減ズレバ點數並ニ人員ニ於テ反テ前同ヨリ減少セルノ結果ヲ呈セリ然リト雖モ今出品ニ就テ仔細ニ觀察スルニ技術ノ進歩シタル品質ノ改善セラレタル點ニ於テハ復カニ前同ヲ凌グモノアリシハ喜ブベシ而シテ審査擬賞ノ結果一等賞二、二等賞五、三等賞十三、四等賞二十五、總計四十五名ノ受賞者ヲ出セリ之ヲ前同ニ比較對照セバ即チ左表ノ如シ

縣名	出品點數		出品人員		一等	二等	三等	四等	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
	前同	今同	前同	今同						
宮城	一三八	一三八	一八	一八	—	—	—	—	一八	四四
福島	六八	六八	九	九	—	—	—	—	九	四一
岩手	三三	三三	三	三	—	—	—	—	三	三三
青森	二二	二二	二	二	—	—	—	—	二	三三
計	一三六	一三六	一三	一三	—	—	—	—	一三	四四

縣名	出品點數		出品人員		一等	二等	三等	四等	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
	前同	今同	前同	今同						
山形	一四一	一四一	三五	三五	—	—	—	—	三五	四二
秋田	一七三	一七三	一五	一五	—	—	—	—	一五	二八
計	三一四	三一四	五〇	五〇	—	—	—	—	五〇	三六

今出品ニ就テ概評スルニ染物ノ原料トシテハ勿論絹布及綿布ノ二種ニシテ總出品中唯僅カニ一點ノモスリン形付ヲ見タルニ過ギズ次ニ意匠配色等ニ於テモ地方人ノ嗜好ハ一般ニ比較的精巧ナル品種ニアラズシテ寧ロ粗野質朴ニシテ一見丈夫向キノモノヲ選ブノ風アルヲ以テ華麗ナル色合ノモノ少ク紺地物大部分ヲ占メ友禪類ノ如キモ尙且斬新優美ナル意匠ニ乏シカリキ

想フニ奥羽六縣ノ染色工業ハ尙未ダ幼稚ノ域ヲ脱セズ其規模多クハ狹小ニシテ受托染ヲ主トシテ徒ラニ舊慣ヲ墨守スルノ結果廣ク他近方ト輸贏ヲ争フノ域ニ達セザルハ吾人ノ深ク遺憾トスル所ナリ當業者タルモノ今同ノ受賞ニ甘ンズルコトナク發奮努力ヲ玆ニ致シ益々其發展ヲ期センコトヲ望ム

宮城縣 本縣出品ノ主ナルモノハ常盤紺形ニシテ本縣總出品百三十八點ノ約三分ノ二強ニ達シ之ニ次グヲ黒紋付トシ友禪、小紋ノ類ハ極メテ少數ナリ(紺形九九、黒紋付一五、友禪一一、小紋五、裏地四)

常盤紺形ハ土粉ト稱スル一種ノ粘土ヲ灰粉若クハ生灰ト混ジテ防染糊トシ藍及人造藍ヲ用キテ染色シタルモノニシテ其產額現下三十五萬圓ヲ算シ本縣産業ノ一タルノ地位ヲ占ムルノ状態ニアリ出品ハ意

匠模様巧ナジズト雖モ最上清三ノ出品ノ如キ模様ニ絞リヲ配シ或ハ噴霧器ヲ應用シテ霜降リヲ作リタル等苦心ノ蹟認ムベキモノアリ且在來本品ノ材料タル白綿布ハ之ヲ他縣ニ仰ギタルモ昨年以來其製織事業縣内ニ起リタルヲ以テ將來染色業者ハ機業者ト相提携シ特ニ意匠ノ案出染色法ノ改良ニ専心怠ルナクンバ益々有望ナルベキヲ信ズルナリ

福島縣 本縣出品ノ主ナルモノハ福島市ノ友禪、小紋類白河地方ノ黒紋付ニシテ尙此他ニ少數ノ更紗及信夫摺等ノ出品アリテ計六十八點ナリ（黒紋付二三、友禪二三、小紋九、更紗及染掛五、信夫摺其他二八）技術上ヨリ觀察スレバ出品中最優ノ品種ハ絹布黒紋付ニシテ須藤儀兵衛、永瀬寅松ノ出品ノ如ク色澤、紋部ノ上リ等間然スル所ナキモノ少ナカラザリキ然レドモ概シテ獨リ其整理法宜シキニ適ハズ絹布固有ノ光澤ヲ損傷シタルモノアリシハ惜ムベシ本縣産黒紋付ハ七分ハ縣下ノ需要ニ供シ三分ハ東京ニ販出スト雖モ多クハ受託染ニシテ工業ノ規模大ナラズ、小紋及友禪類ハ技術多少ノ進歩ヲ認ムルト雖モ意匠、配色等特好ニ適セザルモノ多シ

岩手縣 本縣ノ出品ハ總計四十三點（黒紋付一〇、小紋一〇、更紗染掛及拔染九、友禪六、中形四絞リ三、裏地二）ニシテ其中進歩ノ狀顯著ニシテ一驚ヲ値セシハ友禪ナリトス其技優ニ山形縣鶴岡ト對抗スルニ足ルモノアリシト雖モ出品僅少ニシテ未ダ平素ノ技術ヲ明カニシ得ザリシハ遺憾ナリ就中千葉潔ノ出品最モ良シ

黒紋付ハ木綿生地ヲ主トシ色合宜シカラズ且紋部ノ區劃判然セザル等尙大ニ研究ヲ要スベシ紺中形活色中形亦技術拙劣ナリ

岩手縣染織講習所出品中格子柄ニ拔染ヲ應用シタルモノハ技術優秀ナラサルモ學理應用ノ點ニ於テ當業者ヲ裨益スルコト尠少ナラザルベシ

青森縣 本縣ノ出品ハ出品點數二十二點、人員僅カニ三名ニ過ギザルニ其種類雜駁、黒紋付、紺中形、小紋、染掛、絞リ、印半纏等ノ各種類ニ互リ何レモ技工拙劣評スルノ値ナシ唯石井祐助ノ出品稍見ルベシ

山形縣 本縣ノ出品ハ鶴岡ノ木綿裏地、散シ染ト稱スル友禪類、酒田町ノ黒紋付及紅絹、山形市ノ臙月掛ヲ主トシ其他小紋、染掛等ニシテ總點數百四十一ニ達ス（黒紋付二五、木綿裏地其他無地木綿五〇、紅絹四、臙月掛及中形二五、更紗及染掛一一、友禪二一、絞リ二、手拭染三）

小田島運太ノ出品ニ係ル臙月掛ハ前回ノ批評ニ『出品中學理ヲ應用シ技術精巧ノモノニシテ染色堅牢價格低廉ナリ應用後日尙淺キヲ以テ十分ノ製産額ヲ見ザルモ將來有望ノ事業タラン』トアリシ如ク染色意匠共ニ益々進歩ノ蹟ヲ示シ産額増大シ他縣ニ販出スル額少ナカラズ尙益々日進月歩ノ學理ニ後レザランコトヲ期シ改良ノ實ヲ舉ゲンコトヲ望ム

絹黒紋付ハ其製産ハ受託以外所謂店物ニシテ物産ノ態ヲ備ヘ矢澤吉治ノ出品ノ如キハ技術亦優秀福島

縣製品ト伯仲ノ間ニアリ、紅絹亦可ナリト雖モ染色ニ整理ニ尙一段ノ工夫ヲ要スベシ、散シ染ノ中優レタルハ川村兼吉、渡邊市十郎ノ出品ニシテ意匠、配色宜シキニ適ヒ其他尙見ルベキモノナキニアラズト雖モ概シテ斬新ノ意匠ニ乏シク進歩ノ蹟著シカラズ特ニ一揃ノ衣裳タルベキモノニシテ地色ノ染色ニ色合ノ差異ヲ認ムルガ如キハ一大缺點トイフベシ、當業者ノ注意ヲ要ス、裏地類ハ進歩ノ蹟歴然タリ就中池田廣藏出品瓦斯裏地ノ如キハ染色整理共ニ優逸本場製品ニ稍近キモノアリト雖モ唯染料ノ選擇宜シカラズ日光、摩擦ニ不堅牢ナルハ缺點トイフベシ

秋田縣 本縣ノ主ナル出品ハ紺形、紺木綿、黒紋付ニシテ此他中形、裏地、紫根染、落摺等計七十四點ニ達ス(黒紋付一一、紺形一九、紺木綿一〇、絞リ七、友禪四、裏地三、中形二、小紋二、落摺其他一六)

紺形ハ染色意匠共ニ宮城縣出品ニ一籌ヲ輸シ、黒紋付亦拙劣ナリ唯青編代用紺木綿中價格低廉ニシテ見ルベキモノアリト雖モ摩擦ニ不堅牢ナリシハ遺憾ナリ此他敢テ評セズ

以上奥羽太縣ノ出品ニ於テ進歩ノ蹟ヲ示セルモノハ常盤紺形及朧月紺ヲ除キテハ木綿物ニアラズシテ反テ絹布黒紋付及友禪類ノ高等染物ニアルノ状態ヲ呈セリ然レドモ將來益々多大ノ需要アルベキハ裏地其他綿物ニシテ大ニ奨励ヲ要スベキモノ亦蓋シ此品種ニ於テザルベカラズ當業者タルモノ宜シク

此意ヲ體シ奮勵其ノ大成ヲ期スベシ

絹織物及其交織物

審査官 大山清一郎

第一節 總評

絹織物及其交織物ハ聯合各縣共ニ多少ノ出品アラサルナク總計點數一、三六四人員五三三、ニシテ前回ニハ宮城縣聯合ヲ辭セシガ故ニ同縣ノ出品ヲ除キ之ヲ前回ニ比スルニ點數八八人員一七四、ヲ増加セリ今左ニ各縣ニ於ケル出品點數人員ト前回トノ對照表ヲ掲ゲ

出品點數人員表

縣名	今		前	
	點數	人員	點數	人員
宮城	一六〇	六四	—	—
福島	三三〇	一三〇	—	—
岩手	四〇	一六	—	—
青森	—	—	—	—
山形	七四五	二〇〇	—	—
秋田	二〇〇	二〇八	—	—
田	—	—	—	—
合	一、三六四	五三三	—	—
計	—	—	八八	一七四

○印ヲ附セルハ主催縣ナリ

假ニ前表ニ就キ聯合各縣ノ大勢ヲ察スルニ山形縣常ニ首位ニアリ福島縣之ニ次ギ秋田縣ハ宮城縣ニ比シ

シ點數多キニ居ルモ人員ニ於テ及バザル事數等ナルガ故ニ宮城縣ヲ第三位秋田縣ヲ第四位トシ岩手縣ハ以上各縣ト比肩スルニ足ラズ青森縣ハ殆ド皆無ニ近ク他縣ノ列ニ入ラザルモノト稱スベキナリ然リ而シテ此結果ヲ聯合各縣ノ絹織物產額ニ對照スルニ明治三十九年度ノ統計ノ示ス處ハ次表ノ如クニシテ福島縣ノ產額遙ニ他縣ニ超絶セルノ外產額ノ順位ハ出品觀ノ順位ト均衡ヲ保持セルヲ見ル之ヲ要スルニ出品ハ大體ニ於テ其縣絹織物ノ適當ナル代表者ト見做シ之ニヨリテ全斑ヲ窺フモ甚ダシキ錯誤ヲ生ズルコトナキヲ信ズルヲ得ベシ

各縣絹織物產額表(明治三十九年度)

山形縣	二、九三五、五一八
福島縣	四、九八七、三九八
宮城縣	四七七、六三二
秋田縣	七八、四三五
岩手縣	四、九〇〇
青森縣	六三九

尙出品ヲ主要ナル品種別トシテ計表スレバ左ノ如シ

絹織物種類別表

種別	輸出絹織物		着尺柄物					着尺白物					其他		合計
	羽二重	其他ノ絹織	絲織	風通	八丈類	紬類	御召尺	其他ノ着尺	斜子	畝織	羽重	節絹	帶地	袴地	
宮城	五五						二七								一六〇
福島	二一九	五			八		二				五二			二	三三〇
岩手					三									三	一六
青森											二			五	七
山形	三三	一三	八〇	一三	二二	五七	一六二						八一	七〇	七四三
秋田					一六四									五	二〇八
小計	三〇八	二〇	八五	一三	一六四	二二二	一九一	一六	二二	一七	一五	五四	八二	一三六	一、四六四

即チ絹織物各種ニ就キ其地方觀ヲ爲スニ輸出羽二重ハ福島縣下各地ヲ合セテ最モ多ク山形縣莊内、宮城縣各地ノ産之ニ次ギ其他ノ輸出向絹織物ハ山形縣米澤市ニ少數出品アリシ外他縣ニ一二點ヲ見シノミ内地向織物トシテハ米澤市ノ絲織類其他ノ着尺柄物帶地及ヒ袴地ヲ初メトシ長井町附近ノ紬緋福島縣信達地方ノ節絹若松市ノ絹斜子類ノ着尺白物宮城縣ノ仙臺平秋田縣ノ八丈及畝織等其主ナルモノニシテ聯合縣各地方毎ニ各獨特ノ長所ヲ有シ品種自ラ異ナリ輸出羽二重ヲ除キテハ殆ド競技的ノ態度ニアルモノナシ

上來叙述シタル如ク奥羽六縣ノ絹織物ハ各縣皆其製產品種ノ共通セルモノナキガ故ニ出品審査ニ關スル批評ハ縣別ニヨラズ品種毎ニ各評スベシ今先ツ茲ニ一般ニ就キ所見ヲ開陳セントス
抑モ奥羽地方ハ早ク蠶桑ノ業發達セルガ故ニ蠶絲ノ供給充分ニ且ツ天然ノ地形ハ水力ニ依リテ無限ノ動力ヲ供給シ加フルニ生活程度低クシテ工費廉ナルト冬期ニ於テ郊外田園作業ヲ廢セザルヲ得ザルトハ絹織工業ノ發達ヲ誘起スベキ條件ヲ具備セルモノト云フベク近來福島宮城山形三縣ニ於ケル輸出羽二重業ノ勃興ヲ見ルモ又之ニ職由スルヲ知ルベシ然ルニ内地向絹織物ニ至リテハ奥羽各縣ノ綿織物及染物が現時ニ於テハ殆ド全部地方ノ需要ヲ充タシ專ラ他地方ノ輸入ヲ防歴スルニ汲々タル有様ナルト異リ主トシテ他地方ニ供給スベキモノナルニ拘ラズ其製品ハ奥羽の趣味ヲ脱セズ輸出羽二重以外ノ絹織物ガ他府縣ノソレニ比シテ發展頗ル不振ノ状態ニアルモノヲ決シテ偶然ニアラザルナリ夫レ奥羽ノ地

タル本邦ノ北邊ニ當リ絹織物消費地ト懸隔セル事他ノ機業地ニ比シ甚ダシク勢流行ニ遅レ時好ニ適中シ難キ不便アリ加之地方人士ノ風習ハ積極的發進ノ性ニ乏シクシテ消極的耐力旺盛ナルノ傾向ヲ有シ爲メニ往々自ラ窮地ニ陥ルノ事實アルハ其製品ノ上ニ表明スル處ナリ是レ各種工業ノ發展常ニ他地方ノ後ニ落ツルノ已ヲ得ザル深因ト稱スルヲ得ン故ニ曰ク東北地方ノ當業者ハ他地方以上ノ勵精努力ヲ以テスルニアラザレバ能ク斯ノ如キ缺陷ヲ補填シ有終ノ美局ヲ收ムルヲ得ンヤ宜シク其局ニ當ルモノト否トヲ問ハズ此覺悟ヲ以テ和協一致ハ工業試驗場及ヒ技術官ノ設置ヲ充分ニシ其指導ニヨリ一ハ講習所學校等ノ教育機關ヲ完備シテ斯業ノ智識ヲ涵養シ或ハ同業組合産業組合等ノ組織ヲ活用シ意匠ノ斬新柄合ノ精選ヲ期シ一意邁進時流ニ遅ル、事ナキヲ保スベシ是レ實ニ東北振興策ノ一端ト云フベシ左ニ擬賞表ヲ掲ゲ審査成績ノ一斑ヲ知ルニ便ズ

第十八類絹織物及其交織物出品點數人員並ニ擬賞表

縣名	回次	出品點數	同人員	擬賞					人員ニ對スル割合
				一等	二等	三等	四等	計	
宮城	第六回	一六〇	六四	一	二	六	一六	二六	〇・四〇
福島	第六回	三三〇	一三〇	一	三	三	一五	二二	〇・三六
岩手	第五回	九七	四〇	一	一	一	三	五	〇・三〇
青森	第六回	三三	一七	一	一	一	三	四	〇・二四
青森	第五回	二七	一一	一	一	一	三	二	〇・二〇
計				五	九	一六	四一	六〇	

染織物審査報告

山形	第六回		第五回		合計
	第六回	第五回	第六回	第五回	
田	七四三	二〇〇	二七九	二〇〇	二一〇
秋	二〇八	一〇七	一〇七	一〇七	二一〇
合計	九五一	三〇七	三八六	三〇七	六九三

第二節 輸出羽二重

原料豊富ナルト製織ノ簡易ナル點ニ於テ羽二重ハ絹織物中最モ奥羽地方ニ恰適セルモノトス而シテ福島縣ノ主産ニ係ル川俣羽二重ハ數年前迄ハ粗製品ノ代名詞ノ如ク思惟セラレシガ時好一タビ輕目物ヲ要求シ來リタル爲メ輕目片羽二重製織ノ技ニ長シタル福島縣當業者ハ今ヤ籠ヲ他地方ニ垂ル、ニ至レリ尙羽二重用方織機ハ山形縣鶴岡町ニ創造セラレ其製織上ノ効果ヲ發揮シテヨリ僻遠ノ鶴岡町ハ遂ニ力織機羽二重應用ノ源泉トナリ羽前羽二重トシテ異彩ヲ放チ各種力織機ノ發明ヲ誘起シ玆ニ羽二重製織業革新ノ端緒ヲ啓キ技術ト機械ノ調和ニヨリ從來至難事ノ一ニ數ヘラレタル三匁付以下ノ者モ容易ニ而モ優良品ヲ製出スルニ至リ本羽二重ヲ主義トシ來リタル山形宮城兩縣モ全然輕目羽二重ヲ產出スルニ及ビ力織機工場ノ勃興トナリ産額頓ニ累進シ東北三縣ハ遂ニ輕目片羽二重ノ覇權ヲ掌握セリ之ヲ今回ノ製品ニ見ルニ三縣共ニ縣立検査ヲ勵行シ生絹ノ縣外輸出ヲ禁止シ以テ品位ノ向上ヲ期待セルガ故ニ從來常ニ缺點トシテ指摘セラレタル耳組其他些細ノ瑕瑾モ殆ド改善セラレタルハ喜ブベキ現象ナリトス而シテ今回出品セルハ以上三縣ノ外秋田縣ニ一點アリシノミ是レ輕目物ハ重目物ニ比シ技術ノ

熟達ヲ要スルコト多ク爲メニ本場品ニ壓迫セラレ、ノ傾向アルト整理販賣等ノ機關ノ不備ハ新機業地ノ創始ヲ阻害スルニヨルベシ

今次ノ出品ニ就キ力織機並ニ手織機ノ製品ヲ比較スルニ力織機ノ製品ハ所謂羽二重ノ趣味ニ就テハ著シク缺クル所アルモ是レ其製織法ノ相異ヨリ來ル自然ノ結果トシテ手織製品ト趣味一致セズト云フニ過ギズシテ半製品タル羽二重ガ必ズ在來ノ地風ヲ存セザルベカラザルヤ否ヤハ更ニ疑問トシテ研究ニ價スベシ然レドモ輸出羽二重トシテ急ニ其趣味ヲ變ゼシムルハ決シテ喜ブベカラズ故ニ製織上ノ缺點ハ須ラク整理ノ手段ニヨリ補修スルヲ緊要トス然ルニ今回ノ出品ニハ此研究ヲ等閑ニ附セシモノ、如シ切ニ當業者ノ考慮ヲ希望シテ已マズ尙力織機製品中ニ數分ノ距離ヲ隔テ、規則正シキ織段ヲ有スルモノ少ナカラズ之ヲ研スルニ其織機ノ卷取り若クハ送り出シ裝置ニ於ケル齒車其他ノ機構ノ製作不完全ナルニ起因シテ運轉圓滑ナラザルニヨル夫レ形式及構造同一ナリト雖モ其製作技術ノ如何ニヨリテハ製品並ニ取扱ニ差異アル事言フ俟タザルベシ斯ノ如ク明瞭ナル理由ノ存スルニ拘ラズ現時當業者ノ囑望シツ、アル織機ハ價格ノ低廉ヲ第一トシ單ニ形式若クハ機構ノ精粗ニノミ拘泥シテ取捨セラレタルモノ、如シ是レ畢竟機械的素養ノ乏シキニヨルト雖モ又以テ織機製作者ノ經驗ト技術ガ信頼スルニ足ルヤ否ヤニ關シ多大ノ留意ヲ拂ハズシテ可ナランヤ要スルニ力織機製品ニハ特殊ナル優良品手織製品ニ比シ多カラザルト共ニ劣等品ト目スベキモノモ亦甚ダ少シ是レ織工ノ手腕ヲ發揚セシムルコト

手織機ニ及バザルモノアルト工場ノ規模比較的大ニシテ特製ヲナスニ利アラザルト原料ノ精選ヲ困難トスルニ因由スベシ然ラバ則チ力織機製ノ出品ハ普通ノ市販品タルコトヲ證シ均整ナル斯ノ種ノ多數注文ニ應ズルヲ得ベシ力織機手織機ニ比シ輸出羽二重織機トシテ優秀ナル點亦茲ニ存ス然リ而シテ手織機ノ製品ハ如上縷述セシ力織機製品ト全ク其優劣ノ立場ヲ異ニシ手工の小規模ノ工場ニ於テ產製セラレハ以テ原料ノ選擇及製織上ノ注意周密ナラシムルニ適シ兼テ遺憾ナク織工ノ技術ヲ發顯セシムルガ故ニ本邦羽二重タルノ良趣味ヲ保有シ品質特ニ優良ナルモノ少ナシトセズ然リト雖モ整經ノ如キハ在來ノ舊法ニ則リ少數ノ經棒ヲ以テスルガ故ニ原料ノ優良ナルヲモ沒却シテ經縞氣ヲ生ズルモノ多ク或ハ手工ヨリ生ズル諸種ノ缺點ヲ有スル劣惡ノモノアリ概括スレバ良否ノ懸隔甚ダシク品質ノ統一ヲ缺キ輸出貨易品トシテ首肯スル能ハズ宜シク共同整經購入或ハ生産販賣組合等ノ方法ヲ俟テ小工業者ノ聚歛ニ力メ將ニ來ラントスル大工業ノ壓迫ニ備フルノミナラズ重要輸出品タルノ性格ヲ完成スベシ

更ニ精練技術ニ就テ見ルニ色澤若クハ青味附及練上リ工合並ニ硬軟各精練所毎ニ等差アルノミナラズ同一整練所ノモノト雖モ尙且ツ一致セズ是レ原料固有ノ色澤性質ニヨリ或ハ輕重兩様ノ製品ヲ同時ニ精練シ一槽ノ可練物量ヲ一定シ難キ等ノ事情アリト雖モ又以テ當業者ヨク精練ノ際ニ於ケル液量溫度時間及藥物相互ノ關係並ニ諸機械運轉ノ遲速等ノ整理ニ及ボス影響如何ニ就キ深キ攻究ヲ遂ゲズ一

ニ織工ノ手加減ニ放任シ整練ノ一様ヲ期スルニ忠實ナラザルニアラザルヤ疑ナキ能ハズ今ヤ生産各縣ハ生絹ノ輸出禁止ヲ勵行シツ、アルガ故ニ各縣ノ整練業ハ其縣羽二重ノ命脈ヲ掌握シ居レリト云フモ過言ニアラザルベシ事ニ業ニ從フモノ其責任ノアル處ヲ重シ先ツ自己工場ノ精練ヲ一定シ施テ三縣七工場ノ提携協戮ヲ講ジ以テ整練ノ統一ヲ企圖シ本邦輸出品中ノ優位ヲ占ムル羽二重業隆昌ノ途ヲ畫立スベシ

福島縣 本縣ノ產出區域ハ全縣ニ亙リ殆ンド箴杆ノ聲ヲ絶タザルモ所謂本場ト稱スル川俣町ヲ中心トセル信達二郡ノ中央部三春白河ヲ包轄セル石川田村東西白河四郡ノ一圓タル南部喜多方町ヲ主産地トセル會津方部小高原ノ町ニ集中スル相馬雙葉石城ノ海濱三郡タル相馬方部ノ四地方ニ大別シ得ベシ地方毎ニ各長短アリ即チ中央部ハ川俣羽二重ナル名聲ヲ博セル丈アリテ其出品頗ル多ク二十吋及二十三吋手織製品ノ如キハ特ニ原料ノ精良經緯ノ均衡及組織ノ調和等優ニ聯合諸縣ノ泰斗タルニ恥ヂザルノミナラズ本邦輕目羽二重界ノ模範タルヲ得ベシ然レドモ四五ノ出品人ヲ除キテハ殆ンド何レモ副業的小機業家ノミニシテ所謂川俣式整經ヲ敢テスルガ故ニ縞氣即チ經縞ノ多キハ反テ新場ノ製品ニモ劣レルモノアリ南部ノ產品ハ出陳少ナク見ルニ足ルベキモノナク本縣中發展ノ最モ遲々タル地方ニシテ改良ノ餘地頗ル多ク當業者ノ意氣最モ消沈セル形勢ヲ認ム一層ノ奮起ヲ要ス會津方部ハ出品少ナク産額未ダ多キニ達セズト雖モ原料豊富ニシテ選擇自由ナル點ニ於テ縣下ニ冠絶シ其技術亦良好稱揚スル

ニ足ル相馬方面ノ出品羽二重ハ其品質原料ニ小節多ク光澤之シク製織亦粗漫ニシテ他地方ニ比シ劣等ナリ是レ市販普通品ヲ紹介的ニ出陳セル結果ニ外ナラザルベキモ各地皆其精粹ヲ競ハントシ日亦足ラザル現時ニアリテ斯ノ如キ製品ニ甘ンゼバ他日ノ信用ヲ確保シ難カルベシ若シ一步ヲ品位ノ改善ニ進メバ本縣ニ於ケル新進氣鋭ノ產地トシテ一致ノ步調ヲ取り製品ノ一齊ヲ期シ漸次力織機應用ノ途ヲ擴張セントスルノ機運ニアルガ故ニ近キ將來ニ於テ相馬羽二重ノ聲譽ヲ揚グルコト蓋シ易々タラン本縣ノ精練ハ一般ニ良好ナレドモ其缺點ヲ指摘スレバセラチンノ使用量多キニ過ギ或ハ練不足ノモノアリ硬ニ過ギ間々赤味勝ノ甚ダシキモノアリ注意ヲ要ス

宮城縣 本縣ハ概シテ原料豊富ナルガ故羽二重ノ品位精良ニシテ光澤充分ナルハ他縣産ノ及ブ處ニアラズ而テ其技術ニ至リテモ亦新場トシテ申分ナシト雖モ産額未ダ充分ナラザルニ加ヘテ製品區々ニシテ歸一スル處ヲ知ラザルハ物産トシテ雄飛ヲ試ムル上ニ就テ障害トナリ遺憾少ナカラザルベシ是レ畢竟機業家散在シ相互ノ氣脈ヲ疎通スルニ便ナラザルニヨランモ販賣機關ノ不備ハ機業家ノ金融ヲ鈍クシ市場ノ景況ヲ感知スルノ機會ヲ得ズ爲メニ當業者各自ノ方針ニ任セテ歸着スルトコロナク箇小機業家ノ創始ヲ躊躇セシムルノミナラズ當業者ノ指導統禦ヲ困難ナラシムルモノ亦其一因トス本縣ハ從來機臺ノ新調共同整經及精練費等ノ積極的獎勵至ラザルナキニ反シ販賣機關ノ備ハラザルハ惜ムベシ宜シク信頼スルニ足ルベキ販賣金融機關ノ設立ヲ講ジ其活用ニヨリテ當業者ノ步調ヲ一定シ獎勵ト

相應ズルヲ得バ斯業發展ノ要素ニ富ム本縣ハ近キ將來ニ於テ必ず一頭角ヲ現ハスニ至ルベシ且ツ精練一般ニ青味付甚ダシク陳列期間ニ於テ青味ノ褪色ニヨリ劃然タル表裏ノ界ヲ呈セルモノアリ特ニ反省ヲ望ム

山形縣 本縣ノ羽二重ハ主トシテ鶴岡町ノ産出ニシテ品質ハ特殊ノ優良品ヲ見ザルト同時ニ亦劣等品ト稱スベキモノ少ナシ即チ前二縣ニ比スレバ原料及經緯ノ鈞合ニ多少ノ遜色アルヲ免レザルモノアレドモ工場組織ノ機業家集團シアリ加フルニ力織機ノ製織ナルガ故ニ品質殆ド一齊ニシテ技術進歩ノ狀特ニ著シキヲ認ムルハ輸出貿易品トシテ成績最モ良好ト云フベシ然ルニ各種ノ幅物ニ約一吋定幅ヨリ過廣ナルモノアリ徒ニ目付ヲ重カラシメ取引上ノ不利益トナルコト少ナカラズ練上幅ト練上幅トノ比較ニヨリ直ニ修正シ得ベキ斯ノ如キ缺點ノ存在ハ不注意モ亦甚ダシト云フベキナリ而シテ山形市附近ノ出陳羽二重ハ創業日尙淺キニ反シ本場品ヲ歴スベキモノアリシハ前途ノ望ヲ屬スルニ値ス尙鶴岡町ニ創始セラレタル輸出向縞子ハ光澤ニ富ミ趣風多シ機業家トシテ漸次技術ヲ熟練ヲ要スル斯ノ如キ新意匠品ヲ案出シ販路ノ擴張ヲ新方面ニ需ムルハ誠ニ策ノ得タルモノト云フベシ本縣鶴岡町整練所ノ整練ハ一般ニ技術ノ未ダシキ點多シ一層ノ研鑽ヲ要ス

第三節 其他ノ絹織物

米澤織物 米澤絹織物業者ノ出品ニ係ル絹織物ノ種類ハ絲織、風通、御召類ノ着尺地及袴地帶地等

内地需要品ヲ主トシ點數ト品位ニ於テ竊カニ聯合他縣ヲ凌駕シ光彩ヲ放チ來觀者ノ視線ヲ集中セリト云フモ過言ニアラザルノ盛況ヲ呈セリ然レドモ一步之ヲ聯合縣外ノ主要ナル機業地ノ製品ニ比スレバ未ダ及バザルモノ少ナシトセズ就中其意匠ハ依然トシテ舊態ヲ改メズ奥羽六縣織物業ノ泰斗ヲ以テ任ズル米澤織物トシテ玆ニ前回ノ警告ヲ再ビ繰返スノ已ヲ得ザルモノ多キヲ遺憾トス夫レ本織物ノ過半ハ京阪地方ニ輸販セラル、ノ狀勢ニアリ需要地ノ意向ヲ察シ其趨勢ニ應ズルノ不便ト困難ヲ有シ爲メ二十年一日ノ如キ地味ナル柄合ヲ本主トシ更ニ研究ノ餘地ヲ存セザルモノ、ミヲ選擇シ遂ニ當業者ノ頭腦ヲ沈退セシメタルノ形迹アリ加フルニ其製産ハ多ク出機組織ニシテ織工ノ監督徹底セズ織工亦新規ナル織方ヲ忌避シ去ルノ風習アリ相俟テ柄合ノ更新ヲ阻害スルコト多シ當業者之ニ鑑ミ既往ニ察シ需要ヲ各方面ニ求メ需要者トノ觸接ヲ密ニシテ其意向ノ探究ニ勉メ工業學校等ノ聲援ヲ藉リ或ハ組合機關ノ擴張ニヨリ攻究ノ途ヲ講ジ以テ締切緋物夏向織物等意匠應用ノ範圍廣大ナル織製ヲナシ暖々乎トシテ發達シツ、アル他ノ機業地ト對抗シテ永遠ニ其聲價ヲ保留セザルベカラズ而シテ其染色ハ增量ヲ許容シ組合ニ於ケル製品検査ノ勵行及從業者ノ採用試験若クハ技術講習ノ開設等ノ爲メニ研究ノ度ヲ高メ修養ヲ積ミ比較的發達著シク其根底確實ナルヲ認ム今左ニ各種織物ノ概評ヲ試ムベシ

輸出絹織物ノ出品ハ米澤輸出絹織物模範工場「タダタ」並ニ「シフオン」常盤組ノ甲斐絹類十數點ニシテ「タダタ」ハ其作技益々精妙ナルニ至リタルモ「シフオン」ハ品質未ダ良好ト稱スルヲ得ズ甲斐絹類ハ

地厚クシテ原料ヲ費セシ割合ニ色合及柄合ノ適切ナラザル爲メ全體ニ見劣リセラル、點多キヲ遺憾トス然レドモ其技術ハ漸ク達成ノ曙光ヲ認ムベシ絹織物ノ輸出ハ對外貿易振興策トシテ最モ重ヲナス處ナレバ一ニ當業者ノ奮勵ニヨリテ益々發展ヲ期セントス然ルニ近時貿易沈靜シ來リ輸入超過ヲ見ルニ至リシハ甚ダ悲ムベキ現象ト稱セザルヲ得ズ而シテ其主因タルヤ需要地ノ不況ニヨルハ勿論ナリト雖モ深ク之ヲ探究スレバ製産者好調ニ乘ジテ製産ヲ激増シ遂ニ需要地ノ倉庫ヲ滿溢セシムルニ至リ各商店買控ヲナシ爲メニ製品ノ停滯トナリ或ハ製産者需要地ノ景況ヲ顧慮セズ濫ニ其生活程度及氣候風俗ニ副ハザル製品ヲ送り一時輸入商ノ見込買ニ遭フ事アルモ忽ニシテ排斥セラレ若クハ製産者並ニ製産地ノ商人ガ動モスレバ我利ニ走リテ德義ヲ輕視シ前者ノ契約ヲ無視シテ後者ノ注文ニ應ジ前者ヲシテ不測ノ損失ヲ醸サシメ一般輸入商ヲシテ疑懼ノ念ヲ抱キ徒ニ買溢ラシムル等ノ事情及製品單ニ輸入國ノ一小地方ニ適スルニ過ギザルモノアリ時ニ或ハ品質ノ硬軟其度ヲ失シ地質厚キモ速ニ折リ切ルコトアル等モ亦其主因ヲナス宜シク各種ノ事情ヲ精査シ以テ前日ノ覆轍ヲ再ヒセズ堅忍持久益々發展ノ途ヲ講ゼンコト製織ニ先チ當業者ノ將ニ勉ムベキ事ト信ズ

着尺地中平絲織ハ出來榮先ヅ無難ニシテ本場品ト稱スルニ恥ヂザルベク綾絲織亦優良ナルモノナキニアラザレドモ一般ニ組織ト色合ノ不釣合ノモノアリ細カキ柄合多ク爲メニ外觀引立タザルモノ多シ御召及ニト地ハ其點數多カラズ之ヲ八王子其他ノ產品ニ比スレバ下ルコト數等ナリト雖モ柄合組織等

ニ於テ他ノ織物ニ比シテ一進歩ヲナセシヲ認ム風通織ノ多クハ意匠拙劣ト稱セザルヲ得ザルモ製織技術ハ老功ナルヲ認ムベシ一般ニ當地ノ絹織物ハ整理甚ダ不充分ニシテ地質軟弱ニ過グルノ嫌アリ且ツジャカードノ使用未ダ熟達ノ域ニ達セザルノ譏ヲ免レズ當業者ノ奮勵ヲ望ム

袴地ハ其出品少ナカラザレドモ價格比較的廉ナラズ風趣自ラ絲織ニ類シ仙臺平ニ數歩ヲ讓ラザルヲ得ズ研究ノ餘地尙甚ダ多キモ縱絹袴地ニハ佳品ヲ見タリ

帶地ハ平博多男帶地最モ多ク品位及地風ニ就テハ到底本場品ニ比スベクモアラズ綾及紋物ハ單夏帶ノ外其數多カラズ配色組織亦精妙ナラズ技術ノ深奥ニ達スル前途尙遼遠ナリ

長井紬 今回ノ出品織物中甚發展ノ成績特ニ顯著ナルモノヲ舉グレバ先ヅ指ヲ長井紬ニ屈セザルヲ得ズ古來緋ハ本邦人ノ嗜好ニ叶ヒ健全ナル發達ノ歩ヲ進メタリシガ近時ニ至リ殊ニ其需要ヲ激増シ産額頗ニ多キヲ加ヘリ然ルニ絹緋トシテハ大島、結城、伊勢崎ヲ其主ナルモノトシテ其數甚ダ多カラズ而シテ伊勢崎緋ハ趣味輕淡ニ結城緋ハ柄ノ變化ナシ故ニ獨リ大島紬ハ其價格ノ甚ダ高貴ナルニモ拘ラズ都人士ノ間ニ珍重セラレ流行界ニ猛威ヲ逞フセリ此間ニ處シ長井紬ハ其代用品タラントシ染色製織及意匠ノ研究ニ傾注スルコト茲ニ二年アリ辛勞空シカラズ技大ニ進ミ眞ニ大島緋ニ髣髴タラシムルノ域ニ達シ而モ其價格低廉ナルガ故需要日ニ累加セリ而テ當業者ノ團體タル同業組合ハ其好調時ニ當リテモ尙監督ノ鞭ヲ緩ムルコトナク益々製品検査ヲ嚴ニシテ粗濫ニ逸走セシムルヲ防止シ一面ニ於テ染色ノ

講習意匠ノ改良他產地ノ視察競技品評會開催等アラユル手段ニヨリ産業ノ發展ニ貢獻セリ又以テ今回ノ出品ガ製品ノ性質上小工業者ノ集合ニシテ亂調ニ陥リ易キモノナルニ反シ品位一定意匠比較的斬新且ツ原絲ト其處理法良好特ニ價格ノ低廉ナルヲ得タルモノ決シテ偶然ニアラザルヲ知ルベク當業者ノ熱誠ト組合ノ活動トハ範ヲ他地方ニ垂ルハヲ得ベシ然リト雖モ大島緋模造品トシテ地質ノ硬軟宜シキニ適セズ地色及緋足未ダ充分ナラズ原料及組織粗雜ナルモノアリ抑モ代用品ノ要素トスル處ハ第一ニ價格ノ低下ニアリテ然モ其品質ハ原產品ニ酷似セザルベカラズ誰カ其製産ヲ容易ナラズトセンヤ加之技藝ノ進歩ハ栃木岐阜愛知等ノ諸縣ニ綿大島其他ノ名目ノ下ニ交織緋ノ織産アリ價格ノ低廉ナルコト長井紬ニ相半シ其技術亦侮ルベカラズ捺染大島緋モ亦日ニ市場ニ多カラントスルノ狀勢ヲ呈シ長井紬ヲシテ一日ノ喻安ヲ許サザルモノアリ當業者宜シク此間ニ處シ能ク其分ヲ守リ濫ニ品質ヲ優良ナラシメント欲シテ價格ヲ高騰セシムルコトナク或ハ粗濫ニ流レテ綿大島若クハ捺染緋ノ競争渦中ニ投セラレハコトナク能ク其中庸ヲ持シテ偏セズ益々當業者ノ團結ヲ鞏固ニシ製産販賣業兩者ノ圓滿ナル提携ニヨリ從來得タル聲譽ヲ更ニ宣揚センコトヲ期スベシ

秋田絹織 ノ出品ハ八丈及畝織ヲ主トシ羽二重及縮緬ノ少數アリ就テ見ルニ八丈ハ黃八丈變八丈共地合軟質ニ過ギ地絲ノ増量ノ爲メ縞ト地ニ厚薄ヲ生ジ且ツ布面ニ皺波多ク反仕立ノ外觀ヲ損セルコト甚ダ大ナリ縞組配色並ニ色合亦敬服スベキモノナリ染色ハ在來ノ方法ニノミ則リ研究改善セルモノ少

ナクシテ堅牢度充分ナリトセズ殊ニ整理ノ點ニ至リテハ未ダ一指ヲダモ染ムルニ至ラズ畝織及縮緬ハ惜氣モナク原料ヲ費シ地合頗ル厚キノミニシテ組織、精練、皺縮總テ本場品ト比較セバ雲霄ノ感アルベク如何ニモ素人製品タルノ譏ヲ免レズ羽二重手巾地ハ其製織稍可ナルモ尙多少前述ノ如キ缺點ヲ存シ意匠及組織ノ應用未ダ幼稚ノ域ヲ脱セズ之ヲ要スルニ本縣ノ絹織物ニ遠キ歴史ヲ有シ名聲亦赫赫タルモノアリシガ近年進運休止シ爲メニ其特色モ他地方ノ浸碍ニヨリテ没却セラレ今ヤ單ニ増量ノ方法ニヨリテ廉價ヲ標榜シテ一縷ノ命脈ヲ維持スルニ過ギズ斯ノ如キ世運ノ隆々タルニ反シテ年ヲ追フテ衰頹ニ偏スル所以ハ蓋シ一ナラザルベキモ當局ノ斯業ニ對スル教育並ニ指導獎勵ノ施設ト當業者ノ興奮トニ俟テ勞働嫌厭ノ弊風ヲ芟除シ品位ノ向上ヲ期セバ昔日ノ繁榮ヲ復活スルヲ得ベシ

仙臺平 袴地ヲ稱シテ誰カ仙臺平ヲ想起セザルモノアランヤ實ニ仙臺平ハ古來袴地ノ霸王トシテ今日ニ至ルマデ大ナル浮沈ナク其聲價ヲ持續セリ之レ其品質佳良ニシテ袴地タル獨特ノ妙味ヲ有シ硬軟宜シキニ適スルニヨルベシ然リト雖モ產額ハ依然トシテ増加セザル所以ノモノハ本產地ガ柄合其他技術上ノ進歩比較的遅々トシテ振ハザルニ乘ジ他ノ機業地ハ屢々乎トシテ模造品ノ製織ヲ研鑽シ漸次販路ヲ蠶食シツ、アルニヨルベシ換言スレバ發展ノ度他產地ニ及バザルニアリ故ニ當業者タルモノ舊來ノ名聲ニ安ンズルコトナク漸場以上ノ銳氣ヲ以テ學理機械ノ應用ヲ究メ品位ノ改善ト價格ノ低ヲ得バ名實兩全シテ益々世人ノ信用ヲ博シ袴地ノ供給ヲ以テ本邦ニ冠タルコト決シテ難カラザルナリ仙臺平

ニ次グ宮城縣ノ絹織ヲハツ橋トスレドモ其出品多カラズ意匠亦例ノ如クニシテ可ナルモノナキノミナラズ綾境際立テテ布面粗鬆ニ過ギ一トシテ進歩ノ狀ヲ認メズ若シ夫レ斯ノ如クニシテ放任セバ數年ナラズシテ遂ニ顧ミルモノナキノ至ラン

其他ノ絹織物 就中最モ出品多クシテ產額著大ナルヲ福島縣信達兩郡節絹トス本縣ハ生絲ノ產地トシテ輸出羽二重ニ其名ヲナスガ如ク玉絲製絲頗ル發達セルガ故節絹ハ其原料甚ダ優良ニシテ製織ヲ輸出羽二重ニ模倣セルガ故耳組及經緯ノ組織適當シ且ツ原料ノ節約ニ妙所ヲ有シ從テ價格低廉平絹代用トシテ大ニ恰適シ前途益々販路ヲ擴張シテ更ニ大ナル利源ヲナスニ至ラン唯惜ムラクハ精練染色ヲナシ完製品タラシメザルヲ尙若松市ノ絹織ハ意匠佳ニシテ織方老功ニ布面均整ナルハ喜ブベキモ練上リノ工合ハ少シク緊硬ヲ失スルノ感アリ羽二重斜子其他一ニ二ノ優良ナルモノヲ見ルモ未ダ評スルニ足ラズ此他ノ絹織物ニ至リテハ出品並ニ產額甚ダ僅少品質亦評スルニ値スルモノナシ唯岩手縣ノ後染縹子ハ現時其製織ヲ確實ニ繼續スルニ至ラズト雖モ製品ハ北域ノ地ニ於ケル光輝タルヲ失ハズ

綿麻織物及其交織物審査報告

密 查 官 吉 岡 直 富

綿麻織物及其交織物ノ出品ハ人員四百二十一、點二千二百四十四ニシテ之ヲ前回ニ比スルニ人員ニ於

テ五割強、點數ニ於テ六割強ノ増加ニシテ前回ハ宮城縣ノ聯合ナカリシガ故ニ今回ニ於ケル宮城縣ノ出品人員四十、點數二百五十四ヲ減ズルモ尙人員ニ於テ百〇五、點數ニ於テ七百九十五ノ増加ニシテ各縣ニ就テ比較スルニ秋田ノ人員二十五、點數百〇八ヲ減ジタルヲ除クノ外多少ノ増加ヲ示サザルハナシ是レ前回ハ主催地秋田縣ナリシガ故ニ出品ニ便ナリシニ依ルモノナラン更ニ之ヲ表示スレバ左ノ如シ

縣名	點		數		人	
	今	前	今	前	今	前
宮城	二五三	一四三	二〇八	四〇	三五	三二
福島	三五二	五〇八	六〇	一五六	一〇八	四八
岩手	五〇八	一二四	六六	一六	九	七
青森	一九〇	二二四	六六	一六	九	七
山形	七〇一	三二八	三七三	一二五	八二	四三
秋田	一八一	二八九	一〇八	一七	四二	二五
計	二二四四	一三九二	一〇八	四二	二七六	二五

依是觀之前回後聯合各縣ノ綿織物ハ如何ニ消長シタリシカ想像ニ難カラザルベシ而シテ本類ニ屬スル出品織物トシテ最モ多キハ普通木綿編即チ地織木綿ニシテ五分ノ三強ヲ占メ瓦斯縞之ニ次ギ約八分ノ一、絲入木綿縞、無地木綿又之ニ次グリ此外ニ生麻布、蚊帳地、敷布、白木綿、綿フランネルノ出品

アルモ其數極メテ少シ

本類ノ織物ヲ大體ノ上ヨリ觀察スルトキハ輒近顯著ナル發達ヲ表ハシタリト云フヲ得ベク岩手縣ノ如キ小規模ノ工場及賃織制度ノ下ニ成レル出品トシテハ比較的ニ統一セルヲ見ル殊ニ紫波郡彌勒地仁太郎外九名ノ出品ニ係ル青縞ノ如キ染色、色想ト謂ヒ趣味ト云ヒ大ニ見ルニ足ルベク又宮城縣中名生辰之進出品ノ瓦斯セルノ如キ少シク整理ニ注意スルアラバ本場製品ニ比シ些ノ遜色ヲ認メズ惜ムラクハ産額ノ未ダ大ナラザルヲ、然リ而シテ近來各縣共ニ頓ニ産額ヲ増加シタルニ拘ラズ意匠柄合等ニ至リテハ總テ依然トシテ舊套ヲ改メザルモノ、如シ價格ハ敢テ高シト云フニアラザルモ未ダ以テ廉ナリト云フ能ハズ、以上ハ是レ各地共ニ其地方及北海道ノ如キ一部份方面ノ需用ヲ充タスニ止マリ未ダ販路ヲ遠キニ求メザルニ基因スルナラン、然ルモ尙能ク賣約ノ票紙點々タルモノ少カラズ又參觀人ノ多クノ衣服ガ出品物ニ相違カラザルニ徴スレバ今日ニ奧羽綿織物ハ或ハ以テ奧羽人士ノ趣味ニ恰適シ得タリト云フヲ得ン歟而シテ趣味ノ向上ハ寸時モ止ムモノニアラズ若シ夫レ時好ニ投ジ進シテ販路ヲ遠キニ求メ聯合縣以外ノ綿織物産地ト拮抗シテ輸贏ヲ爭ハント欲セバ更ニ一段ノ奮勵ヲ望マズンバアラズ殊ニ近來各地ノ綿織物産地ニ於テハ意匠柄種々考案ヲ運ラシ進シテ製織後ノ整理及準備ノ諸工程ニ對シ組合其他ノ團體ノ共同組織ニヨリ資本ノ充實、勞力經費ノ節制、技術ノ攻究等ヲナシ着々進歩發達ノ實績ヲ擧ゲツ、アルモノ少カラズ聯合縣ノ如キ宜シク範ヲ先進地ニ取り一方技術ニ關スル諸機關

トノ連絡ヲ密ニシ學理ト實地トノ調和ヲ討究シ他方ニ於テ組合組織ノ活用ヲナシ協同經營ノ實ヲ舉ゲ機械應用ノ範圍ヲ廣メ地方需用ニノミ安ンゼズ販路ヲ擴張スル等永遠ノ策ヲ劃スルヲ要ス

宮城縣 本縣ニ於ケル出品ノ重ナルハ普通木綿織(所謂地織木綿)ニシテ瓦斯縞、敷布等之ニ次グ聯合縣綿織物出品全體ノ上ヨリ觀察スルトキハ技術ニ於テ本縣ヲ以テ最ナルモノトス中名生辰之進出品ノ瓦斯セル模範工場出品ノ白木綿ノ如キ共ニ優秀ナルモノニ屬ス然レドモ產額未ダ大ナルニ至ラズ本縣綿織業上ヨリ見ルトキハ一ノ試製品タルニ過ギザルノ觀アリ地織木綿ニ至リテハ近來大ニ進歩シ他日一大商品ヲ形成スルノ好望ヲ有スルニ至レルモ未ダ品質ノ一定ヲ缺キ價格亦割合ニ高貴ニ過グ此等ハ速カニ改良ヲ要スルモノナリトス尙本縣ニ於テ年々多額ヲ產出スル紺中形ノ原料タル白木綿ノ如キ近年模範機業場ニ於テ製造スルニ至レルモ未ダ全ク需要ヲ充タスニ足ラズ多クハ他縣ヨリ之ガ供給ヲ仰グト聞ク此等ハ宜シク本縣ニ於テ製産スルヲ以テ經濟上ニ於テモ產業上ニ於テモ最モ得策タルベキヲ信ズ綾織敷布ハ何レモ同一ノ組織ニシテ敢テ新奇ノモノナク晒白亦宜シキヲ得ズ自今組織ニ新案ヲ出シ適當ノ晒白ヲ施スニ於テハ需用益々多カラン

福島縣 本縣出品ノ重ナルハ普通木綿織ニシテ瓦斯縞之ニ次グ出品產地ハ若松市及坂下町地方ニシテ聯合縣中ニ於テ技術進歩ノ度及產額ニ於テ中間ニ位ス今回ノ出品ヲ見ルニ概シテ品質一定シ價格相當ニシテ商品タルノ資格ヲ具備スルモ柄柄ノ如キ一モ見ルベキモノナク依然トシテ舊套ヲ脱セズ時流ニ

後ルノ感アルハ惜ムベシ是レ或ハ年々僅カナガラモ產額ヲ增加シツ、アルト比較的販賣ニ困難ヲ感ゼザルヨリ進ンデ研究ヲナスモノ、少キニ起因セズンバアラズ殊ニ織上後ノ所理恰當ヲ缺クヲ以テ益々製品ノ見榮ヘテ減ズルノ憂アリ今ヤ社會ノ趨勢ハ漸ク華美ニ傾キ綿織物ニ對スル要求モ亦昔日ノ比ニアラザルナリ宜シク適當ノ仕上法ヲ研究シ時勢ノ推移ニ鑑ミ之ニ應ズル製品ヲ創始スルノ覺悟ナカルベカラザルナリ

岩手縣 本縣出品ノ重ナルハ普通木綿織ニシテ瓦斯縞之ニ次グ青縞及麻布又之ニ次グ本縣綿織物業ハ產額取テ多キニアラザルモ軌近顯著ナル發展ヲナシ聯合縣中進歩ノ度ニ於テ本縣ニ匹儔スルモノナク殊ニ小規模ノ工場及賃織制度ナルニ拘ラズ一定ノ標準ニ據リテ品質ノ一齊セルニ至レル如キ著シキ進歩ト云ハザルベカラズ是レ從來本縣ニ於テハ產業上見ルニ足ルベキ工業ナク從テ縣民ノ執ルベキ產業ニ乏シカリシ爲メ多少ノ機具ヲ有シ少シク製織ノ方法ニ通ズレバ何レノ地方ニ於テモ之ヲ行フ事ヲ得ベキ本業ノ如キ將ニ就キ易キ業タルト交通機關日々ニ整ヒ原料ノ供給漸次利便トナリ職工製産費又比較的低廉ナルト一方染織業ニ必要ナル職工ヲ養成センガ爲メ染織講習所ヲ設立シ職工養成、染織上ノ試驗、研究又ハ講習、講話ノ開催、技術上ノ質議或ハ應答ノ任ニ當リ更ニ國庫ノ補助ヲ得テ斯業ニ適切ナル諸機械ヲ設備シ専心斯業ノ誘掖指導ニ任ジタル事業其萌芽ヲ表ハシタルニヨル事等ハ本業ヲ發達セシメタル有力ナル原因ニシテ今ヤ從來輸入シタル遠州縞等ヲ驅逐シ同時ニ一面販路ヲ北海道ニ擴

張スルニ至レリ是等ハ取テ以テ聯合他縣ノ最良ナル參考タルベシ

前述ノ如ク本縣ノ綿織物ハ全體ノ上ヨリ見ルトキハ品質ノ一定セル等大ニ見ルニ足ルベキモノアルモ未ダ以テ完全ノ域ニ達シタリト云フベカラズ縞柄染色等ニ至リテハ未ダ舊套ヲ脱スル能ハズ時好ニ後ルハノ感アリ殊ニ染色ニ至リテハ青縞ノ如キ見ルニ足ルモノナキニアラザルモ縞物ニ至リテハ間々堅牢ヲ缺クモノアリ近來硫化染料ノ如キ堅牢ナル色素ニ乏シカラズ故ニ今後一層ノ注意ヲ用ヒ短所ヲ補ハザル可カラズ又白縞木綿ノ如キハ縞柄實ニ拙劣ニシテ製織後ノ工程又惡シク到底見ルニ耐ヘズ此儘ニテハ商品タル資格ヲ具備セズト云フモ過言ニアラザルベシ今後ニ於テハ染色ニ將タ亦整理ニ付キ一層ノ研究ヲ積ミ時勢ニ投ズル縞柄ヲ案出セバ商品トシテ更ニ一段ノ光明ヲ發揮スルヲ得ベシ

青森縣 本縣出品ノ重ナルハ普通木綿縞ニシテ瓦斯縞之ニ次グ縣全體ノ上ヨリ見ルトキハ弘前市ノ出品概シテ良好ナリ然レドモ之ヲ前回ニ比スルニ何レモ敢テ進歩ノ迹ヲ認メズ殊ニ地方需用ノ然ラシムル處アルベシト雖モ配色縞柄暗黒ニ過ギ且ツ原料太キ爲メ地質厚堅ニ過ギ如何ニモ田舎縞ラシク大ニ改進ノ必要アリ又概シテ價格總テ不廉ナリ是レ或ハ工賃ノ比較的高價ナルニ由ルナランモ茲ニ一ノ競争品ナク只ニ地方需用ヲ充タスニ止マラシメバ可ナランモ苟モ商品トシテ販路ヲ外ニ求メ地方物産ノ繁榮ヲ企圖セント欲セバ宜シク時好ニ投ズルノ意匠ヲ求メ需用ノ程度ニ從ヒ新奇ノ柄合ヲ案出シ併せて工費ヲ節約スル事ヲ研究スルハ目下ノ急務ナリト信ズ

山形縣 本縣ノ出品中重ナルハ普通木綿縞ニシテ絹綿交織之ニ次ギ瓦斯縞、無地木綿又之ニ次グ本縣綿業進歩ノ狀態ハ岩手縣ト伯仲ノ間ニアリ聯合縣中産額ノ多キハ先ヅ本縣ヲ以テ最トス本縣ニ於テハ太手物産額多クシテ細手物少キニ拘ラズ出品ニハ細手物多クシテ太手物少カリキ又細手物ニ於テハ見ルベキモノ少カラザルモ太手物ニハ見ルニ足ルモノ少ナシ概シテ本縣ハ瓦斯木綿、絹綿交織、細絲紡績等ヲ使用スルノ特長ヲ有スルモノ、如シ青縞ノ出品又多少アリト雖モ岩手縣ノモノニ比スルニ大ニ劣レリ只其染色ハ比較的堅牢ナリト雖モ世ノ嗜好ハ却テ其組織ト色合トニアルモノナレバ此等ハ大ニ研究スルノ必要ナルヲ信ズ次ニ同縣鶴岡地方ノ出品ニ係ル絹綿交織ニ至リテハ多量ノ絹絲ヲ使用シ徒ラニ價格ヲ貴ラシムル割合ニ外觀ノ美ヲ發揮セシメ得ザルモノ多シ、元來絹綿交織ノ目的タル其布面ノ外觀ヲ美麗ナラシムルカ、又ハ織物ノ趣味ヲ増スニアルモノナレバ其絹絲使用ノ目的ヲ誤ラザル様勉メザルベカラズ、本縣ノ出品ヲ見ルニ一般ニ縞縞ニ使用シタル絹絲ノ暗色ニ失スルト染色宜シキヲ得ザル爲メ光澤ヲ失ヒ前記ノ結果ヲ生ズルモノナレバ大ニ此點ニ注意シ高價ナル原料ヲ活用スルコトニ勉メザルベカラズ

綿フランネルノ出品ハ前回同シク配色ハ稍可ナリト雖モ組織宜シカラズ起毛亦完全ナラズ從テ趣味ニ乏シク價格低廉ナラザルヲ遺憾トス、綿フランネルノ如キハ比較的工費ノ低廉ナル地方ニ於テ十分ノ經驗ヲ積ミ産額ノ増加ヲ圖ラバ敢テ望ミナキ事業ニアラズ殊ニ奥羽ノ如キ寒國ニ於テハ地方ノ需用

ニ應ズルノミニテモ多大ナルモノアリ況ンヤ輸出綿織物トシテ今後益々好望ナルニ於テオヤ大ニ奮勵ヲ望ム

秋田縣 本縣ノ出品ハ普通木綿織、瓦斯織及紫微織等ニシテ重ナルハ普通木綿織ナリ聯合縣中前回ニ比シ出陳ノ減少シタルハ本縣ノミニナリ、是レ本縣ノ織物ガ前回ニ比シ退歩シタルニアラズシテ前回ハ本縣主催地タリシカ爲メ出陳ニ便ナリシニ依ルモノナランカ、而シテ今回ノ出品ニ於テハ退歩セザルモ亦進歩シタリトモ認メ難ク依然タリト云フニ止マル、本縣綿織物ノ特色トモ認ムベキハ十六番手又ハ十三番手位ヲ用キタル太手ノ厚キ物ノミニナリ是レ土地ノ習慣上洗濯後砧入レヲナスニヨリ自然ニ丈夫ナルモノヲ希望スルヨリ來リタルニヨルナルベシ、而シテ價格ノ一般ニ高價ナルモ亦一ノ弊タリ品質價格何レノ點ヨリ見ルモ到底今日ニ於テハ他縣輸出ハ望ミナカルベキカ、近來遠州ヨリノ輸入ハ減少シタルモ尙山形縣地方ヨリ輸入スルモノ少カラズト聞ケリ、是レ本縣ハ比較的職工ノ賃銀不廉ニシテ從テ生産品ヲシテ高價ナラシムルニ起因スルモノニシテ本縣機業ノ發展セザルモ亦比ニ基因スルニアラザルカ、今日ニ於テ適當ノ方法ヲ講ズルコト最モ必要ナルベシ

第十九類出品並擬賞表

縣名	出品		擬賞				計	出品人員對 スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城	二五三	四〇	—	—	三	二	九	一四
計			二	—	—	—	—	三・五〇

縣名	出品		擬賞				計	出品人員對 スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
福島	三五二	六七	—	—	—	—	—	三・一〇
岩手	五六八	一五六	—	—	—	—	—	二・五〇
青森	一九〇	一六	—	—	—	—	—	三・一一
山形	七〇一	一三五	—	—	—	—	—	二・五六
秋田	一八一	一七	—	—	—	—	—	三・五七
合計	二二四四	四二一	二	—	—	—	—	二・七七

漆器審査報告

審査官 牧 瀬 三 郎

本會ニ漆器ヲ出品シタルハ福島、宮城、山形、青森、岩手、秋田ノ六縣ニシテ其ノ出品人員二四二名點數一、五〇六點ニシテ出品ノ種類ハ内地向日用品多ク美術裝飾品及貿易品ハ極メテ少數ニ過ギズ其ノ品質ハ斯業發達進歩ノ趨勢ヲ示スト雖モ技術各長短アリ捺技研磨ト並ビ長ズルモノ少ク概シテ挿金ノ技未ダ熟セズ圖案亦極メテ幼稚ナルヲ免ガレズ椽材ノ乾燥不十分ナルモノ、如キ往々ニシテ苦鹹シ若クハ木理ヲ現スモノアリ然レドモ漆質ハ一般ニ良好ニシテ漆面ノ美良ナルモノ多シ以下各縣別トシテ之ガ概評ヲ試シム

審査ノ方法ハ合議制ニヨリ第一鑑定ヲ原質工作意匠及適用ノ四項ニ分チ第一項ニ於テ漆地乾燥ノ完否

及原料ノ良否第二項ニ於テ工作ノ巧拙精粗第三項ニ於テ器物ノ形狀及蒔繪ノ意匠第四項ニ於テ價格用途及販路ノ如何ヲ鑑定シテ評點ヲ附シ第二調査ハ解説書其他責任アル調査ニ依リテ本業ノ狀態並ニ出品者ノ業況等ヲ參酌シテ等級ヲ定ムルコト、セリ而シテ之ガ審査ニ與リタル審査員ハ次ノ如シ

東京 柴田龜太郎
 福島 谷清八

授賞ノ人員ハ六縣ヲ通ジテ七九名ニシテ其ノ等級ヲ區別スレバ左ノ如シ

漆器縣別擬賞等級表

縣別	等級				計	出品點數	割
	一等	二等	三等	四等			
福島縣	二	三	五	一九	二九	一五七四	二七%
山形縣	一	二	二	一五	一八	二七	四七%
秋田縣	一	二	三	九	一四	二四九	四七%
宮城縣	一	一	一	六	八	二〇七	二四%
青森縣	一	二	二	二	五	一三九	七二%
岩手縣	三	七	一四	四	五五	三六一	一六%
合計	三	七	一四	五五	七九	二四〇六	三三%

備考 三十九年度各縣漆器ノ產出額ハ左ノ如シ

福島縣	四四一、〇四八 ^円
山形縣	一二七、〇四八
宮城縣	九五、三〇一
秋田縣	七七、二三〇
青森縣	四五、〇五九
岩手縣	二五、〇〇〇
合計	八一〇、六八六

福島縣 本縣出品ハ若松漆器並ニ耶摩郡喜多方漆器ニシテ板物ニ在テハ朝線、角盆、膳、重箱、菓子器ノ類ニシテ丸物ニ在テハ碗類、盃、杯洗ノ類ヲ主トシ内地向日用品多ク裝飾品及貿易品ハ極テ少シ出品人員ハ一〇四名ニシテ出品點數ハ五七四點ノ多キニ達セリ會津塗ハ品質堅牢ニシテ價格低廉ヲ以テ世ニ現ハレ今回ノ出品モ無地物ハ製作一般ニ佳良ニシテ膳碗類ハ木地ノ選擇善ク一般ニ精巧ノ髹技ヲ見ルト雖モ蒔繪物ニ至リテハ技術尙ホ概シテ拙劣圖案ハ稍ヤ進步ノ跡ヲ認ムルモ未ダ幼稚ノ域ヲ脱セズ研ギ上ゲノ技術亦未熟ニシテ研ギ出シ製品ニシテ却テ塗リ立テ品ヨリモ粗面ヲ呈スルモノアルヲ見ル價格ハ一般ニ低廉ニシテ内地ノ需用廣シ喜多方漆器ハ大概丸物ニシテ髹漆ノ技術ニ進步ヲ認ム

本縣漆器ノ主產地ハ若松市及耶摩郡喜多方町ニシテ其ノ累年ノ產額ヲ舉グレバ

年	製造戸數	職工數	製造額
明治三十九年	四五五	一三四三	四四一、〇四八
同 三十八年	四二三	一三六四	四二〇、四六〇
同 三十七年	四六四	一一七六	三〇八、四八二
同 三十六年	四六三	一二三六	三三四、一二〇
同 三十五年	三六二	一〇九一	三二七、一五〇

漆器原料タル漆液ノ産額ヲ調査スルニ左表ノ如シ

年	製造戸數	漆汁	價格
明治三十九年	二一	二、〇四九	一一、一七一
同 三十八年	二五	一、六一〇	一〇、一九一
同 三十七年	三九	一、七二一	一四、四九四
同 三十六年	六七	二、二二九	一七、七二二
同 三十五年	七〇	二、三二七	一七、四五一

本縣ハ奥羽六縣中産業最モ發達セルノ地ニシテ漆器業ニ於テハ其産額第一位ヲ占メ本邦漆器業屈指ノ生産地ニシテ近時漸ク改良ノ機運ニ接シ製作ニ於テモ意匠ニ於テモ一段ノ進歩ヲ示シ累年其ノ産額ヲ増シ販路從テ擴張シツ、アリ

之ヲ今回ノ出品ニ見ルニ谷平兵衛出品ノ會席膳ハ髹漆美良ニシテ平滑木目塗重箱ハ新規ナルモ内塗不良ナリ其他ノ出品ハ概シテ精巧技術ニ進歩ノ跡ヲ認ム製産額亦多キハ嘉スベシ
 新城猪之吉ノ出品ハ概シテ髹漆精良描金亦宜シ木グリヲ施セル部分ニ著シク瘠目ヲ表スモノアルハ缺點ナリ

黒河内信太郎出品ノ萩蒔繪衣服盆ハ髹漆佳良描畫調和ヲ得タリ出品概シテ良好

北見八郎平出品ノ椀ハ髹漆共ニ可ナリ貿易品數點ハ静岡式ナレドモ技未ダ熟セズ描金ニ一々置目ノ跡ヲ殘スハ拙ト云フベシ

小野寺彌次平出品ノ吸物椀及ビ畑定吉ノ硯箱ハ髹、髹、描金共ニ精良上品ノ作ナリ

其他賞ニ入ラザルモノ、中ニハ髹構ノ不良ナルモノ髹漆不良ニシテ刷目ヲ殘スモノ描金ノ拙ナキ金粉ノ繪以外ノ地塗ヲ汚シタル瘠目ヲ表スモノ或ハ髹構髹漆共ニ精良ナラザル器物ニ不相應ノ金卷繪ヲ施シタルガ如キ其他ノ風作粗製品多キヲ認ム尙ホ會津漆器ノ如キ濫地薄下地ヲ施用スル器物ハ殊ニ瘠目ヲ生ズル恐レアルヲ以テ十分髹材ノ乾燥ニ注意スルヲ要ス

山形縣 本縣出品ノ種類ハ膳、重箱、盆類、菓子器、硯箱ノ如キ内地向普通品ヲ主トシ特種品トシテハ箆筒、鏡臺、佛壇、竹塗、ボール製漆器其他ニシテ蒔繪物多數ヲ占メ無地物少數ニ止マレリ出品人ハ三十八名ニシテ出品數ハ二百二十七點ニ及ベリ

漆器業ハ縣下工藝品中屈指ノ發達ヲナセシモノニシテ其ノ櫛材ノ堅牢ナルト塗ノ確實ナルト價格ノ甚ダ高カラザルトニ由リ近時其ノ販路漸ク伸張シ產額亦増加シツ、アリ殊ニ山縣市ニ於ケル斯業發達技術ノ進歩ハ今回ノ出品ニ依リ其ノ一般ヲ推知スルコトヲ得ベシ

其ノ一般ハ漆器ノ各種類ニ渡リ其ノ應用ノ器物亦多様ニシテ或ハ呂色木地呂ニ研ギ上ゲ或ハ沈金描金ヲ施シ或ハ朱黒ノ溜メ塗トシ若クハ象眼竹塗卵殼塗其他ノ髹法種々ニシテ製品ハ廉價品ト美術品トアリテ技術各々長短アルモ概シテ研ギニ於テ成功シタルガ如シ蒔繪物ニ在テハ意匠甚ダ幼稚ニシテ其ノ圖式大體ノ配置甚ダ拙ニシテ比較的不難ニ出來上リタル器物ヲ模樣ノ選擇配置ノ不適當ニヨリ却テ之ヲ拙作ニ歸セシモノアリ又形式ノ不良ナルモノアルモ價格ハ概シテ廉ナリ

本縣漆器ノ櫛材ハ凡テ之ヲ縣下ノ產出ニ仰ギ漆液モ亦縣内ニ於ケル產出豐富ニシテ其ノ質極メテ良好山形漆器品質ノ佳良ナルハ其ノ用漆ノ精良ナルニヨルモノ多シ然レドモ近時往々他府縣ノ輸入漆ヲ混用スルモノアルヲ聞ク

本縣漆器ノ主產地ハ山形市飽海郡酒田町西田川郡鶴岡町其他ニシテ其累年ノ產出額左ノ如シ

漆器累年產出額

年次	製造戶數	職工	價額
明治三十九年	一二九	二六八	一二七、〇四八

同	三十八年	一二八	三二〇	一〇五、九三四
同	三十七年	一四七	三二〇	九五、五三〇
同	三十六年	一八七	四七八	八九、一九八
同	三十五年	一八九	五〇一	九三、六六二

縣内漆液ノ三十九年產額左ノ如シ

二、五一六

一五、一九八

主產地南村山郡

秋田縣 本縣出品ハ能代春慶及ヒ川連産普通漆器ニシテ春慶ハ膳、菓子器、卷甚入、硯箱等ノ板物ニシテ川連漆器ハ膳、椀、重箱、盆、硯箱等多ク髹様多種ニシテ研ギ、塗立、或ハ沈金ヲ施シ蒔繪ヲナセルモノアレドモ圖案意匠概シテ幼稚描金ノ技未ダ達セズ金粉往々ニシテ地塗面ニ固着汚染セルモノアルハ不注意ト云フ可シ櫛構ハ種々ニシテ挽キ、曲ゲ、指物ノ櫛ヲ用ユ製作上甚シキ缺點ヲ見出サレドモ椀類ノ歪ミヲ生ジタル重箱ノ蓋大ニ過ギタルアリ一般ノ缺點ハ髹面ノ粗ナルト描金ノ拙ナルト形式ニ雅趣少ナキトニアリ

能代春慶ハ古來著明ノ髹法ニシテ石岡庄壽郎出品ハ凡テ髹面色澤潤瑩ナレドモ價格非常ニ高シ產額亦從テ少ク一般ノ需用ヲ充スニ足ラズ近時岐阜縣其他ニ春慶塗廉價品ノ產出多ク爲ニ能代春慶ハ自カラ廉價品ニ妨害セラレ又從來獨專時代ノ如キ盛ヲ見ズ能代町ニ於ケル製造家僅カニ四戸ニシテ產額亦多

ラズ製品往々ニシテ工費ヲ減シ價ヲ卑フセムトスルノ結果漆面粗ニシテ斑痕アルノ製品ヲ出シ益々世ノ信用ヲ墜サムトスルハ遺憾ナリ

春慶ハ其漆法ノ應用ヲ秋田産各種ノ木材ニ試ミ以テ木理木質ノ美麗ナル櫨材ヲ選擇シ得意ノ春慶漆法ニヨリテ其ノ美質ヲ發揮スルニ勉メ更ラニ漆漆應用ノ器物ヲ廣クシ家具室内裝飾品ノ如キヲ選ミ木工指物ノ機械製作並ニ手工ヲ獎勵シ在來ノ膳、箱類ノ小器物以外ニ堅材ヲ用キタル椅子、テーブルノ如キ大ナル家具ニ應用セバ可ナランカ秋田縣ノ如キ木材ニ豊富ナル漆汁ノ産出又豊カナルノ地ニ漆工業ヲ獎勵セバ其ノ成果期スベキヲ信ズ要スルニ今日名物品のノ状態ヲ脱却シテ工業的生產ノ組織ヲ以テ斯業發展ノ策ヲ講セザル可カラズ

本縣漆器ノ産出額左ノ如シ

年次	製造戸數	職工數	産額
明治三十九年	二九五	七七〇	七七、二三〇 ^円
同 三十八年	二九一	七六五	九六、九四一
同 三十七年	三三〇	七七六	一四九、一三一
同 三十六年	二三四	七五九	一〇一、六一四
同 三十五年	二八五	六二二	一〇〇、三七一

明治三十八年以降産額ノ減少ハ日露戰役後ニ於ケル斯業不振ノ情況ヲ示スニ似タリ

宮城縣 本縣出品ノ種類ハ膳、椀、重箱、硯箱、盆類等ニシテ研キ物多ク根來塗ハ堅牢ノ製品多シ尙繪物ハ少數ニ止マリ出品總數ハ二百七點ニシテ其人員ハ三十三名ナリ外觀稍々精巧ナルモノ數點アレドモ概シテ良好ナラズ一般ニ櫨材ノ乾燥不十分ニシテ瘡目ヲ現スモノ甚ダ多シ研キハ概シテ成功ト云フヲ得ベキモ塗ハ不注意ニシテ塗むらラ生ジ查點ヲ生ズル等ノ缺點少カラズ殊ニ箱物ノ内塗ノ如キ然ルヲ見ル形狀寸法等ハ殊ニ甚シキ缺點ヲ認メザルモ製品ニ優美雅趣ノ點少ク殊ニ描金ヲ施セルモノハ其ノ技概シテ未熟圖案亦幼稚ナルヲ免カレズ

挽物櫨ハ良好ノモノ多ク挽飯鉢、洗面盥及茶盆等ノ如キハ價格廉ニシテ實用ニ適スレドモ漆櫨美良ナラズ櫨地ハ縣内玉造宮城兩郡及仙臺市ニ之ヲ製造シ漆汁縣内ノ累年産額ハ次ノ如シ

年次	製造戸數	職工數	産額
明治三十九年		四一二 ^円	三、〇〇四 ^円
同 三十八年		一四七	一、〇九二
同 三十七年		二二六	一、七四六
同 三十六年		一七〇	一、二〇八

本縣漆器ノ主産地ハ仙臺市及玉造郡ニシテ累年ノ産額ヲ表示スレバ

年次	製造戸數	職工數	價額
明治三十九年	一三二	四〇五	九五、三〇二 ^円

漆器審査報告

同	三十八年	八一	三二二	八二、五四一
同	三十七年			七九、九六八
同	三十六年			七〇、五六五
同	三十五年			四〇、四六二

二百二十八

青森縣 本縣出品物ハ唐塗板地ニシテ重箱、會席膳、菓子器、硯箱ノ如キ實用品ヲ主トス出品點數ハ一三九點ナレドモ出品者ハ僅々七名ニ過ギズ
 津輕塗ハ特ニ蒔繪ヲ施サズト雖モ製品ハ概シテ榿構榿漆共ニ堅牢ニシテ花紋亦温雅研磨ノ技熟練榿色温優光澤美良ナルモノ多シ然レドモ榿様ハ一般ニ其ノ規一ニシテ只僅カニ榿色ニ變化アリ形式ニ多少ノ考案ヲ加ヘタルモノアレドモ箱類ハ内面ノ榿様不良ニシテ往々粗劣ナルモノヲ認ム
 榿ノ乾燥ハ十分ナルガ如キモ瘠目ヲ表スモノアリ唐塗ハ木地ノ乾燥ヨリ製作仕上ニ至ルマデ約四十二回ノ手數ヲ施シ頗ル入念ノ作多ク俗ニ馬鹿塗ト稱ス堅牢ト一種花紋ノ美ト相俟テテ需用漸ク廣ク累年其ノ産額ヲ増加セリ然レドモ日用品トシテハ價格少シク高キヲ患トス
 本縣漆器ノ主産地ハ弘前市ニシテ青森市ノ産額ハ少シ縣下累年ノ漆器産額左ノ如シ

年次	製造戸數	工人	産額計
明治三十九年	一八	五〇	四五、〇五九

年次	製造戸數	漆汁	價額
同 三十八年	一六	三一	三〇、〇八〇
同 三十七年	二三	四四	二三、五四七
同 三十六年	二二	四八	二一、五九八
同 三十五年	一八	四四	二八、三〇四

縣内漆汁ノ産額ヲ舉レバ

年次	製造戸數	漆汁	價額
明治三十九年	五八	四〇三五	二四、〇三三
同 三十八年	六八	四五八九	二一、六九三
同 三十七年	六九	四六二八	二四、一三二
同 三十六年	一〇三	六〇一〇	三〇、三二四
同 三十五年	八二	五四二二	二九、一一〇

本縣漆器ノ改良スベキ點ハ第一手工繁多ノ爲ニ高價ナル其ノ價格ヲ低廉ニシ以テ販路ノ擴張ヲ計ルルヲ要ス榿材蒸乾法ハ在來行ハル、處ニシテ良好ノ効果ヲ示シツ、アルガ如シ箱類ノ製作ノ如キハ木工機械ヲ使用シ木地木工ノ製作工場ヲ起シ榿ノ改良ヲ畫シ且ツ共同製漆場ヲ設ケテ縣下産出ノ漆液ヲ精製シ更ラニ販賣組合ヲ組織シテ斯業ノ改良發達ニ務メ以テ生産ノ増加ト販路ノ擴張ヲ謀ラザル可カラ

聞ク縣立工業講習所ヲ設ケテ木地ノ製作ヲ企ツト誠ニ徒勞ヲ養成シ漆工技術ノ研究ヲ重ナルハ目下ノ急務ト云フ可シ

岩手縣 本縣出品ハ主トシテ其特産タル椀類多數ヲ占メ膳、重箱、硯箱ノ如キハ數點ニ過ギズ出品人三十一名ニシテ其ノ出品數僅ニ六十一點ニ過ギズ一般ニ椀類椀類共ニ下等ナレドモ價格頗ル低廉ニシテ需用ヲ滿タスニ足ル

本縣漆器ノ主産地ハ二戸郡荒澤村ニシテ來歴甚古ク南部椀、淨法寺塗ノ名聲ハ昔時ヨリ遠近ニ聞エタリシモ維新後遂々衰退シ今尙十分ノ發達ヲナス能ハズ今回ノ出品ハ形狀椀類共ニ進歩シ椀地ノ底部肉厚キヲ減ジ椀地ノ研磨モ幾分注意ノ點ヲ認ムルト雖モ椀ノ仕上尙ホ不良ニシテ漆質ノ美ヲ發輝スル能ハズ會津ノ製品ニ比スベキモノニアラザルモ資質堅牢價格低廉ナルヲ以テ更ラニ一層椀材ノ乾燥ト仕上ニ注意シ其ノ形狀ト髹技ノ改良ヲ計ラバ内外ニ販路ヲ擴張シ得ルノ見込十分ナリ

本縣漆器累年ノ産額左ノ如シ

明治	四十年	三〇、〇〇〇 ^冊
同	三十九年	二五、〇〇〇
同	三十八年	二三、〇〇〇
同	三十七年	二三、〇〇〇

同 三十六年

二四、〇〇〇

以上各縣ヲ通觀シテ斯業ノ改良ス可キ諸點ヲ列舉スル左ノ如シ

- 一、廣ク各種ノ器物ニ髹漆ノ應用製作ヲ試ムルコト
- 一、圖案意匠ノ改良ヲ計ルコト
- 一、髹工研磨描金ノ技ヲ煉達シテ其ノ技術美ヲ發輝スルコト
- 一、木工髹漆描金ノ各部ヲ獨立專業トナスコト
- 一、木地ノ器械製作ヲ企テ精巧廉價ノ髹ヲ供給スルコト
- 一、各種ノ彩漆ヲ以テ髹飾スルコト
- 一、秋田春慶ニ堅材ノ髹ヲ應用スルコト
- 一、上等品ニハ澁地ヲ使用セズ本堅地トスルコト
- 一、惡漆ヲ使用セザルコト
- 一、價格競争ニ因スル粗製ヲ戒メ其ノ聲價ヲ維持スルコト
- 一、廣ク各地ノ漆器業地ヲ調査シ時勢ニ後レザル製作ヲナシ價格ト品質ヲ以テ市場ニ起テ其ノ販路ヲ擴張スルコト
- 其他廉價品ニ印刷卷繪ヲ施スガ如キ或ハ木椀以外ノ髹質ヲ使用スルガ如キ楢圓ノ挽髹ヲ製作ス

ルガ如キ或ハ各種ノ製作法ヲ習得應用スルガ如キ學術的ニ技術的ニ宜シク百般漆工ノ改良ヲ計ル可キナリ

要スルニ東北ハ各縣共ニ漆汁ヲ産出シ山林亦豊富美質ノ櫟材ヲ産出シ交通ノ便又昔日ノ比ニアラズ北海ニ關東ニ益々其ノ販路ヲ開拓シ更ラニ腕ヲ伸バシテ輸出ヲ海外ニ策セバ其ノ需用殆ド無限ト云フモ不可ナキニ似タリ當業者須ノ奮勵共同シテ或ハ製作技術ニ或ハ意匠圖案ニ鍊磨改良ノ實ヲ擧ゲ益々斯業生産ノ増加ト販路ノ發展ヲ期スベシ

陶磁器審査報告

奥羽六聯合共進會ニ於テ陶磁器ノ出品ニ加ヘラレシハ今回ヲ以テ初メトス故ニ前回トノ比較概評ヲナスコト能ハズ今回ノ出品ハ青森縣ヲ除キ福島、山形、岩手、宮城、秋田ノ五縣ニシテ出品總點數七百三十七點出品人員百〇五人ナリ
審査ニ關係セシ人名左ノ如シ

審査官	黒田正策
審査員	川本秀雄
同	岸庄吾

審査ノ方法

第一 鑑定

第一項 素地釉藥並ニ顔料ノ適否

第二項 製作技術ノ巧拙

第三項 意匠考案 價格 用途ノ適否

第二 調査

出品解説書其他責任アル調査ニヨリ本業ノ状態並ニ出品者ノ業狀ヲ調査ス

各縣別、受賞數、出品點數、出品人員並ニ歩合左表ノ如シ

縣別	出品點數	出品人員	一等	二等	三等	四等	合擬賞數	出品人員ニ對スル擬賞ノ歩合
福島縣	四七一	七五	一	二	七	一七	二七	三・六〇
山形縣	二二五	二四		二	二	九	一三	五・四〇
岩手縣	二二	二				一	一	五・〇〇
宮城縣	一五	一				一	一	一〇・〇〇
秋田縣	五	三	一	四	九	二八	四二	四・〇〇
計	七三七	一〇五	一	四	九	二八	四二	四・〇〇

各縣別審査概評

福島縣ノ出品ハ其數最モ多ク其内大沼郡、北會津郡、雙葉郡産陶磁器ヲ主トシ相馬郡、岩瀬郡、若松

市、安達郡、石川郡等其數僅少ニシテ日用品即チ土瓶、茶器、酒器類大部分ヲ占ム會津同業組合ノ名義ニテ出品セル電氣用碍子ハ現今大沼郡、北會津郡各陶磁器製造業者ニ於テ一般ニ製作ヲナスニ至リ年々其產額ヲ増加シ全國中第一位ヲ占メントスル迄ニ進歩發達ヲナセリ將來一層ノ研究ヲナシ同地方ノ特有ノ產物タランコトヲ期ス輸出向及内地向製品ニ至リテハ進歩ノ點ヲ認メズ之レ或ハ碍子製造ニ重キヲ置キ普通日用品ヲ輕視セルノ感ナキ能ハズ是レガ改良ヲ計ランニハ電氣用碍子ト普通品製造ヲ全ク區別シ専門的製造方法ヲ執レバ内外用品共ニ改良進歩ヲ見ルコトヲ得ベシ

相馬燒ハ原料ハ獨特ニシテ古來雅致ニ富ミ駒繪ノ風韻高キヲ稱賛シ其名ヲ博セリト雖モ現時形狀、意匠其他改良ニ留意セルノ點ナク殊ニ雙葉郡ヨリハ產出多量ニシテ粗製ニ流レ水金ヲ以テ燒付ヲナシ價格比較的高ク却テ品位ヲ墜落シ甚シキ至リテハ花瓶等ニ表裏ノ別ヲナシ自己製品ニ對シ不親切極マレルモノアリ大ニ戒メザル可カラズ從テ中流以上ノ生活者ニ適應セルモノ少ク一層ノ研究方法ヲ講ジ聲價ノ落チザル様注意ヲ要ス

山形縣ノ出品ハ其數第二位ヲ占メ產地ハ南村山郡瀧山村字平清水ノ一小部落ニシテ從來下等ノ甕、徳利、類ヲ製造セシガ近年縣當局者ノ獎勵其宜シキヲ得一躍シテ良好ナル磁器並ニ陶器ノ日用品及美術工藝品等ヲ製造スルニ至リ今回ノ出品ハ實ニ長足ノ進歩ト云ハザル可カラズ然レドモ是レ平清水ニ對スル評言ニシテ他地方ノ製造品ト競争場裡ニ立タンニハ尙一層ノ苦心經營ヲナサザル可カラズ今回出品中丹羽定五郎ノ花瓶其他日用品並ニ甕類ニ至ルマデ改良上ノ苦心ノ跡歷然タリ同地方ハ原料豐富ナリト雖モ粉碎ニ困難セルヲ以テ機械的粉碎ノ方法ヲナセバ安價ノ原料ヲ得從テ製產額ヲ増加シ將來有望ノ地トナルベシ

岩手縣ハ盛岡市ヨリ出品者僅カニ二名ニシテ茶器類ヲ主トセリ製作技術未ダ幼稚ナリト雖ドモ形狀意匠ニ改良ヲ加ヘバ愛知縣常滑燒ノ如ク一種ノ日用品トシテ適應スルヲ得ベシ

宮城縣ハ仙臺市ヨリ出品者一名ニシテ水甕、土管類トス其製品大ナルヲ以テ燒成困難ナリト雖モ尙研究ヲナセバ同地方一般ノ需要ヲ増加シ得ベク將來有望ナリト認ム

秋田縣出品ハ十二點三名ニシテ植木鉢、土管ニシテ製品拙劣見ルベキモノナシ

金屬製品審査報告

審査官 今 景 彦

明治四十一年四月二十二日ヨリ所屬審査員山本鹿洲ト共ニ擔當物品ノ審査ニ着手シ同月三十日之ヲ結了セリ依リテ茲ニ其審査ノ成績ヲ掲グ

第一 出品及受賞表

聯合縣名	出品點數	出品人員	受				賞				
			一	二	三	四	一	二	三	四	
福島	三〇七	五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形	三八八	五七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城	八一	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
秋田	六三四	五一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手	六九六	九三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青森	五〇	一一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	二、一五六	二七九	二	七	一四	五五	七八	—	—	—	—

第二總評

本類ノ出品總數二千五百五十六點ニシテ之ヲ第五回興羽六縣聯合共進會ノ出品總數九百六十六點ニ比スレバ二倍以上ノ多キニ達シ其製品題目ノ範圍モ亦著シク擴張サレタルノ點ニヨリテ之ヲ見レバ同地方ノ金屬工業ハ從來世間ノ冷視ヲ蒙リシ程憫ムベキモノニアラザルナリ加之今回ノ出品中ニハ諸種ノ點ニ於テ舊來ノ境遇ヨリ脱出セント欲シテ努力シタルノ形跡歴々トシテ觀ルベキモノ尠ナカラズ之レ大ニ注目スベキ點ナリ此機ニ際シ指導獎勵宜シキヲ得バ斯業ノ合理的發達ヲ見ルコト蓋シ難事ニアラザルベシ就中秋田ノ銀器若手ノ鐵器山形縣ノ刃物及銅器福島縣ノ鋸製造業等ニ對シ或モノハ意匠圖案ニ於テ或モノハ其製作技術ニ於テ或モノハ其製品題目ノ選擇ニ於テ或モノハ其事業經營ノ方法ニ於テ確

乎タル方針ヲ立テ適實ノ研究ヲ積ムアラバ將來有望ノ工業タルヲ疑ハズ

第三 縣別評

秋田縣 秋田銀器ハ舊ニ場中ニ於テ異彩ヲ放ツノミナラズ該工藝ノ前途ハ頗ル有望ナリト云フベシ殊ニ今回ノ出品者ガ其製作ニ苦心セシハ多トスルニ足ルト雖ドモ其技ノ進境未ダ著シカラス就中圖案ノ應用、模様ノ描出ニ拙劣ナルハ甚ダ遺憾トス而モ其拙劣タルヤ幼兒ノ書道ニ於ケルガ如ク愛スベク掬スベキモノニアラズシテ中學生ガ名流ノ書風ヲ模擬シタルガ如キ厭フベク忌ムベキモノナリ出品ノ種類ヲ上グレバ花瓶、香爐、手爐、水瓶、茶器、コップ、盃等ナルガ何レモ秋田露花鳥ノ寫生模様ヲ片切彫トナセリ之レ出品者獻身ノ技タランモコレアルガ爲ニ反テ其美ヲ損シタルモノ少シトセズ元ヨリ片切彫ノ技ヤ古來名工ノ以テ難技トセシモノ其容易ニ成功ノ域ニ達セザル敢テ怪ムニ足ラザルナリ

今ヤ彫金界ノ大勢ハ片切彫ノ時代ヲ經過シテ模様打出ノ時代ニ變移シツ、アリコ、ヲ以テ自ラ片切彫ノ名手ヲ以テ任ズルモノト雖ドモ既ニ此大勢ニ抗スルコト能ハサルヲ見ル而シテ獨リ秋田銀器ノ當業者ガ此大勢ニ逆ヒ古來名匠ノ以テ難事トセシ所ヲ學ブ其意氣或ハ賞スルニ足ランモ理ニ迂ナルモノト云フベシ若シ忌憚ナク秋田銀器ヲ評スレバ其裝飾的加工ハ反テ貴金屬製品ノ價值ヲ下スモノト云フベシ予ガ誠心當業者ニ向ツテ忠告セント欲スルハ從來ノ彫金の加工ヲ廢シ先ヅ板金の研習ヲ主トシ次ニ美的銀器ノ製出ニ移ランコトニアリ而シテコレガ實行方案トシテハ適當ノ專門教師ヲ聘シテ先ヅ槌金

法、鐵附法、磨キ法等ニ關シ合理的ノ研習ヲ積ミ一方ニハ製品題目及圖案ヲ選定シ裝飾的加工ニアリテハ模樣打出、透彫、平象嵌等ヲ選ブベキモ可成無地物ノ製出ニ努力セバ直接市上ニ於テ其聲價ヲ上グルノミナラズ中央都市ニ於ケル工藝家ノ手ト相待ツテ更ニ秋田銀器ノ販路ヲ擴張シ得ルコト決シテ難事ニアラザルナリ

銅器ノ中青銅器ハ稍々進境ヲ認メントスト雖ドモ尙其研習ヲ要スルノミナラズ古器模造ニ傾カントスルガ如キハ首肯シ能ハザル所トス板金工銅器ニアリテハ其出品甚ダ少ナキガ故ニ指評スルニ足ラズト雖ドモ該工藝ヲ發達セシメ銀器ト相並ンデ有望ナルヲ信ズ

鐵瓶ハ一種ノ形式ヲ成スニ至レリト雖ドモ未ダ以テ誇ルニ足ラザルナリ

岩手縣 同縣ニ於ケル鐵工業ハ產額約五拾萬圓ニシテ盛岡市貳拾壹萬四千九百有餘圓ヲ最トシ江刺郡ノ拾萬五千參百五拾圓和賀郡ノ拾萬貳千貳百餘圓之レニ亞ギ柳貫郡ノ壹萬九百六拾圓膽澤郡ノ四千圓等之ナリ而シテ盛岡市ニ於ケル製品ハ南部鐵瓶之ガ主位トナリ鍋、釜、刃物、農具等之レニ亞グ江刺郡ニアリテハ青銅器、鍋、釜類ヲ主トシ和賀郡、膽澤郡ニ至リテハ刃物ヲ主トセルモ近時仙人製鐵所ノ鑄鐵業ヲ營ムニ至リ和賀郡ニ於ケル鑄鐵製品ノ產額ハ俄カニ増大セラレタルガ如シ今同製鐵所ノ出品ニカ、ル大形鍋釜ノ如キ大ニ見ルニ足ル

南部鐵瓶ハ實ニ岩手縣ニ於ケル金屬工業ノ主腦タルノミナラズ奥羽名産ノ一タルヲ失ハズゴ、ヲ以テ

近時合名會社或ハ株式會社ヲ組織シ專ラ其製産力ノ増大ニ努力スルノ傾向アルハ大ニ喜ブベキ現象ナリトス何トナレバコレ所謂南部鐵瓶業ノ營業組織ニ對シ一生面ヲ開カントスルノ兆候ヲ示シタルモノナレバナリ然リト雖ドモ會社ハ單ニ資本運用ノ利便ノミニ止マリ製作技術、意匠考定等ニ關シテ技能ヲ有スル統括的人物ヲ缺ケルガ如キ觀アルハ注意ヲ要スベキ點ニアラザルカ今同出品中ニモ同一人ノ製作品ニシテ會社名ヲ以テ出品シタルモノト作者ノ名ヲ以テ出品シタルモノアルガ如シ而シテ其會社名ノモノハ本人名義ノモノニ比シテ常ニ粗品ナルヲ認メタリ由來南部鐵瓶ハ皆ニ其形體雅趣ニ富メルノミナラズ其實ノ精堅ニシテ鑄技ノ優秀ナルヲ以テ名アリ實ニ此點ニ於テ南部鐵瓶ハ京釜ノ上位ヲ占ムルモノタリ故ニ若シ此點ヲ忘レテ粗製ニ傾カンカ川口鐵瓶ト選ブ所ナク又單ニ美的趣味ヲ主トシテ其實ノ精堅ヲ忘レンカ或ハ南部鐵瓶ノ真髓ヲ失ハントコトヲ恐ルコレ實ニ今回出品中其形體美ノ點ニ於テハ場中ノ白眉タリシニモ拘ハラズ鑄損シヨリ生シタル寸大ノ大孔ヲ填充スルニ漆ヲ以テセルモノアルヲ見タルニヨリ南部鐵瓶ノ將來ヲ慮リ忍ンデ無賞トセシモノアルヲ遺憾トス

若シソレ今回出品ノ小泉仁左衛門作の丸鳥形湯釜ノ如キハ其鑄技ニ於テ南部鐵瓶ノ粹ト稱スベク木村松太郎、有阪安太郎ノ出品ハ何レモ南部鐵瓶ヲ代表スルニ足ル

山形縣 同縣出品ノ青銅器ハ場中ノ一異彩ニシテ冷視スベカラザルモノナリト雖ドモ未ダ特徴ヲ有スルニ至ラズニ三拙劣ナル蠟型燒流ノ製品アリト雖ドモ其鑄技ニ重キヲ置カズ仕上ヲ主トスルノ諸點

寧口高岡物ニ酷似スルハ大ニ研究ヲ要スベキ問題ニアラザルカ予ハ青銅器ニ於テモ鑄出ニ力ヲ盡シ可成刀鋸ヲ加ヘザルモノアルヲ要求スコレガ研習ノ第一著手トシテハ原型作成ノ方法即チ蠟型製作法ニ重キヲ置カザルベカラズ其方法トシテハ年々講習會様ノモノヲ開キ工人ニ對シ實際上ノ習練ヲ與フルヲ可トス而シテ一方ニハ製品題目及其意匠等ヲ考究スルアラバ山形青銅器ノ前途望ヲ屬スルニ足ル刃物類ニハ頗ル精銳ナルモノアリ桑切庖刀ノ薄肉ニシテ切味ノ良キ鎌ノ火作り熟達ニシテ鋼ノ取扱ニ巧ミナル他五縣ノ上位ヲ占ム若シレ營業組織ヲ考究シ更ニ其手腕ヲ振フベキ範圍ヲ擴張スルアラバ更ニ有望ナルベキヤ疑ヲ容レズ

次ニ同縣出品中大ニ注目スベキモノハ鑄鐵製品ノ概シテ其鑄出模様ノ鮮明ナルコトニシテ此點ニ於テハ岩手、秋田諸縣ノ出品中ニ於テ見ル能ハザル特徴トス今同二等賞ニ擬シタル菊池熊治出品ノ棕栢模樣寸筒形花瓶ノ如キハ實ニ其最タルモノナリ之レ固ヨリ技術者ガ熱心研鑽ノ結果タルベシト雖ドモ之ニ使用スル材料中同地方天與ノモノナクンバアラザルヲ信シタルニヨリ特ニ審査員山本鹿洲ヲ同地ニ派シテ其調査ヲ托シタリ本紙報告書編成ノ際未ダ其調査ノ結果ヲ手ニスルコトヲ得ザリシガ故ニ茲ニ之ヲ記述シ能ハザルヲ遺憾トス予ハ望ム山形縣ニ於ル鑄造家ハ徒ラニ鐵瓶風呂湯釜等ノ製作ニ腐心シ南部鐵瓶ト共ニ其優劣ヲ爭ハントスルガ如キ迂ヲ廢シ小ニシテハ戶金具暖爐前飾リノ如キ大ニシテハ電燈臺瓦斯燈柱ノ如キ種々有用ノ題目ヲ選ビ一意其特色發揮ニ努力セバ將來有望ノ工業タランカ

福島縣

同縣出品中最モ見ルベキモノハ大平善藏ノ機械製鋸トス其製品ノ良好ニシテ製産力ノ大ナルト價格ノ廉ナル等鋸製造業ニ對シ一新天地ヲ開拓シタルモノト云フベシ之レ畢竟其製作技術ニ於テ

其營業組織ニ於テ共ニ合理的ナルノ致ス所ナリ例ヘバ動力應用ノ「ハンマ」ヲ使用シテ鐵ノ槌展ヲ容易ニシ或ハ「ホンチングメシン」ヲ使用シテ其刃ヲ打抜キ「ミリングメシン」ヲ使用シテ刃先ヲ形成スルガ如キ或ハ燒入法ヲ考究シタルガ如キ鋸製造技術ニ關スル主要點ニ對シ合理的ニシテ且ツ經濟的ノ改良ヲ加ヘツ、アルハ達見ト云フベシ又其營業方法ノ如キモ能ク其要ヲ得タルモノナルヲ認ム

同縣ニ於ル其他ノ鋸製造業者ハ何レモ皆自家の小工業ニヨリ製出スルモノナリト雖ドモ其產額少ナカラザルノミナラズ往々精鍊見ルベキモノアリ若シ營業者相計リ相携ヘテ益技術ノ進歩ヲ計ルト同時ニ營業方法ニ關シテ考究スル所アラバ鋸ノ產地トシテ標榜スルニ至ランカ

刃物類ニアリテハ出品中往々銳利ノモノアリト雖ドモ獨特ノ長所ヲ認ムルコト能ハズ須加川ノ鑄鐵器ニシテ若シ能ク輕快薄肉ノモノヲ鑄出センカ其製品題目ノ範圍ヲ擴張シ其產額ヲ増大スルコト難事ニアラザルベシト雖モ未ダ工人ノコ、ニ着眼セザルヲ遺憾トス若シソレ其形體ノ古雅ニシテ鐵色ノ掬スベキ點ニ至リテハ場中ノ珍トナスニ足ル

宮城縣、青森縣 兩縣ノ出品點數ハ相合シテ僅カニ一百三十一點ニ過ギザルノミナラズ兩縣共ニ特産ノ金屬製品トシテ見ルベキモノ、出陳ヲ見ザルハ惜ムベシ青森縣ノ二唐式草切機械ハ其構造簡易ニ

シテ實用ニ利便多キヲ認ム

蠶表及花莖審査報告

審査官 蜂谷徳三郎

今回ノ出品ハ宮城縣最モ多數ヲ占メ福島縣之ニ次ギ秋田、青森二縣又之ニ次グ岩手、山形二縣ハ甚ダ少ナシ而シテ其出品點數四百六十餘點出品人員四百餘名ニ達ス之レヲ前回ニ比スレバ各約四倍餘ノ増加ナリトス是レ蓋シ戰後輸出向花莖ノ好況ヲ呈セシト内地向蠶表ノ需要激増ノ爲メ本業ノ發達ヲ催進セシニ依ルナランカ

本會出品ノ蠶表ヲ通觀スルニ原料ノ栽培、選擇、製作等ニ至ルマデ進步ノ狀況著シク製品大ニ觀ルベキモノナキニ非ラザレドモ製品精巧ニ近キモノハ價格不廉ニ屬シ比較的價格廉ナルモノハ粗製タルヲ免レズシテ本場製品ニ比シ未ダ遜色ナキ能ハズ由來奥羽地方產出ノ蠶表ハ其價格ノ廉ナルヲ長所トセリ然リト雖ドモ徒ニ主眼ヲ價格ニ置キ製品ノ精粗ヲ顧ミザルガ如キニ於テハ斯業ノ發達ヲ期スベカラズ當業者タルモノ一層奮勵以テ本業ノ進步改良ヲ謀ルコト肝要ナルベシ

花莖ノ製作技術ニ至リテハ各縣トモ未ダ幼稚ノ域ヲ脱セス漸ク内地向製品ノ少數ニ止マリ宮城縣ノ十四點秋田縣ノ十二點青森縣ノ十一點福島縣ノ八點山形縣ノ一點等ニシテ優良ト認ムベキモノナク原料

染色地合耳組等ニ於ケル缺點尠カラザルノミナラズ意匠ノ如キモ斬新ヲ缺キ加フルニ價格低廉ト云ヒ難シ之レ製造家ノ規模小ニシテ比較的多額ノ製産費ヲ要シタルモノナルベシト雖モ是等ハ改良ノ必要アルベシ

尙出陳製品ノ原料ヲ仔細ニ鑑別スルニ硬軟適度ヲ失スルモノ或ハ伸長不良ナルモノアリ然ルニ蠶表及花莖ノ原料タルニ貴ブ所ハ長箇ナルヲ以テ宜シク長莖ヲ得ルヲ專要トシ且ツ其莖太キニ失スルコトナク全莖ヲ通ジテ細大ノ差尠ナク且ツ其莖ノ太サ均一ヲ保チ色澤ハ根本ノ白味甚ダシカラズ穂先ノ枯死シ黑色ヲ呈スルコトナク一般ニ青白色ノ光澤ヲ有セシムルニアリ蠶表花莖ノ白地ハ此光澤ノ有無ニ依リ品位ヲ上下セラル、モノナリ故ニ將來一層原料ノ栽培、貯藏等ニ注意ヲ加ヘ近時長足ノ進步ヲナシツ、アル蠶表、花莖工業上原料缺乏ノ聲ヲ絶チ併セテ製作技術ニ改良發達アラシムコト切ニ希望スル所ナリ

尙各縣ノ製品ニ付テ左ニ概評ノ一斑ヲ掲ゲ以テ參考ニ供スベシ

宮城縣 名取、栗原ノ兩郡ハ古來ヨリ農家ノ副業トシテ蠶表ヲ産セシモ辟價振ハザリシガ近來當業者ノ熱心改善ノ策ヲ講ゼルト當局者ノ指導獎勵宜シキヲ得タルトニ依リ産額増加シ面目ヲ刷新セントスルノ機運ニ向ヒシハ本業ノ爲メ賀スベキ所ナリ然レドモ製品ヲ仔細ニ鑑別スルトキハ改良ノ餘地尙存スルヲ認ム第一箇質概シテ軟弱且ツ全莖ヲ通ジテ細大ノ差アリ又製品ノ根部ニ「アマ」皮ヲ織込ミア

ルモノ多シ之レ原料仕上ノ不完全ニ起因スル所ナルモノニハ根本細小ノ爲メ之ヲ除去スルトキハ耳側ニ於テ地合ノ荒レヲ來スヲ恐ルルニアラザルカ尙光澤一般ニ乏シキ憾アリ

花筵ニアリテハ製作未ダ幼稚ニシテ原料ノ選擇不齊一耳組不完全地合ニ厚薄アリ染色又鮮明ナラズ當業者タルモノ一層氣候土質施肥ノ關係並ニ原料栽培ノ方法ヲ攻究シ進ンデ製作技術ノ改良ヲ施シタランニハ製品亦大ニ觀ルベキモノアラン斯業ノ爲メ當業者ノ奮勵ヲ望ム

福島縣 製産地ハ相馬、安達、岩瀬、石城、石川等ノ諸郡ニシテ傳習生ヲ岡山縣ニ派遣研究ナサシメ又傳習所ヲ設立シ以テ技術者ノ養成ニ力メ尙組合ヲ組織シ粗製濫造及販路ニ關スル取締ヲナス等本業ノ發達ニ盡シツ、アリ爲メニ改良ノ形跡大ニ見ルベキモノアレドモ苗質一般ニ稍々硬ニ過ギ地合ノ織込ミ困難ニシテ本場製品ニ及バザルコト遠シ光澤ハ稍々可將來之レガ栽培ニ一層ノ注意ヲ加ヘ土質施肥等ノ方法ニ付攻究ヲ費サレンコトヲ肝要ト認ム

花筵ニアリテハ間物額縁ノ出品アレドモ染色不可紋花筵ニアリテハ地合ノ織込不充分且ツ模様ハ鮮明ヲ缺ク等ノ缺點尠ナカラズ

岩手縣 出品點數漸ク二十六點ニシテ全般ノ批評ヲ下シ難キモ概シテ苗質軟弱ニシテ原料ノ選擇齊一ヲ缺キ織仕上等ニ於テモ缺點アリ當局ノ獎勵ト奮勵トヲ望ム所ナリ
青森縣 明治二十七八年ノ頃二三ノ士本場産地タル岡山、廣島三縣ニ至リ栽培製造ノ法ヲ研究スル

所アリ次デ三十二年岡山縣ヨリ教師ヲ聘シ栽培試作セシニ其成績頗ル良好ナリシヲ以テ爾來斯業ノ改良發達ニ力ヲ傾注セリト云フ今回ノ出品ヲ觀ルニ原料ノ選擇ヨリ地合光澤ニ至ルマデ優良品ト認ムベキモノアレドモ價格稍々不廉ニ失スル感アリ尙缺點ヲ舉ゲレバ苗質稍々軟弱ノ弊アリ且ツ原料ノ選擇粗漏ノ結果往々枯苗ヲ織込ミ又原料ノ黒味ヲ帶ブルモノアリ而シテ本縣産ハ一般ニ苗質青味ヲ有スルヲ以テ根本ノ白味ヲ共ニ製織スル時ハ大ニ際立チ品位ニ大ナル關係ヲ及ボスヲ以テ當業者タルモノ此等ノ諸點ニ注意ヲ拂ヒ益々勵精本業ノ發達ヲ圖ラレンコト希望ニ堪ヘズ

花筵ハ一般ニ品質稍々齊一地合可ナレドモ染色不完全ニシテ着衣等ヲ汚損スルノ憂アリ是等ハ改良ヲ要スベキ點ナリト認ム

山形縣 出品漸ク十三點ニシテ原料ノ選擇光澤及地合等缺點アレドモ其一般ヲ批評スルヲ得ズ切ニ今後ノ發達ヲ望ム

秋田縣 近來斯業ノ熱心獎勵ニヨリ出品中優良ナルモノハ本場製品ニ類似セルモノアリテ地合光澤共ニ善良ナレドモ苗質稍硬キニ失スル缺點アリ

花筵ハ露、模様、紋、花筵、袋織等ノ精巧ニ近キモノアレドモ前者ハ耳組不完全ニシテ彎曲ヲ呈シ後者ハ地合厚薄アル等技術未ダ幼稚タルヲ免レズ
當業者奮勵マズ一層改善ノ途ヲ講ゼバ將來ノ發達期シテ俟ツベキモノアラン

今出品點數、人員、擬賞及其割合ヲ縣別ヲ以テ示セバ左表ノ如シ

縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
			一等	二等	三等	四等		
宮城	一九九	一九二	—	—	—	—	三七	一九三
福島	九二	八二	—	—	—	—	一七	二三二
岩手	二六	二六	—	—	—	—	五	二六九
青森	六二	五五	—	—	—	—	四	三二七
山形	一三	一二	—	—	—	—	二	二五〇
秋田	六九	三七	六	二	—	—	二	四三三
計	四六一	四〇四	六	二	九	八五	一〇〇	二四五

木工品審査報告

審査官 秋 保安 治

木工品ヲ出品シテ審査ヲ施スニ到レルハ今回ヲ以テ嚆矢ト爲ス而シテ今回ノ出品ハ和洋家具類、埋木及樺細工、挽物曲物及木地物、下駄ノ四品ニシテ其出品點數ハ二千百九十四點人員二百三十九名ナリ其分類ハ左ノ如シ

木工品出品統計表

縣名	和洋家具		埋木及樺細工		曲物挽物木地其他		下駄		計	
	出品點數	出品人員	出品點數	出品人員	出品點數	出品人員	出品點數	出品人員	出品點數	出品人員
福島縣	七〇	一九	—	—	三五	二〇	六一	一三	一六六	五一
宮城縣	五九	一七	二六五	一九	一四八	二六	三三	八	四〇五	七〇
岩手縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青森縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形縣	七五	一〇	—	—	五〇	七	—	—	一二八	一八
秋田縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二三五	五八	三二七	三六	三〇一	八〇	三四一	六五	一一九四	二三九

右ニ對シ審査ヲ行フニ當リ小職ハ奥羽地方目下ノ必要ト該地方當業者ノ技術ノ程度トヲ標準トシテ審査ニ對スル方針ヲ左ノ如ク定メタリ

奥羽地方ハ木材豊富ナルニモ拘ラズ木工品ノ技術未ダ甚ダ低ク鑑識ノ點ニ於テモ頗ル幼稚ノ時代ニアルヲ以テ今回ノ出品ニ對シテハ突飛ナル象眼又ハ彫刻ヲ施スガ如キハ之レヲ戒メ可成豊富ナル材料ヲ巧ミニ利用シテ廉價ニ器用ニ實用的木工品ヲ作ルコトニ力ヲ致サシムルヲ目的トシ審査ノ方針ニシテ實用的價值及意匠適用如何ニ偏サシメタリ

第一 鑑定

木工品審査報告

- 一、材料、材料ノ良否其應用ノ適否
- 二、構造、工作法ノ適否、堅否及學理應用ノ程度
- 三、形狀、各部割合ノ適否、一般形狀ノ良否
- 四、意匠、色彩及模様ノ配置上ノ適否、線形等ノ良否
- 五、代價、價格ト品物トノ對照、實用上代價ノ適否

第二 調査

- 一、本業ノ經歷及規模
- 二、各縣斯業獎勵ノ方針
- 三、改良ニ對スル研鑽ノ狀況
- 四、工作上特別ナル方法、業務經營上ノ方法

如上ノ方針ニ基ツキ以上掲グル所ノ方法ニヨリテ出品一般ヲ通覽スルニ、大體ニ於テハ最近數年ノ進歩ノ頗ル著シキヲ認ムルニ難カラズト雖ドモ、少シク仔細ニ之レヲ觀察スルトキハ奥羽地方多年ノ舊慣ヲ墨守シ、其何レノ點ヨリシテモ改良考案ヲ要スル事甚ダ多キニ居ルヲ觀ルナリ、而シテ其最モ著シキ共通ノ缺點ト認ムベキモノハ、材料ノ不經濟、不調和、着色、配色及形狀ノ不完全及價格ノ比較的廉ナラザルノ點ニ存スルガ如シ、今之レヲ各部ニ分チテ之ガ批評ヲ試ミ、併セテ之レガ改良ニ關ス

ル一二ノ私見ヲ述ベントス

(一) 和洋家具

椅子、テーブルノ如キ西洋家具及箆笥、戸棚等ノ如キ所謂和風家具ナルモノハ比較的運搬上ノ不便ヲ伴フ製作品ナルヨリシテ各地共ニ地方的ノモノニシテ縣外輸出品トシテ見ルベカラザルハ獨リ奥羽地方ノミニアラズト雖ドモ就中奥羽ノ地ハ交通ノ便ナク爲メニ各縣夫々土地ノ需用ヲ充タスヲ以テ主ナル目的トシテ製造セラレタルモノナリ、從テ聯合各縣ハ悉ク夫々襲踏シ來リタル人情習慣ニヨリテ其形狀構造ヲ異ニシ大體ニ於テハ統一シテ之レヲ比較スルニ困難ヲ感ズルモノアリ、西洋家具ハ之レヲ出品シタルモノノ宮城、山形及福島ノ三縣ニシテ其出品ハ何レモ構造上甚ダ批難スベキモノナシト雖ドモ、其形狀、仕上等ニ至リテハ頗ル舊式ノ家具ヲ模シタルモノニシテ彫刻模様及線形等ハ拙劣見ルニ足ラズ然レドモ實用上相當ニ堅牢ナルモノヲ得ルニ到リシハ一進歩ト認メザルヲ得ズ若シ夫レ之レガ進歩改良ヲ計ルニ對シテハ職工ヲシテ圖ヲ見ルノ力ト之レヲ畫クノ技能トヲ得セシメ巧ミニ新意匠圖案ヲ蒐集シテ之レヲ參考スルヲ第一トス

日本風家具ハ其出品青森縣ヲ除クノ外各縣悉ク之レアラザルナク從テ其點數モ甚ダ少カラズト雖モ多數ハ悉ク舊習ヲ脱スル能ハズ徒ラニ材料ノ不經濟的使用ヲ試ミ爲メニ重量ト代價トヲシテ意外ニ高カラシメタルハ第一ノ缺點トス加之大體ノ形態、色彩及金具トノ不調和及金具ノ軟弱ナルハ缺

點ノ第二トス而シテ日本家具ニ於テ工作ノ技術モ未ダ不充分ナルニ加フルニ材料ノ乾燥宜シキヲ得ザルモノ多キヲ以テ耐久力乏シキヲ疑ハザルベカラズ僅カニ宮城縣ノ箆筒類ト山形縣酒田ノ黒柿細工トハ縣當局者獎勵ノ結果ニヤ一方ノ特色ヲ具備シテ發展ノ曙光ヲ開キタルハ慶スベキナリ由來家具ノ如キハ形狀甚ダ小ナラズ從テ運搬上ノ利益ナルヲ以テ各地共ニ自ラ該地方ノ需要ヲ充タスニ力ヲ致サザルベカラザルモノニ屬シ而シテ日常ノ必需品ナルヲ以テ之レガ改良進步ノ多少ハ地方經濟上ノ一問題ナリトス故ニ少ナクモ各地其縣ノ需要ニ答ヘ縣内輸入ヲ防グノ程度マデハ當局者モ獎勵ニ力ヲ盡スベク營業者モ奮發ヲ要スルモノタリ然ラバ之レガ改良ノ方法如何ト言フニ第一ニ材料ノ節約ニ力ヲ致サザルベカラズ歐米各國ニ於テハ近頃貼木(Veneering)ノ術進步シテ家具其他ノ木器ノ裝飾ヲ巧ミニシ同時ニ器具ノ代價ト重量トヲ減ズルコトヲ得ツベアリ而シテ此貼木ノ應用ハ木材ノ薄板ヲ挽出スノ技術ニ待タザルベカラズ幸ニ奥羽ノ地ニハ大裝置ヲ挽材所モ少カラザルヲ以テ堅木及唐木等ノ薄板ヲ出スノ術ヲ研究スルハ必要ナルコト、信ズ第二ニ膠付ニ對シテ一層ノ研究ヲ積ムヲ要スルガ如シ山形縣出品中運搬中ノ破片ヲ檢スルニ此技術ノ甚ダ拙劣ナルヲ認メタリ此二種ノ技術ノ發達スルアラバ外觀ノ美ト代價ノ廉ト重量ノ輕減トニヨリテ運搬輸出ノ便ヲモ自ラ開クヲ得ベキナリ次ギニハ乾燥法ノ進步ヲ期スルヲ要ス木材ノ乾燥ハ現今未ダ充分ナル方法ナク漆工業者及木工業者ノ最モ困シム所ノモノナルニ東北地方ノ木材ハ一般ニ乾濕ニ伴フ伸縮比較的著シキヲ以

テ一層此點ニ研究ヲ積マザルベカラザルヲ感ズルナリ最後ニ形狀及意匠ノ改良ハ如何ニスベキカ奥羽ノ工藝品ノ一般ニ進歩セザルハ實ニ此點ニ存スルモノアルハ獨リ木工業ノミニアラズ而シテ木工業ニ對スル此形狀及意匠ノ改良ニ關シテハ全然營業者及職工ノミヲ責ムベカラザルモノアルガ如シ此點ニ就テハ更ニ概括シテ之レヲ説述スベシト雖ドモ個人ノ力ヲ以テ之レヲ期スルハ甚ダ困難ナルヲ以テ同業組合又ハ當局者ノ盡力ニ待タザルベカラザルナリ各地方ニ流行スル新意匠、形狀及構造ノ圖面ヲ同業組合又ハ物産陳列場ニ備フルガ如キ或ハ鑑識ニ巧ミナル當事者又ハ當局者ヲ待ツガ如キハ現時ノ地方經濟ニ於テ將又營業者ノ營業經濟ノ範圍ニ於テ爲シ得ベキ一二ノ方法タルベキカ

金具ハ木工業品ノ堅牢ヲ保持シ同時ニ木工業品ノ裝飾上極メテ重要ナルモノナルニ今回ノ出品ハ千篇ニ律頗ル劣等ナル金具ヲ用ヒタルノ結果相當ノ品物ヲシテ其價值ヲ少カラシメタルコト甚ダ大ナリ而モ中ニハ却テ徒ラニ洋風ノ「ニツケル」金具等ヲ亂用シテ和風家具ノ大不調和ヲ來シタルモノサヘ無キニアラズ元來我國ニ於ケル建築及室内家具用ノ金具ノ不完全ナルハ金屬工業不發達ノ結果ニシテ已ムヲ得ザル所ナリト雖ドモ昨今京阪地方ニテ製造スル金具ニシテ尙能ク今回ノ出品物ヲ粉飾スルニ足ルモノ乏シカラザルナリ此點ニ於テハ一層ノ調査ト研究トヲ重テ器物其物ヲ調和スル金具ヲ採用スルニ務ムベク就中錠前ヲ選擇スルニ一大注意ヲ拂フヲ要ス

之ヲ要スルニ材料ノ節約各種材料ノ配合、着色、塗方、仕上等ノ改良大體ノ形狀及各部ノ割合ノ改善並ビニ金具鏡前ノ改正ハ家具ノ發展ヲ期スル上ニ於テ頗ル重要ナル問題ナリト信ズ當業者タルモノ宜シク猛省スベシ

(二) 埋木及樺細工

埋木ハ宮城縣ノ特産ニシテ二ツノ種類アリ一ハ樺ノ埋木ニシテ名取川ヨリ出デ名取川埋木ノ名アリ他ノ一ハ廣瀨河岸ノ岩層ヨリ出ヅル褐炭ノ一種ニシテ廣瀨川埋木ノ名アリ宮城縣ガ埋木細工トシテ出品シタル大部分ハ此廣瀨川埋木ナリ此埋木ハ元來脆弱ナルヲ以テ之レヲ以テ組立テタル箱物等ヲ作ルハ實用上價值ナキモノナルガ故ニ主トシテ茶托、盆等ノ平物ヲ作ルヲ適當ト認ム然ルニ今回ノ出品ヲ見ルニ床置ノ如キ彫刻物ヨリ甚入、菓子器等ノ組物ノ少カラザルハ甚ダ意ヲ得ザル所ナリ
然レドモ一般ヲ通覽スレバ埋木ハ同地多年ノ舊慣ヨリ脱出シテ一般ノ形態ト意匠トヲ採用シ其彫出シノ方法乾燥ノ術及其仕上ノ研ギ出シ模様ノ置キ方等確カニ進歩ノ形跡ヲ認ムルヲ得タルハ喜ズベシ埋木細工ノ價值ハ埋木其物ノ材質ヲ以テ立ツニアルヲ以テ徒ラニ拙劣ナル彫刻等ヲ施スヲ避ケ寧ロ其形態ト仕上ゲトニ一層ノ奮勵ヲ試ミナバ國ノ内外ヲ問ハズ或ル方面ノ嗜好ニ投ズルヤ蓋シ疑ナケン

樺細工ハ主トシテ秋田縣ノ出品ニ係ルモノニシテ岩手縣亦多少ノ出品ヲ試ミタルモ論ズルニ足ラズ秋田縣ノ樺細工ハ其由來スル所甚ダ古キニモ不拘頗ル發達ノ遲々タルモノナリシガ一昨年ノ秋田縣主催ノ六縣聯合共進會以來茲ニ新生面ヲ開キ今ヤ幾分ノ注意ヲ拂フノ價值アルモノト爲リ來レリ今回ノ出品ヲ見ルニ從來刻甚入、卷貫入又ハ印籠等ニ多少ノ箱物類ヲ製作スルニ過ギザリシモノ今ハ茶棚、花瓶等ヨリ建築材ナル床柱等ノ大作ヲ試ムルモノアルニ至レルハ慶スベキコトナリト然レドモ其仕上ノ方法及繪様等ニ於テ舊慣ヲ脱スル能ハズ又研出シノ方法備ハラザルト價格ノ甚ダ不廉ナルハ缺點ナリ今後ノ發展ヲ期スル上ニ於テハ此等ノ諸點ヲ改メ尙日本建築室内裝飾材等ニ應用スルニ到ラバ之レ亦内外ニ係ラズ或ル特殊ナル嗜好ニ投ズルヲ得テ一ツノ名物タルニ止マラザルヲ時期アルヤ疑ナシ當業者ノ奮勵努力ヲ望ム所以ナリ

(三) 挽物、曲物及木地類

此類ノ出品物ハ奥羽ニ取リテハ頗ル最近ノ發達ニ屬シ、六縣ニ互リテ出品セザルナキニ拘ラズ未ダ充分見ルベキモノナシ、只其中ニ於テ宮城縣ノ出品特ニ多數ニシテ而モ同業組合ノ力ガ此出品ヲ助ケタルゴト多キニ居ルヲ認ムルガ如キハ喜ブベシ只宮城縣ノ出品ハ三方、菓子箱等ノモノ多ク漆器木地トシテノ出品一般ニ少ナキハ遺憾ナリ元來椀、菓子盆等樺製薄木地職ハ箱根以東ニ一人モ見ルヲ得ズト冷笑セラレタリシ奥羽ノ地ニモ福島縣、宮城縣等ヨリ此等ノ出品アルヲ觀レバ當業者ノ奮

發如何ニヨリテハ將來事業ノ有望ナルコト疑ナキガ如シ故ニ將來ノ發展ヲ盡スル上ニ於テ當業者ハ宜シク協同一致ノ力ニヨリテ販路ノ確實ヲ計リ、意匠圖案ニ力ヲ用ヒテ薄出ニシテ歪等ノ少ナキ良品ヲ出シ、曲物ニ於テ樺皮ノ使用上ニ改良ヲ加ヘ菓子箱等ノモノハ荒木取りヲ器械力ニ依ルノ經營法ヲ工夫シ以テ益々奮勵スベキナリ

(四) 下駄

下駄ノ出品ハ岩手縣ヲ最トシ福島、秋田、宮城之レニ次グ青森ハ出品點數多キニ拘ラズ良質ノモノナク、山形縣ハ其出品三點ニ過ギズ下駄ニ關シテハ一般ニ材料豐富ナル東北地方ニシテハ價比較的廉ナラズ又實用上價值少ナキ出品モ見受ケタリ而シテ岩手縣ノ出品ハ南部表ノ產地ナルガ故ニ價格ニ於テ適當ナルモノ多シ

概シテ此部ノ缺點ヲ求ムレバ下駄、表及緒ノ間ノ形狀、色彩ノ不調和ナルト、緒ノ取付方法ノ不熟練及下駄臺仕上ノ拙劣トヲ認ム下駄ハ日常缺クベカラズ且消耗速カナルヲ以テ需要從テ多キモノナレバ可成低廉ナル價格ヲ以テ穿キ心地宜キモノヲ作ルコト、仕上ト緒、表等ノ間ノ關係的調和トヲ一層適良ナラシムルコトニ力ヲ盡スハ必要ナルコト、信ズ

宮城、福島二縣ノ下駄ハ比較的如上ノ點ニ於テ注意到レルモ價格ノ點ニ於テ不廉ナルヲ嫌ヒア岩手縣ノ出品ハ價格廉ニシテ實用上ニ利益アルモ仕上及色付ニ於テ拙劣ヲ免レズ又秋田縣ハ出品多キ

ニ拘ラズ緒ノ新意匠ニ出ヅルモノ殆ンド無ク一般ニ仕上ゲモ面白カラズ形狀ノ上ノ問題ハ人情風俗又ハ氣候ニ依リテ多少異ナル點アリトスルモ大體ニ於テ緒其者ノ意匠及之レノ取付方ニ於テ失敗タルヲ疑ハズ大ニ猛省スベキモノアルヲ認ム

之レヲ要スルニ木工品ハ一般他ノ工藝品ト異ナリ下駄、埋木等ヲ除クノ外ハ概シテ工業家ヨリ直接ニ需要者ニ向フモノニシテ商業者ノ仲介ニヨリテ取引セラル、商品トハ大ニ其發達ノ狀況ヲ異ニスルモノアリ故ニ之等ノ作品ノ發達進歩ヲ促進セシムルノ途モ亦自ラ商品トハ趣ヲ異ニスルモノアルヲ認メザルヲ得ズ余ノ信ズル所ニヨレバ此等ノ工藝品ハ之ヲ製作スル職工ノ技術、意匠ノ不熟練ハ之レヲ直接ニ此當時者ニノミ責ムルモ其効果甚ダ多カラザルモノニシテ宜シク職工以外ノ一般人ニ責メザルベカラズ

熟々地方工業者ノ實際ニ考ヲ及ボセバ彼等ハ熟練ナル手腕ト斬新ナル意匠トヲ身ニ得テ地方ニ事業經營ニ當レバ爾後數年ニシテ其手腕ハ鈍リ意匠ハ舊式ニ戻ルノ傾向アリ之レ蓋シ其人ノ奮勵研究足ラザルニ之レ依ルト雖ドモ而モ之レガ主因ハ實ニ此等製品ヲ需要スル一般人ノ工業的智識ト工藝品ト對スル鑑識力ノ不充分トニアルハ疑ヲ容レザル所ナリ故ヲ以テ地方工業ノ革新ヲ期セントセバ必ズ先ヅ其地方一般人ノ工業的智識ヲ高メ工藝品ヲ識別スルノ明ヲ養成スルヲ急務トス此點ヨリシテ余ハ物産又ハ一般商品トシテ見ルベカラザル工藝品ニ就テハ主トシテ一般人ノ眼識ヲ高メ尙當業者ノ力ヲ間接ニ

高メシムルノ順序ニ出ヅルヲ適當ノ方法ナリト信ズ參考ノ爲メニ左ニ一ニ二ノ方法ト見ルベキモノヲ列記シテ報告ヲ終ヘントス

(一) 一般人ノ工業的智識及工藝品鑑識上ノ明ヲ養フコト
(イ) 物産陳列場ニ獨リ工藝品ノ精ヲ網羅スルノミナラズ廣ク内外ノ専門雜誌及圖畫ヲ具ヘテ自由閱覽ノ便ヲ開クコト

(ロ) 圖書館ニ充分工藝圖案並ビニ工業技術ニ關スル圖書ヲ具フルコト

(ハ) 技術工藝家ヲ招ジ講話會又ハ講習會等ヲ開クコト

(ニ) 工藝品展覽會等ノ機會ヲ多クスルコト

(二) 技術者工業家ノ手腕ヲ高ムルコト

(イ) 同業者ノ團體ヲ強固ニシ其力ニヨリ各地ノ長ヲ採ルノ途ヲ講ズルコト

(ロ) 物産陳列所ニ圖案部ヲ置キテ斬新ナル圖案ヲ當業者ニ紹介シ當業者ノ顧問タルノ實ヲ舉グルニ努ムルコト

(ハ) 品評會ヲ時々開設シテ充分ナル批評獎勵ニ資スルコト

(ニ) 當業者ノ保護ニ力ヲ盡スコト

(ホ) 商業家ト連絡ヲ保チテ販路ノ擴張及確實ヲ期スルコト

(ハ) (一)ニ掲グルモノヲ利用スルコト

此ノ如キハ既ニ或ルモノハ當局者並ビニ當業者ニ於テモ行ヒツ、アルモノモアルベク又或ルモノハ經濟問題ノ上ヨリ不可能ナリトシテ埋没セラル、コトモアランモ今回ノ出品ニ徴スルニ此等ノ方法ノ幾分ニテモ比較的多ク實行セラレ縣市ノ當局者ノ比較的獎勵ニ力ヲ致シタル宮城、山形ノ二縣ノ進歩ノ特ニ顯著ナルヲ認ムルヲ以テ此ニ之レヲ記録シタル所以ナリトス
尙今回擬賞シタル統計ヲ舉グレバ左ノ如シ

木工品擬賞一覽表

縣名	等級				合計
	一等	二等	三等	四等	
福島縣	一			一〇	一三
宮城縣	三			一七	二六
岩手縣				二	〇
青森縣				二	二
秋田縣				二	一
山形縣				二	一
合計	六			一四	七二

竹筴柶柳細工審査報告

審査官 中 村 孝

本類ニ屬スル今回ノ出品ハ木通蔓細工柶柳細工竹細工籐細工等ノ諸品ヲ初メトシテ桑節蠶簾箆籠弓矢傘提灯箆簾等ニ至ル諸雜品ヲ包含シ出品點數ハ七百九十六點人員三百十三名ニシテ中ニ就キ擬賞ノ格ニ入リタル者ハ一等賞一名二等賞六名三等賞十九名褒狀六十九名ナリ茲ニ其縣別ヲ掲グレバ左表ノ如シ

擬賞等級縣別表

縣名	出品人員	出品點數	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞割合
福島	一五	二二				四	七	四六六
宮城	四八	一六七			三	一〇	一四	二九一
岩手	五〇	一三一			二	一六	一九	三八〇
青森	四三	二二五			七	一七	二六	六一九
秋田	四七	一五七			四	一七	二二	四六八
山形	一一	六三			一	五	七	四六六
計	二二三	七九六	一	六	一九	六九	九五	四四六

本類出品中點數ノ夥多ナリシハ木通蔓細工ニシテ最高ノ賞格ニ入リタルモノモ亦本品トス之レニ亞ギテハ竹行李及柶柳細工等相應ノ出品アリタルモ比較的佳品ニ乏シク其他ノ各品ニ至リテハ特ニ記述ス

ベキ點ナキモ二三ノ注意事項ハ以下概評中ニ略述スベシ

木通蔓細工 本品ハ聯合縣中宮城縣ヲ除ク外何レモ出品アリ就中青森、秋田二縣ノ出品ヲ多數トス青森縣ノ出品ハ應用ノ途ニ於テ尙ホ大ニ研究ノ餘地ヲ認ムルモ組織ノ技ハ益々進歩シ漂白ノ方法モ亦稍々完全ノ域ニ達セリ殊ニ弘盛合資會社ノ製品ハ外輸ニ適スルモノ多ク研究ニ力ヲ盡スノ蹟歴然タルハ賞スベシ秋田縣ノ斯業ハ青森ノ工ヲ傳ヘラレタルモノニシテ創業日尙ホ淺キニ拘ラズ比較的佳良ノ製品ヲ出シタルハ當業者勉勉ノ成果タルコト言フ俟タズト雖ドモ漂白ノ方法未ダ全カラザルト形式ノ概シテ新様ニ乏シキトハ今後一層ノ改良ヲ要ス其他福島、岩手、山形ノ諸縣ヨリ出品セル諸品ハ編方形狀等概シテ範ヲ前ノ二縣ニ採リ然カモ其技術尙ホ未ダ及バザルノ憾アリ吾人ハ是等諸縣ノ當業者ニ對シ唯徒ラニ他人ノ案出ノミニ委頼スルコトナク自ラ進ンデ新案ノ工夫ヲ凝ラシ以テ各特色ヲ發揮センコトヲ勸告スルモノナリ

之レヲ要スルニ今回ノ木通蔓細工ノ出品ハ概シテ進歩ノ蹟著シキモノアリシヲ認ムルモ器物ノ形狀ハ奇巧斬新ノ工ニ乏シク多ク舊套ニ安ズルガ如キ狀アリシハ斯業ノ發展上大ニ遺憾トスル所ナリ蓋シ物陳腐ナレバ必ズ價值ノ下落ヲ來タシ販路モ亦從テ減退スルヲ免レズ日ニ月ニ新趣ヲ出シテヨリ此ニ初メテ均一ノ販路ヲ永年ニ保持シ得ル次第ナレバ本品ノ如キ素ト實用ヲ主眼トナスモノニ於テモ其性質ヲ失ハザル限リ常ニ新規ノ工夫ヲ凝ラシ顧客ノ嗜好ヲ惹起スルノ必要ナルハ勿論トス例ヘバ物品ノ

用途ニ應ジテ竹、藤其他ノ植物性材料ヲ混用スルガ如キ或ハ鍍金銀ヲ施シタル廉價ナル金屬ヲ雜ヘテ編製スルガ如キ或ハ硝子玉ヲ適宜ニ應用スルガ如キ或ハ「にす」「らつく」等ノ塗料ヲ施スガ如キ或製品ノ種類ニヨリ陶板若クハ硝子板等ヲ採用スルガ如キ其製作上ノ面目ヲ一新スルニ當リ行フニ易スクシテ實効ヲ收ムルコト莫大ナルモノアラント思料ス其他出品中其産額頗ル少量ナルモノ、如キハ單ニ試製品トシテ見ルニ止マラシムルノミニテ惜ムベキコトナリ此等ハ寧ロ其費ス所ノ工程ト苦心トヲ以テ他ノ有用品ヲ作出スルノ優レルニ若カザルナリ敢テ當業者ノ一考ヲ望ム

杞柳細工 本品ハ宮城、岩手、青森ノ諸縣ヨリ出品アリ編綴ノ工ニ尙ホ研究ノ餘地存スルモ概シテ佳良ト認ムベキモノ少カラザリシハ喜ブベシ殊ニ宮城縣ノ東北杞柳株式會社出品ノ柳行李ハ創立日尙ホ淺キニ拘ラズ製作丁寧ニシテ將來發達ノ望アリ進デ改良ヲ怠ルナクンバ他日良好ノ物産タルヲ得ベキヤ明ナリ青森縣沼川柳細工販賣組合及宮城縣田丸新五郎ノ出品ニ係ル同品モ亦組織ノ技概不精緻ニシテ賞スルニ足レリ杞柳製品殊ニ柳行李ハ近年海外輸出品トシテ成功シ之ヲ産出スル地方少ナカラズト雖ドモ逐年其輸出ノ増加スルニ伴ヒ往々原料ノ不足ヲ感ズルコトアリト云フ而シテ杞柳ノ栽培ハ手數ヲ要スルコト比較的少ナク且ツ寒地ト雖ドモ能ク生育スルヲ以テ奥羽地方ノ如キ風水ノ害ヲ蒙ルコト夥シキ地方ニアリテハ農事ノ副産物トシテ之レガ栽培ハ最モ有効ナリト信ズ況ンヤ是等ノ地方ニ於テハ既ニ其基礎ノ存スルヲヤ今後益々之レガ發達ヲ助長シ且ツ其製作ノ練熟ヲ圖ラバ先進ノ産出地方

ヲ凌駕シテ特産物ヲ創造スルコト敢テ難キニアラザルベシ切ニ當業者ノ奮起ヲ望ム
竹細工 本品ハ福島、宮城、岩手、青森、山形ノ諸縣ヨリ出品アリ岩手縣ノ竹行李ハ元來南部行李ノ稱アリテ同縣特有物産ノ一ナルガ今回ノ出品ハ優等ト認ムベキモノ少ナク却テ退歩ノ感アリシハ斯業ノ振ハザル證トナスベキカ當業者宜シク反省シテ將來ノ發展ヲ期スベキナリ之ニ反シテ福島縣出品ノ同品ハ産額尙ホ未ダ少量ナリト雖ドモ其技術頗ル見ルベキモノアリ形狀ニ今一層ノ研究ヲ積マバ將來有望ノ商品タルヲ得ンカ其他諸縣出品ノ竹細工ハ概ネ普通品ニシテ特ニ賞揚スベキ優品ヲ見ズ偶々精巧ノ物品之レナキニアラザリシモ需用ノ狭少ナル品種ニシテ到底工業的生産物タルノ價値ヲ有セザルヲ以テ比較的高等ノ賞ニ上ラザリキ
炭 山形縣神尾伊三郎ノ出品ハ製作佳良ニシテ褒スルニ足レリ
以上ノ外桑籐ハ福島、秋田ノ出品ニ於テ蠶産ハ福島、宮城ノ出品ニ於テ弓矢ハ宮城縣ノ出品ニ於テ傘ハ山形、宮城二縣ノ出品ニ於テ提灯ハ宮城縣ノ出品ニ於テ各一二ノ觀ルベキモノアリタリ

清酒審査報告

審査官 佐藤 壽 衛

第六回奥羽六縣聯合共進會ハ明治四十一年四月十一日ヨリ福島市ニテ開催セラル小官清酒審査官ヲ囑

清酒審査報告

託セラレ四月十五日ヨリ審査ニ着手シ四月二十五日審査ヲ結了セリ而シテ之レニ從事セシ審査員ハ左記ノ二名ナリ

東京府 升本喜衛門
同 石田鐵之助

今回ノ清酒ノ出品總點數ハ八百七點此出品人員五百六十二人内審査ニ附セシ總點數七百九十七點此人員五百五十五人ニシテ之レヲ前回ノ出品總點數四百六十五點三百十八人ニ比スルトキハ出品點數ニ於テ七割三分餘ヲ増加シ出品人員ニ於テ七割六分餘ヲ増加セリ

今回ノ清酒審査品ハ所轄稅務署官吏會ノ上採酌シ封印ヲ施セシモノニシテ之ヲ缺如スルトキハ審査ヲ行ハザルコト、シタリ之レ蓋シ出品取締法ニ於ケル一進歩ニシテ今後何レノ出品ニ關シテモ此方法ヲ遵守センコトヲ望ム今回ニ於ケル不合格點數ハ十點ニシテ其人員八名ナリ

審査ノ方法ハ先ヅ知覺審査即ハチ從來ノ喇酒法ニ依リ圓筒形特種ノ喇猪口ヲ以テ色澤、香氣、風味ノ三點ニ就キ優劣ヲ鑑別シ其優良品ニ就キ主要成分フーゼル油色度及ビ防腐劑ノ有無ヲ分析檢定シ次ニ其製造高、經歷、功績、販路、業況、價格等ヲ調査シ其結果優良品出品者二百二十三名ヲ得テ之レニ擬賞セリ左ニ各縣別授賞表ヲ掲グ

縣別	審査點數	審査人員	擬賞等級				計
			一	二	三	四	

宮城	八六	六三	一	三	五	二	三〇	四七・六
福島	二六四	一八六	一	五	二	四九	六六	三五・五
岩手	六〇	四〇	一	二	一	九	一三	三二・五
青森	五九	三九	一	一	一	八	一〇	二五・六
山形	二二七	一三六	一	六	一	四	六一	四四・九
秋田	一〇一	九一	二	三	五	三	四三	四七・三
計	七九七	五五五	五	二〇	三七	一六一	二二三	四〇・二

審査品ハ僅少ノ數點ヲ除クノ外悉ク新酒ノ尙未ダ火入ヲ行ハザルモノニシテ氣候溫暖ニ向フニ從ヒ變味スルノ憂アルヲ以テ審査前ニ於テ抽籤法ニ依リ各縣順番ヲ定ムルコト左ノ如シ

宮城 岩手 青森 秋田 山形 福島

今各縣授賞者ノ數ヲ以テ其產額ニ比スルニ福島縣ハ其產額並ニ授賞數ニ於テ首位ヲ占メ山形縣之三次、秋田縣ハ其產額ニ比シ授賞者比較的多大ニ宮城縣ハ之レニ比スルトキハ劣レルモノ、如ク岩手、青森ノ二縣ニ於テハ他四縣ニ比シ庭徑アルヲ認ム其製品ノ品質ノ如キモ其製成當時ニ於テハ之レヲ主產地ノモノニ比シ毫モ遜色ナキモノ多クアリ然レドモ一定成熟ノ時期ヲ經過シタル後ニ於テ之ヲ比較スルトキハ其品質ノ著シク向下スルヲ認ムルコト之ヲ既往ニ徵シ明白ノ事實ナリトス之レ蓋シ貯藏方法ニ於テ比較的尙及バザルノ致ス所ナルヲ以テ容器ノ材料ヲ選擇シ萬般ノ處理方法ニ注意セバ庶幾クハ

清酒審査報告

如上ノ缺點ヲ補フコトヲ得ン夫レ東北ノ地タル冬季寒冷ノ時期長ク酒造季節中降雪地面ヲ掩フガ如キハ所謂天與ノ醸造地タルヲ以テ奮勵以テ業務ヲ擴張セバ將來ニ於テ益々有望タルコト疑ヒナキ所ナリ
 出品中審査ヲ行フニ先チ既ニ濁濁ヲ生ジ或ハ火落香ヲ發シ變敗ニ陥リシモノ往々ニシテ存在セシハ頗ル惜ムベキノコトナリ之レ一ハ其酒質ノ然ラシムル所ナルベシト雖下モ又大ニ之レガ處理方法ヲ厲行シ容器ノ洗滌塞栓ノ適否酒液ノ滓引若シクハ濾過等ニ就キ十分ノ注意ヲ拂ハハ如上ノ缺點ヲ免ル、コトヲ得ルニ庶幾カランカ將來出品者ノ大ニ留意スベキ要點ナリトス今ヤ世運ノ隆昌ニ伴ヒ一般ノ嗜好年ヲ追フテ向上ス宜シク原料ヲ選擇シ醸造方法ヲ改善シ努メテ良酒ヲ產出シ然ル後之レガ貯藏方法ニ注意シ其熟成ノ間ニ於テ敢テ其本來ノ美質ヲ損セザランコトヲ望ム
 六縣ノ醸造業ヲ通覽スルニ其製産額往々ニシテ數千石ニ達スルモノアリト雖モ之ヲ概言スルトキハ多クハ其規模小ニシテ著シキ發達ヲ認メズ且ツ其販路小區域ニ局在セリ宜シク資本ヲ鳩合シ規模ヲ大ニシ工場經濟ニ注目シ生産費ヲシテ可及的輕減セシメ廣ク販路ヲ擴張シ進ンデ海外ニ及ボスベキナリ
 秋田縣 清酒ノ品質ハ近年長足ノ進歩ヲ爲シ其酒質ノ良好ナルコト唯ニ六縣ノ巨擘タルノミナラズ實ニ我邦ニ於ケル有數ノ產地ナリ然レドモ其規模多クハ小ニ失シ全體ノ産額モ亦多カラズ故ヲ以テ輸贏ヲ大市場ニ俾スルニ足ラズ宜シク資本ヲ洽合シ規模ヲ大ニシ産額ヲ増加シ製成酒貯藏容器ノ材料ニ注意シ其熟成期間ニ於テ敢テ品位ヲシテ向下セシムルコトナカランコトヲ望ム

山形縣 清酒ハ其品質概シテ良好ニシテ其産出額ノ如キモ六縣中ノ第二位ニ在リ其香氣ニ於テ一種ノ特徴アルハ蓋シ容器ノ然ラシムル所ナルベシ
 同縣大山町ハ往昔酒造地タルヲ以テ其名ヲ海内ニ轟カシタリ然レドモ爾來稍々退歩ノ狀態ニアリ今其出品ヲ檢スルニ稍々良品ト認ムベキモノナキニアラザルモ往時ヲ追想スルトキハ今昔ノ感ニ堪ヘザルナリ今ニ及ンデ奮勵專心事ニ從ハズンバ益々衰退スルノ悲境ニ陷ラン

福島縣 清酒ハ其産額ニ於テ六縣中ノ第一位ヲ占メ其品質モ亦之ヲ概言スルトキハ稍々良好ナリトス殊ニ若松市ニ於テ良品ヲ認ム然レドモ一般ニ香氣ニ於テ不足セル所アルガ如シ
 宮城、岩手、青森ノ三縣ニ就キテ概論スルトキハ宮城縣其産額及ビ品質ニ於テ第一位ヲ占メ岩手、青森之ニ亞グ後二者ノ品質ハ一般ニ進歩ノ境域ニ達セズ宜シク學術ヲ應用シ其醸造貯藏方法ヲ改善シ良品ヲ製出スルニ勉ムベキナリ

出品審査品七百九十七點中良品ト認メタルモノ、主要成分ハ凡ソ左ノ如シ

番 號	酒精容量	越 幾 斯	總酸琥珀酸 トシテ	サリチ ル酸	フ 油 セ	色 度
一	一六、四〇〇〇	二五八〇〇	〇・一七一	不檢出	僅 存	沃 度〇、八五 ク 度一、〇五 ロ 度一、〇五 ム 度一、〇五 一 度一、〇五 同 同 同 同 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇
二	一七、六〇〇〇	二八四〇〇	〇・一八二九	同	微 在	〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇
三	一六、一〇〇〇	二八四〇〇	〇・一七二二	同	微 在	〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

清酒審査報告

一〇	九	八	七	六	五	四
一六五〇〇〇	一八〇〇〇〇	一六三〇〇〇	一五五〇〇〇	一六二〇〇〇	一六六〇〇〇	一六一〇〇〇
三八七〇〇	四六五〇〇	三六二〇〇	四一三〇〇	三六二〇〇	二五八〇〇	三三六〇〇
〇・一九四七	〇・二五九三	〇・一七七七	〇・一八八八	〇・一四七五	〇・一六五二	〇・一五九三
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇
〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五

色度檢定ニハ二個ノ同形同大ノビーカー約百五十立方仙迷ナルモノ、一ニ百立方仙迷ノ可檢清酒ヲ入レ他ニ百立方仙迷ノ水ヲ入レ白紙上ニ置キ水中ニ百分一定規沃度及ビ百分一定規グローム酸加里ヲ適宜滴下シ清酒ト同色ヲ呈スルニ至リテ止ム

清酒ノ出品陳列ハ從來皆傾ヲ以テシ嚙ニ大小形狀ヲ異ニスルアリ其着色ヲ異ニスルアリ其塞栓ノ方法ヲ異ニスルアリテ一定セズ大凡此ノ如キモノ、陳列ノ無趣味ナル其方法ニ於テ大ニ困難セシ所ナリ然ルニ今回ノ陳列ヲ見ルニ縣ニ從テ大凡其容器ヲ一定シ其裝飾ヲ一様ナラシメ以テ陳列方法ヲ改善セシハ當事者ノ注意ヲ推知スルニ足ルベシ

醬油味噌審査報告

審査官 佐藤壽衛

第六回興羽六縣聯合共進會ハ明治四十一年四月十一日ヨリ福島市ニテ開催セラル小官醬油、味噌審査官ヲ囑託セラレ四月十九日ヨリ審査ニ着手シ四月二十六日審査ヲ結了セリ而シテ之レニ從事セシ審査員ハ左記ノ二名ナリ

- 東京府 蜂須賀與平
- 同 西田虎之助

今回ノ醬油ノ出品總點數ハ三百二十八點此出品人員二百四十二人味噌ノ出品總點數ハ百五十七點此出品人員百四十一人ニシテ醬油ハ之ヲ前回ノ百九十一點百三十九名ニ比スルトキハ出品點數ニ於テ七割二分ヲ増加シ人員ニ於テ七割四分ヲ増加ス味噌ハ之ヲ前回ノ八十五點七十人ニ比シ出品點數ニ於テ八割五分ヲ増加シ人員ニ於テ倍加セリ

醬油審査ノ方法ハ先ツ知覺審査乃ハチ從來ノ喇味法ニ依リ特種ノ喇猪口ヲ以テ色澤、香氣、風味ノ三點ニ就キ優劣ヲ鑑別シ其優良品ニ就キ薩葛林水楊酸等ノ防腐劑ヲ分析鑑定シ毫モ含有セザルヲ認メタリ次ニ其製造高、經歷、功績、販路、業況、價格等ヲ調査シ其結果優良品出品者五十九名ヲ得テ之レニ擬賞セリ左ニ各縣別授賞表ヲ掲グ

醬油味噌審査報告

ニ就キ其製産額、經歷、功績、販路、業況、價格等ヲ調査シ其結果優良品出品者十三名ヲ得テ之レニ擬賞セリ左ニ縣別授賞表ヲ掲グ

縣別	品名	出品點數	出品人員	擬賞等級				計
				一等	二等	三等	四等	
宮城	醬油	五六	四七	-	-	-	九	二二
同	味醬油	三九	三九	-	-	-	三	三三
福島	醬油	一一〇	八八	-	-	-	一	一一
同	味醬油	四四	四四	-	-	-	一	一三
岩手	醬油	三〇	二四	-	-	-	一	一四
同	味醬油	七	七	-	-	-	一	一四
青森	醬油	二九	一九	-	-	-	一	一五
同	味醬油	二〇	一八	-	-	-	一	一六
山形	醬油	五一	三七	-	-	-	一	一四
同	味醬油	一六	一三	-	-	-	一	一五
同	醬油	五二	二七	-	-	-	一	一六
秋田	味醬油	三一	二〇	-	-	-	一	一四
同	醬油	三二	二四	-	-	-	一	一五
計	味醬油	一五七	一四一	-	-	-	一	一三
	醬油	三二八	二四二	-	-	-	一	五九
	味醬油	三	二〇	-	-	-	一	三九
	醬油	五	二七	-	-	-	一	一五
	味醬油	一六	一三	-	-	-	一	一四
	醬油	五一	三七	-	-	-	一	一六
	味醬油	二〇	一八	-	-	-	一	一四
	醬油	二九	一九	-	-	-	一	一五
	味醬油	七	七	-	-	-	一	一四
	醬油	三〇	二四	-	-	-	一	一四
	味醬油	四四	四四	-	-	-	一	一三
	醬油	一一〇	八八	-	-	-	一	一一
	味醬油	三九	三九	-	-	-	一	三三
	醬油	五六	四七	-	-	-	一	二二

醬油ハ我邦日常必需品ノ一タルヲ以テ生活ノ程度上昇ニ連レ漸次其製造方法ヲ改良シ製成品品質ヲ向

上セシムベキモ其原料トシテ多量ノ食鹽ヲ使用スルヲ以テ之レガ醸造中變敗ニ陥ルコト極メテ稀レニ且ツ其製品ハ單ニ其物ノミヲ以テ直接使用スル場合尠ナク多クハ他ノ調味料ヲ適度ニ混和使用スルヲ以テ其製造方法ノ進歩遅々タルハ蓋シ目前ノ見地ニ於テ數ノ免レザル所ナルベシ然レドモ主産地方ニ於ケル製品ハ既ニ多年海外ニ輸出シ年々其額ヲ増加スルノ傾向アリト云フ宜シク眼界ヲ宇内ニ放テ彼ノ嗜好ヲ考查シ原料ヲ選擇シ其製造方法ヲ適宜ニ改善シ販路ヲ海外ニ求ムベキナリ

往年戰時ニ際シテハ之レヲ乾燥シ運搬攜帶ニ便ナラシメ其効果著シカリシト云フ故ニ平時ニ在リテ之レガ全般ノ製造法ニ注意スルコト肝要ナリ

全出品ニ就テ概言スルトキハ透明ノ度不足シ從テ光澤完全ナラザル如シ之レ滓引法ノ不完全ナルニ基因スルモノナランモ尙原料ノ選擇ヲ厲行シ麴室及ビ製麴法ヲ改善シ種麴ヲ使用シ清潔ヲ旨トシ異種ノ絲狀菌其他有害ナル菌類ノ混入ヲ防遏スベキナリ

其着色ノ濃淡ニ關シテハ概シテ濃厚ニ失スルモノ、如シ此等ノモノハ香氣、風味共ニ着色適度ノモノニ比シ稍々劣レルガ如シ是レ醱酵日數長キニ失スルトキハ着色ノ度ヲ増加スルト同時ニ香氣逸散シ風味モ亦自カラ降下シ其量ヲ減ズルヲ以テ宜シク適宜ノ時期ニ於テ搾取スベシ

往々着色料ヲ使用シテ其濃度ニ加工スルガ如キハ甞ニ其香味ヲ損スルノミナラズ猥リニ他物ヲ混加シ其香味ヲ改革セントスルガ如キハ本來ノ趣旨ニ背クモノトナサルベカラズ

出品中液面ニ白色ノ産膜酵母ノ繁殖セルモノ往々ニシテ存在セリ之レ貯藏及ビ容器ノ處理其當ヲ得サルノ致ス所ナルヲ以テ將來ニ於テ注意ヲ要スベキナリ
又焦臭ヲ有スルモノ其數比較的夥多ナリ之レ火入温度ノ高キニ失スルカ其他操作當ヲ得サルノ致ス所タルヲ以テ今後大ニ注意スベキナリ

味増モ亦我國日常必需品ノ一ニシテ地方ニテハ多クハ自家用料トシ製造スルガ故ニ製造業者ハ其販路比較的狹隘ナルヲ免レズト雖ドモ東北ノ地タル其原料タル大豆ノ産額多量ニ其品質モ亦優良ナルモノ多キヲ以テ益々其業務販路ヲ擴張シ製麴法ヲ改善シ全般ノ製法ニ注意セバ斯業ヲシテ隆盛ニ向ハシムルコトヲ得ン且ツ其成分ハ營養物質ニ饒多ナルヲ以テ一般嗜好ノ向上ニ連レ其品質ヲ改良セバ將來益々有望ノ物産タルヲ得ベシ

全出品ニ就テ概言スルトキハ鹹味稍々強キニ失スルノ感アリ故ニ原料配合ニ於テ食鹽量ヲ低減セバ其風味緩和シ香氣モ亦自ラ向上スルコトヲ得ベシ

味増ノ如キ外觀ノ美ナラザルモノハ選メテ出品容器ノ形狀物質ヲ選擇シ之レヲ飾ルニ又適宜ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ一見汚穢ノ念ヲ先起セシムルガ如キハ人ノ嗜好ヲ誘引スル所以ノ道ニアラズ

宮城、山形兩縣出品ニカ、ル醬油ハ其品質他縣ニ比シ良好ナルモ未ダ最優品ヲ出スニ到ラズ將來益々學術ヲ應用シ改良ノ域ニ達センコトヲ望ム宮城縣ハ夙ニ味増ヲ以テ其名ヲ知ラルト雖モ今回ノ成績ニ

鑑ミルトキハ青森、秋田ノ兩縣ニ亞グモノ、如シ且ツ比較的大製造家ノ出品ナキハ遺憾トスル所ナリ
福島、青森、秋田三縣ノ醬油ハ其品質ニ於テ大差ナク漸次良品ヲ產出スト雖モ未ダ最優品ヲ出スニ到ラズ將來益々醸造家ノ改善ヲ企圖スベキナリ秋田、青森兩縣出品ニ係ル味増ハ其製造額ニ於テ他四縣ニ卓絶セリ宜シク其製造方法ヲ改良シ努メテ良品ヲ產出スベシ
岩手縣出品ニ係ル醬油ハ其品質他縣ニ比シ庭徑アルモノ、如ク味増ハ出品點數少ニシテ正鵠ヲ知ル能ハズト雖ドモ他縣ニ比シ一步ヲ踰ユルモノ、如シ共ニ其製造法ヲ改良シ良品ヲ產出スルニ勉ムベシ

菓子審査報告

審査官 伊東 一 二
山 元 盛 武

今回出品ノ菓子及飴類ノ出品點數ハ八百三十點其ノ人員二百七十二名之レヲ前回ニ比スレバ今回ハ宮城縣ノ加入ニ依リ出品點數三百十七點其人員百六名ノ増加ヲ見ル又宮城縣ヲ除クモ尙二百十三點人員ニ於テ六十六名ノ増加ヲ來タセリ而シテ煉物類及押物類ハ出品物ノ過半ヲ占メ前回ニ比シ原料ノ選擇、調味、形態、火度等著ルシキ進歩ヲ認メ容器等ノ如キ亦改善ヲ計レルモノ尠カラサルハ喜ブベシ
審査ノ結果七十八名ヲ選拔シ之レニ左表ノ如ク擬賞セリ

菓子審査報告

擬賞等級表

二百七十二

縣別	出品人員	出品點數	擬賞等級				合計	出品人員百ニ對スル割合
			一等	二等	三等	四等		
宮城縣	四〇	一〇四			二	七	二・二五	
福島縣	六一	一八三			四	二	三・一二	
岩手縣	五二	一七〇			四	一	二・八八	
青森縣	三〇	八三		二	一	七	二・三三	
山形縣	五〇	一七二		一	一	四	二・四〇	
秋田縣	三九	一一八	九	三	二	一	四・一〇	
計	二七二	八三〇	一	九	一四	五四	二・五〇	

今各縣出品ニ就キ之レガ概評ヲ試ミルトキハ左ノ如シ

宮城縣 本縣出品ノ主ナル者ハ型物類二十一點煉物類餡及餡菓子類各十五點合計百四點其ノ出品人員四十名トス同縣名産ノ稱アル鹽竈ハ概シテ色澤ノ純潔ヲ缺キ原料不良調和宜シカラザルヲ以テ良好ノ風味ヲ有スルモノ極メテ少ナク又製法粗雜ナルガ爲メ形態崩壞セルモノ多シ宜シク色澤ノ清淨純潔ニシテ大小厚薄適宜ノ形態ヲ有シ崩壞破碎ノ患ナク之レヲ口ニシテ分解容易ニシテ爽快ナル風味ヲ具備セシムルヲ要ス煎餅ノ如キ火度ノ宜シキヲ得タルハ稀レナリ鑛泉ヲ調味シタル者其使用法ノ不熟ナルガ爲メ口ニスルトキハ不快ノ感ヲ生ズルモノアリ此等ハ原料ノ選擇調和ニ注意シ形態ノ大小厚薄製法

共ニ其宜キヲ得ルニ於テハ需用多カルベシ同縣出品ハ概シテ拔群ノ製品ナシト雖モ色彩淡潔ニシテ香味過甘濃厚ノモノ少ナク形狀溫雅ノ者アルヲ認ム玉澤傳藏、藤間イソノ葡萄羹ハ硬軟適度ニシテ葡萄ノ香味ヲ保持シ風味濃淡中庸容器ノ如キ亦佳良ナルヲ認ム同人等出品ノ落鴈及松島ハ味輕快淡泊ニシテ分解容易ニシテ殘滓ヲ遺サズ製法ノ巧ナルヲ稱スルニ足ル明石惣左衛門出品ノ洋菓子ハ風味佳良ニシテ製法亦巧ナルモ果シテ此種ノ者ヲ多量ノ需用ニ應ジ得ルヤ疑ヒナキ能ハズ羊羹類多數ノ出品ハ原料ノ配合火度煉方等其宜シキヲ得ズ既ニ變味酸敗シ甚ダシキハ微害ヲ蒙ルモノアルヲ見ル就中果實或ハ果汁ヲ加味シタル物然カルヲ見ル水飴類ハ火度適當ナラズ硬軟其ノ宜シキヲ得透明清澄風味良好ノ者少ナシ

福島縣 本縣ノ出品ハ合計百八十三點其人員六十一名ニシテ羊羹類型物類及餡並ニ餡菓子類ハ其ノ主要ナル者ニ屬ス概シテ淡潔ノ色彩ヲ有シ形態溫雅ニシテ風味亦過甘濃厚ノ者少ナク製法熟練見ルベキモノアルヲ認ム同縣有名ノ綾信夫ハ原料粗澁調和其ノ宜シキヲ得タルモノ少ナシ唯高木合名會社ノ出品ハ意匠溫雅色素ノ配合淡潔ニシテ原料ノ調和可良前同ノ如ク崩壞ノ患少ク品質製法共ニ優良ナリト雖モ殘滓口ニ殘ルノ傾キアルヲ以テ尙原料ノ選擇ヲ嚴ニシ一層爽快ナル香味ヲ保持セシムルガ如ク之ガ調製ヲ行ハ、一段ノ改良ヲ期スルヲ得ベシ「カステラ」類ノ出品少カラザリシモ高木合名會社及西山勝之助ノ出品ヲ除クノ外原料ノ配合不良ニシテ色澤均整ヲ缺キ上下ノ火度均一ナルガ爲メ凸凹ヲ生

菓子審査報告

二百七十三

シ断面氣胞ノ状態不整ニシテ見ルベキ者少ナシ羊羹類ノ出品甚ダ多シト雖モ原料火度煉方等充分ナラザルガ爲メ優良ノ出品少ナシ唯安齋茂兵衛ノ小倉羹ノ如キハ原料ノ選擇良好ニシテ風味佳良製法ノ如キ頗ル巧ミナリ然レドモ其ノ煉方足ラザルノ觀アリ之ヲ數日放置スルトキハ上層ハ尙柔軟ナルモ其内方ニ於テ少シ糖類ノ結晶ヲ認メ小豆ハ少シク硬ク且其ノ周圍ノ濕潤ニシテ切斷スルニ當リ小豆ノ脫離スルモノアリ同人出品ノ調布及浪ノ花ノ如キ製造風味共ニ可良ナリ長谷川信出品ノ松露ハ餡菓子ニシテ製法巧ニシテ風味佳良ナリ渡邊孫四郎出品ノ葡萄甘露ト稱スルハ松露類似ノ者ニシテ葡萄ノ香味ヲ保持シ風味輕快色澤清澄製法佳良ナルモ細切セル紙片ヲ交ヘ容器ニ入レタルヲ以テ紙片ニ密着使用ニ困難ナルヲ以テ之レガ容器ハ注意ヲ要ス羊羹類容器ノ如キ大ニ注意ヲ要スル者尠カラズ果實ヲ應用セラル羊羹類餡及餡菓子類出品ハ其ノ原料使用ノ拙ナル果實固有ノ香氣ト風味ヲ具備セルモノ極メテ妙ナシ之レガ使用ニハ注意研鑽ノ餘地甚ダ多キヲ認ム抑物類ハ前回ニ比シ形態色彩ノ濃淡等大ニ改善セラレタルモノ多シ然レドモ原料ノ選擇及之レガ使用ノ方法粗漏ナルモノ少カラズ即チ表面澱粉製ナルモ内部雲平製ニシテ原料ノ異同品質ノ精粗各異ナルモノ少カラザルハ遺憾ナリ渡邊孫四郎出品ノ嘉味志女ハ此種類中原料ノ選擇、配合、色彩等適當ニシテ風味佳良ナリ然レドモ形態ノ稍大ナルノ觀アリ水飴類ハ清澄ヲ缺キ火力足ラザルモノ多ク其果汁ヲ加味シタルモノハ未ダ充分ナラズ鶏卵、鶏越幾斯等ヲ加ヘタルモノ品質不良且一種ノ臭氣ヲ有シ汚物ノ混有スルアリ菓子或ハ菓子原料トシテ見ルベキ者

ニ非ズ西洋模造菓子ノ出品ハ形態色彩ノ稍見ルベキモノアリト雖モ製法尙幼稚ニシテ原料及風味等調和ヲ缺キ稱スベキ者少ナシ

岩手縣 本縣ノ出品ハ七十點其人員五十二名ニシテ羊羹類五十八點型物類及並ニ餡菓子類ノ各三十點ハ尤モ多數ヲ占メタルモノトス羊羹類ハ苹果、葡萄、梅及百合等ヲ應用調美シタル者多キヲ占ム前回ニ比スルニ風味、火度、煉方等面目ヲ改メタルモノ少カラズ然レドモ尙糖類過用ノ爲メ結晶甚ダシク味濃厚ナルモノアリ或ハ糖類輕減ニ過グルアリテ硬軟中庸ヲ得タルモノ甚ダ少ナシ果實應用ノモノハ其製法巧ミナラザルガ爲メ固有ノ香氣ト風味ヲ有スルモノナク色澤濃厚ニ過ギ或ハ汚物ヲ混有スル者少ナカラズ改良ノ餘地多シトス唯阿部彌兵衛ノ林檎羊羹藤原豊次郎出品ノ百合羊羹等ニシテ二三ノ者ハ其固有ノ風味ヲ保持シ製法佳良ナルヲ見ル豆銀糖ハ本縣ノ名産ニシテ前回ニ於テハ原料不良調和ノ均整ヲ缺キ製法剛軟其宜シキヲ得ズ形態過大ノモノ少カラザリト雖モ今回ハ原料ノ精撰調和等注意セルモノ多ク製法亦熟練ヲ來タシ色澤純潔風味佳良且ツ形狀適度ニシテ改善ノ跡見ルベキモノアリ菊地源助、井上長之助、精養館、村田常吉、勝島長兵衛等出品ノ此種ニ屬スル者ハ佳良ナル品ニ屬ス阿部重吉出品ノ片栗落雁ノ如キ原料ノ選擇調合ノ巧妙ナル形狀適當ニシテ硬剛ニ失セズ且崩壞ノ患ナク分解容易ニシテ風味可良ナリ餡及餡菓子ハ概シテ火度充分清澄ナラズ或ハ汚物ノ混ズルアリテ優品ニ乏シ殊ニ果汁ヲ使用シタル者製造硬軟中庸ヲ得テ風味可良ナル者少ナキヲ憾ム

青森縣 本縣出品ハ八十三點其人員二十名ニシテ羊羹類ノ出品ヲ以テ主要ナル者トス原料ノ選擇調合等多少進歩セルモノアリト雖モ概シテ風味濃淡中庸ヲ得タルモノ少ク果實ヲ應用セルモノハ其名アリテ實ナキモノ多シ宜シク果實ノ芳香ト風味ヲ保持セシムルコト肝要ナリ昆布羊羹ハ色澤不良一種ノ臭氣アリテ風味調和ヲ缺ク嫌アレドモ今回高松藤吉ノ出品ニ徴スルニ色澤純潔清淨ニシテ原料ノ調合巧妙ヲ極メ風味好ク醇熟シ前回ニ見タルガ如ク一種嫌惡ノ意ヲ生ズルコトナク頗ル優良ナル製品ニ屬ス製法ノ熟練賞嘆スベシ福井三郎右衛門出品ノ故園ノ如キ風味佳良製法意匠共ニ見ルベク其ノ外部ヲ庇覆セル紫蘇ノ内部ハ適當ノ濕潤ヲ保持スルニ係ラズ外部ノ乾燥セルハ之ガ製法ノ前回ニ比シ一般ノ改良ト謂フベシ木村甚之助出品ノ松風ノ如キ形態適宜火度其度ヲ誤ラズ脆弱ニシテ分解容易ニシテ風味良好意匠製法共ニ佳良ナル者トス

山形縣 本縣出品ハ百七十二點其人員五十名ニシテ煉物類四十一點ハ主要ナル出品ニ屬ス而シテ本縣特産ノ稱アル鹽斗梅、甘露梅ハ就中多數ヲ占ム其製造香味火度進歩セルモノアリト雖モ概シテ殘滓汚物ノ混有スルモノアリ清澄純潔ナラズ且梅固有ノ芳香ヲ保持スルモノ少ナク酸氣劇烈ニシテ口舌ヲ刺擊スルノ傾アリ菅野味之助、佐藤松兵衛、片桐友治等ノ鹽斗梅大沼榮吉ノ甘露梅ノ如キハ梅固有ノ風味ヲ保有シ色澤清澄ニシテ酸味甚ダシカラズ良好ノ製品ニ屬ス小松又三郎出品ノ煉羊羹二種ハ原料ノ選擇調合良好ニシテ煉方充分、凝結硬キニ失セズ毫モ結晶ヲ見ルナク色彩純潔嗜好ヲ喚起スルニ足リ

今回出品中ノ優越ナル者トス同人出品ノ落葉ノ友及水飴ハ共ニ佳良ニシテ製造ノ熟練稱スルニ足ル
秋田縣 本縣出品ハ百十八點其人員二十九名トス型物類三十三點煉物類二十三點ハ主ナル出品物ニシテ諸越及落雁類ノ如キ先回ニアリテハ原料粗雜均齊ヲ缺キ形態大ニ且ツ堅硬ニシテ齒牙ヲ損スルノ恐アリシモ今回ノ出品ハ之レニ反シ原料ノ選擇、配合、調味等ニ注意シ質硬軟中庸ニシテ形態崩壞セザルモ之レヲ口ニスレバ溶解容易ニシテ意匠亦見ルベキモノ少カラザルハ喜ブベク改善ノ跡著シク加賀谷家三郎ノかに目落雁小野久太郎ノ滋養落雁ノ如キ製造品位共ニ優良ナル者ニ屬ス露砂糖漬ノ如キ脆弱ニシテ殘滓少ナク良好ナル者多シ飴及飴菓子類ハ清澄火度適當ニシテ剛柔其宜シキヲ得ルモノ少カラズ櫻田順吉ノ滋養飴武田吉太郎ノ翁飴良好ナリ高橋長右衛門出品ノ田毎ノ雪ト稱スルハ鶏卵ヲ原料トシテ製造シタルモノニシテ二三相異ナレル色素ヲ以テ淡彩ヲ施シ色澤純潔風味高尚清快ニシテ意匠温雅ナリ望ムラクハ其ノ色彩ノ異同ニ依リ各種ノ芳香ヲ調味セバ一層ノ清快ナル風味ヲ帶ブルニ至ラン羊羹類ハ良好ナルモノ少ナシ然カレドモ中野保治ノ煉羊羹ハ原料ノ調合、火度、煉方等佳良ナルヲ認ム夫レ菓子ハ嗜好品ナルヲ以テ其製品種類ノ如キ各地方ノ需要廣狹ニ從ヒ製出セラル、ニ依リ製品ノ如何ハ其ノ地方人士ノ嗜好ヲ窺知スルニ足ランカ前回ニ於テハ風味色彩共ニ濃厚ニシテ形態大吾人ノ眼ニ慣レザルモノ多カリシト雖モ今回ノ出品ニ依レバ色澤ノ如キ淡彩純潔ノ風ヲナシ形狀過大ノ者少ナク且各種ノ香料ヲ使用シタルガ如キハ聯合各縣人士嗜好ノ推移スルヲ證スルモノナラン而シテ其種類

ノ如キ煉物類就中羊羹類押物類餡及餡菓子ノ如キ出品ノ極メテ多數ナルニ徴スル時ハ耐久性ノ者需用多キモノ、如シ此等ハ其製法熟練ニシテ二三精良ナル者アリシト雖モ各縣多數ハ尙ホ改良ノ餘地甚ダ多キヲ認ム即チ羊羹類ハ本邦耐久菓子ニシテ糖分ノ力ヲ藉リ貯藏ニ耐ヘシムル所以ニシテ其結果過甘ニ陥リ易キ所ナリ然ルニ此ノ過甘ノ性質ヲ矯メ爲メニ耐久ノ性ヲ具備セズ變味酸敗スルガ如キハ其ノ本質ヲ失ヒタル者ト謂フ可ク又各種ノ果實若シクハ果汁ヲ應用調味シタル者ハ多ク果實若シクハ果汁ノ用量宜シキヲ得ザルヲ以テ味過酸ナルカ或ハ使用ノ時期ヲ誤レルガ爲メ調味材料固有ノ芳香ヲ失ヒ變質セルモノ少カラズ或ハ火度煉方等拙劣ノ爲メ或ハ柔軟濕潤ニ過ギ或ハ剛硬ニ過グルモノアリ容器ノ如キ硫酸紙若クハ臘引紙ヲ用ヒタルガ爲メ容易ニ脫離セザルモノアリ或ハ竹皮使用ニ注意ヲ缺キ爲メニ變質シ又ハ微毒ヲ蒙ルモノアリ殊ニ風味淡泊ニシテ火度弱ク煉方充分ナラザルモノ殊ニ然カルヲ認ム又押物類ニ於テハ原料ノ選擇不良ニシテ分解不良殘滓多キモノ或ハ内外原料ノ性質精粗異ニセルモノアリ或ハ外觀形色ノ潤飾ニ重キヲ措キ香味ノ如キ稍等閑ニ附スルコトナキヤノ觀アリ

餡菓子類ハ多ク特殊ノ臭氣ヲ脱セルモノ少ナク齒牙ニ粘着シ或ハ硬軟其ノ宜シキヲ得ズ形態ノ如キ大小厚薄其度ヲ得タルハ少シ又果實香料ヲ調味セルモノハ其調和宜シキヲ得ザルモノ多シ各種ノ煎餅類掛物類ノ如キハ上下老幼ノ別ナク一般需用大ナルモノニシテ之レガ改良ヲ望ムコト大ナリト雖モ舊套ヲ脱セザルハ遺憾ナリ水飴ハ火度弱ク柔軟ニ過ギ氣泡存在シ甚ダシキハ酸酵ノ傾向ヲ呈セル者多シ又

過量ノ牛乳、牛酪、鶏卵等ヲ混有調味シ爲メニ變質セルモノアリ之ヲ要スルニ嗜好ノ變遷ニ從ヒ各種ノ果實、香料色素、脂油類、鶏卵等ヲ使用スルニ至レルハ嗜好ノ變遷ニ伴ヒ製造法ニ於ケル進步ノ反映トシ見ルベキモ此等原料ノ良否眞偽ヲ識別セズ或ハ品質ノ不良ナルモノ或ハ其適量ヲ誤リ或ハ應用ノ方法宜シキヲ得ザル等ノ爲メニ耐久性ノ者ニシテ貯藏ニ堪ヘズ或ハ變色、變質スルガ如キ者少ナカラザリシヲ以テ此等從來使用ニ慣熟セザル原料應用ニ關シテハ慎重ノ注意ヲ要ス將來斯業ノ改良進步ニ關シテ徒ラニ自己經驗ノミニ依頼セズ製造器具機械ノ改良各種原料ノ選擇及之レガ應用方法ノ研究ヲ怠ラザルト共ニ改良發達ヲ來タスベキ機關ノ設備等必要ノ事ヲ屬ス

食用製粉審査報告

審査官 伊藤 一二
同 山元 盛武

食用製粉ノ出品ハ今回ヲ以テ嚙矢トシ小麥粉、苧藪粉、蕎麥粉、澱粉類及製菓原料ノ爲メ特ニ製造シタル各種ノ粉類並ニ麵類及乾蕎麥等ヲ包有シ出品人員百四十名其ノ出品點數百七十八點ナリ審査ノ結果四十二名ヲ選拔シ左表ノ如ク擬賞セリ

擬賞等級表

食用製粉審査報告

縣別	出品人員	出品點數	擬賞等級				合計	出品人員百ニ對スル割合
			一等	二等	三等	四等		
宮城縣	一三	一六				二	三・八四	
福島縣	四三	四八				三	二・三三	
岩手縣	二八	四〇				六	二・八六	
青森縣	二二	三〇				五	二・二八	
山形縣	一八	二四				四	三・一八	
秋田縣	一六	二〇				六	三・三三	
計	一四〇	一七八	三	一	二	二八	三・〇〇	

今此等主ナル種類ニ就キ審査ノ概評ヲ試ミルニ次ノ如シ

一 小麥粉

小麥粉ハ岩手縣八點、福島縣四點、山形縣三點、宮城縣一點合計十六點ニシテ福島縣岩瀨郡須賀川製粉合資會社及山形縣東村山郡羽前製粉株式會社ノ出品ニ係ル者ハ粉粒細微色澤佳良製法優良ナリト雖モ乾燥稍充分ナラズ粘力及麩質ノ含量多カラズ之レ原料ノ然カラシムル所ナリト雖モ近來海外輸入ノ勢強烈ナルヲ以テ優良ナル製品ヲ生産セシムルヲ期ス其他ノ出品ニ至リテハ色澤純潔ヲ缺キ粘力缺乏シ麩質ノ如キ著シク少ナク又製造法ノ粗漏ナルガ爲メ糠粉夾雜シ乾燥ノ如キ亦不良ナルモノ多キヲ認ム小麥粉優品ノ生産ハ精巧ナル器械ト原料ノ精選ニ待タザル可カラズ近來本邦ニ於ケル小麥粉ノ需用

ハ年々歳々増加シ從テ外國輸入ノ増加驚クベキモノアルニ際シ各地ニ精巧ノ機械ヲ具備セル製粉業ノ勃興スルヲ觀ルハ頗ル喜ベキ現象ナリト雖モ原料ノ優劣ハ外國所産ニ比シ著ルシキ徑庭アルヲ以テ之レガ原料ノ改善ハ須ク需用供給兩者ノ互ニ計畫ヲ立テ斯業ノ發達ヲ期スルコト最モ緊要ナル事業ト信ズ殊ニ東北各縣ハ土地廣ク小麥栽植ニ適應セル風土ヲ有スルニ依リ劣惡ナル在來ノ小麥種ヲ改良シ優良ノ原料ヲ生産セシムルハ他府縣ニ比シ優位ヲ占ムル者ト謂フ可ク以テ彼ノ北米所産ノ良品ト相拮抗スルニ至ランコトヲ希望スル者ナリ

二 蒟蒻粉

福島縣ヨリ二十九點ノ出品アリテ其ノ二三ハ色澤純良ニシテ粘力ニ富ミ頗ル優品タリシモ他ハ概シテ原料選擇乾燥ノ方法完全ナラザルガ爲メ色暗色ヲ帶ビ光澤ヲ失フモノ或ハ製法ノ粗漏ナルガ爲メ表皮類其他ノ夾雜物ヲ含有スルモノ少ナカラズ粘力ノ如キ亦甚ダシキ差異アルヲ見ル色澤ノ不純ナル粘力ノ缺乏等ハ原料栽培ノ巧拙收穫ノ時期ニ依リ影響スルコト大ナリ蒟蒻粉ハ一般ノ食料トシテ其ノ需用敢テ狭少ナラザルノミナラズ近來防水布及空氣枕其ノ他ノ糊料トシテ供用セラル、數量工業ノ發達増進ニ伴ヒ著シキ供給ヲ要スルヲ以テ從來之レガ産地ハ茨城、栃木縣ノ一部ニ過ギザリシモ近來群馬、長野等ノ各縣ニモ亦見ルニ至レリ福島縣ニ於ケル栽培地ハ石川郡ノ一部ニシテ一箇年ノ産額二拾萬圓内外ニ達ス而シテ之レガ栽培地ハ他ノ普通農作物ト異ナリ傾斜急ニ且ツ殆ンド礫土ニ耕作シ得ルヲ以

テ東北地方ニシテ適當ノ所ニ栽培シ製粉ノ業ヲ計畫スルハ農家ノ利スル所亦尠少ナラザルベシ

三 蕎麥粉

蕎麥粉ハ福島縣三點岩手縣二點合計五點ノ出品ニシテ福島縣出品ニ懸ルモノハ概シテ色澤良好粘力ニ富ミ品質佳良ナリシモ其ノ産額ハ多カラザルガ如シ岩手縣所産ノモノハ粘力强キモ色稍暗色ヲ帯ビ皮糠砂塵等ノ夾雜物ヲ含有スルヲ認ム該縣ハ東北地方ニ於テ蕎麥ノ産額最モ多ク製粉ノ如キ年額參拾萬圓内外ニ達スト聞ク品質ノ良好ナルハ一般ノ需用ヲ増加スル所以ナルヲ以テ之レガ産額ノ増進ト品質ノ改善ニ注意スルハ肝要ノ事ニ屬ス

四 澱粉類

澱粉類ノ出品ハ青森縣十七點山形縣十二點宮城縣七點岩手縣五點秋田縣三點福島縣一點合計四十五點馬鈴薯葛根及蕨根等ヨリ採收セル澱粉ニシテ山形縣出品ノ蕨粉十二點ヲ除ク外馬鈴薯澱粉ヲ以テ主要ナル出品トス二三ノ青森縣出品ノ馬鈴薯ハ澱粉粒ノ形狀完全ニシテ色澤純良乾燥良好ニシテ粘力ニ富ムモ概シテ色暗色ヲ帯ビ光澤ヲ失ヒ澱粉粒ノ既ニ崩壞變質シ半透明ノ状態ヲ呈セル者或ハ單純ナラザル澱粉粒或ハ砂粒、塵芥等ヲ混有スルアリ又山形縣出品ノ蕨粉ハ澱粉粒細微ニシテ均整粘力甚ダ強シト雖モ色澤ノ純潔ヲ缺キ塵芥等ノ夾雜物ヲ含有スルモノ多シ

葛粉ハ宮城縣出品ノモノ澱粉均整固有ノ色澤ヲ有シ粘力極メテ強ク優良ノ製品タルヲ失ハズ然レドモ

其ノ産額少キハ遺憾ナリ

此等澱粉ハ食料殊ニ製菓原料トシテ又工業上糊料トシテ其需用極メテ大ナルヲ以テ之レガ原料ノ精選ト製法ニ改良ヲ加ヘ以テ優良ナル製品ヲ生産スルヲ期待スベキナリ

五 製菓原料

製菓原料ノ出品ハ合計四十七點普通ノ菓子種、白玉粉、青豆及小豆粉ニシテ殊ニ製菓原料トシテ製造セラレタル者トス而シテ出品ノ最モ多キハ岩手縣ノ二十二點ニシテ他ノ各縣ハ三點乃至六點ノ出品ニ過ギズ岩手縣所産ノモノハ其ノ製法ニ熟練セルト注意周到ノ結果製品ノ精良ナル他縣ノ及バザルモノアルヲ認ム就中煎リ微塵粉及上南粉ノ如キハ色澤純良ニシテ鮮美ナル光澤ヲ有シ原料ノ精選製法ノ練熟共ニ見ルベキモノ尠カラズ其ノ産額ノ如キ十五萬乃至二十萬斤ノ多キニ達シ東京其ノ他府縣菓子製造者ノ需用ニ應ジツ、アリト云フ其ノ他福島縣出品ノ煎粉、山形縣出品ノ青豆粉、落雁粉、青森縣ノ浮粉、秋田縣ノ白玉粉、小豆粉ノ如キハ優良ナル製品ト謂フベク就中青豆粉ノ如キハ粉粒細微ニシテ色澤ノ良好ナル原料ノ選擇其ノ宜シキヲ得製法亦頗ル注意セル者ニ外ナラズ如此數多佳良ナル製品ヲ見ルト共ニ又色澤純潔ナラズ暗色ヲ帯ビ且砂粒塵芥等ヲ含有シ製法ノ粗雑ナルモノ亦少カラズ此等原料ノ精粗良否ハ直チニ製菓ノ品質ニ及ボス影響著大ナルヲ以テ原料ノ製造ニ從フ者ハ純潔ニシテ品質ノ優良ナルヲ期スベキナリ

六 麵類及乾蕎麥

二百八十四

麵類ハ素麵、餛飩及葛麵ニシテ餛飩ハ其ノ主ナルモノトス而シテ其ノ出品點數ハ合計三十六點ナリ秋田縣ハ出品點數多ク從テ佳良ナル品質ヲ具備スルモノ、勘カラズ即チ同縣由利郡龜田町鈴木辨之助出品ノ餛飩ノ如キハ麵線均整色澤乾燥共ニ佳良ナリ又同縣雄勝郡稻庭町某々ノ出品ニヨル餛飩ハ何レモ良好ノ品質ヲ有ス素麵ハ宮城縣刈田郡白石町鈴木某ノ出品ハ麵線細小均整ニシテ色澤風味共ニ良好ナリ然レドモ供用セル食鹽ノ量稍過ギタルノ傾キアリテ濕氣ヲ吸收シ易キハ注意スベシ餛飩及素麵ニ鶏卵ヲ加ヘタル者ハ多ク乾燥不良ニシテ異臭ヲ帶ビ或ハ色澤良好ナラザルモノ少カラズ然ラザレバ麵線不齊不良脂油ヲ供用シタルガ爲メ惡臭ヲ放チ或ハ食鹽ノ量多キガ爲メ濕氣ヲ吸收シ易ク貯藏ニ適セザルモノ多シ器械製ニ在リテハ其捏ネ方充分ナラザルガ爲メ麵線ニ龜裂ヲ生ジ折損シ易キモノ多シ麵類ハ夏期ニ於ケル需用殊ニ多ク又近來南滿及滿洲地方ノ輸出年々ニ増加シ第三三番乃至三十六番ノ製品ノ如キハ其ノ需用著シキモノアルヲ以テ之レガ原料ノ精選ヲ怠ラザルト雖モ供用スベキ脂油ノ種類及ビ食鹽ノ適量ヲ誤ラズ色澤佳良ニシテ外觀ノ美ヲ損セズ風味乾燥完全ニシテ貯藏ニ堪ヘシムルヲ要ス

乾蕎麥ハ岩手、秋田兩縣ノ出品ニ良好ナル製品ヲ見ルモ其出品點數甚ダ僅少ナリシハ遺憾ナリ要スルニ乾蕎麥ハ概シテ製法乾燥共ニ良好ニシテ貯藏ニ堪ヘ且ツ固有ノ風味ヲ有シ調理極メテ簡易ナルニ依リ生活狀態ノ復雜ナルニ從ヒ他方ニ於テハ如此風味輕淡ニシテ且使用方法ノ簡單ナル食品ノ需用増加スベキヲ以テ將來益々品質優良ナルモノヲ生産センコトヲ望ム

商工業ノ方法及成績審査報告

審査官 山口 貴 雄

本類ハ其出品點數三十一、同人員十九ニシテ其内容ヲ列記スレバ

秋 田 縣

秋田授産會事業成績

秋田木材株式會社事業方法及成績

鹿角郡軍入遺家族援助會木通蔓細工傳習所成績

秋田慈善會事業方法及成績(漁業用實子網等)

岩 手 縣

七折製絲場事業成績

山 形 縣

南郡社事業成績(製絲改良)

商工業ノ方法及成績審査報告

二百八十五

東村山郡染織同業組合業務成績
 群山社事業成績(製絲業ノ合同)
 株式會社鶴岡米穀取引所倉庫業ニ關スル方法及成績
 米澤絹織物同業組合業務成績
 米澤商會事業方法及成績(組紐製造)
 米澤輸出織物模範工場事業方法及成績(輸出織物製造)
 西置賜郡紬織物同業組合業務成績
 羽前輸出織物同業組合輸出羽二重製造方法及業務成績
 鶴岡士族開墾事業方法及成績
 株式會社酒田米穀取引所米券法
 小堅信用組合事業成績
 宮城縣
 宮城縣機械製絲同業組合業務成績
 福島縣
 合資會社共同生絲荷造所事業成績

此クノ如ク本類ノ關スル處錯綜ヲ極ムルモ其出品ヲ觀ルトキハ多クハ五六頁ヲ超エザル紙片ニシテ其事業ノ方法ヲ遺憾ナク説明シ其成績ヲ充分ニ發表スルニ足ルベキモノ稀レナリ殊ニ西置賜郡紬織物同業組合ノ出品ハ定款、諸規程、各樣簿冊、諸般ノ統計、意匠變遷圖、染色堅牢度試驗表、職工徒弟賃業者取締規程案等殆ンド遺憾ナク自個施設ノ要領ヲ説示シ來觀者ヲ益スルモノアリシノミ蓋シ一般ハ新ニ本類ヲ設ケタル趣旨ヲ了解セズ若クハ僅カニ之ヲ了解スルモ如何ナル形式材料ニ依リテ出品スベキモノナルカヲ知ラザルノ罪ナラン一體本邦現時ノ狀態ヲ觀察スルニ同業組合ノ如キ公共的機關ニ於テスラ各般ノ統計ヲ調査シ關係ノ要領ヲ製表シテ世上ノ參考ニ供スル如キ仕事ニハ兎角無頓着ナルノ傾向アリ況ンヤ其他ノ機關ニ於テヤ夫レ此ノ如キハ寔ニ憂フベキ事柄ニシテ平素ニ於テ是等ノ習慣ヲ涵養シ共進會ノ如キ場合ニハ何ノ苦モナク整理列次シテ發表スルノ準備アルヲ要ス
 今回ノ出品ノ如キ出品其物ノミヲ觀ンカ賞格ニ入ルベキモノ極メテ寥寥タリ於是乎一面平生ノ實況ヲ調査シテ彼此相参照シ左表ノ賞ヲ擬スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ

商工業ノ方法及成績擬賞統計表

縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級					計	出品人員ニ對スル擬賞場合
			壹等	貳等	參等	肆等	伍等		
宮城	—	—	—	—	—	—	—	—	
福島	—	—	—	—	—	—	—	—	

特許品意匠品費用新案品審査報告

岩手森形山秋合	
手森形田計	
三	二
四	四
一	一
九	三
四	一
七	五
一	一
五	三
六	三
二	一
一	一
一	一
八	二
四	一
九	九
四	二
七	六

特許品意匠品實用新案品審査報告

審査官 塚本信治

同 川 一

奥羽六縣聯合共進會ニ於テ特許品意匠品實用新案品部ヲ設ケタルハ今回ヲ以テ始メトスサレバ今回ノ審査ノ方法タル次回審査ノ參考資料トモナルベキモノナルヲ以テ特ニ之ヲ報告シ併セテ出品物ニ對スル審査評論ヲ具申ス

本區出品縣別出品人員件數及受賞者數表

縣名	出品人員	出品件數	受賞者數				
			一等	二等	三等	四等	計
岩手	九	一〇	一	一	一	一	五
宮城	四	五					
計							六一

縣名	出品人員	出品件數	受賞者數				
			一等	二等	三等	四等	計
青森	七	七					
山形	〇	〇					
秋田	六	六					
福島	二	二					
計	六〇	六五	三	一	二	一	三六

本區ニ出品セラレタルモノハ何レモ考案力ニヨリテ案出セラレタル物品ナルヲ以テ其審査方針ノ略同

一 軌タルベキハ當然ナリ今回ノ審査ニ方リ左ノ三項目ヲ以テ此等三品ニ對スル重要審査項目トセリ

第一 製作並ニ製品ノ良否

第二 發明意匠或ハ新案ノ實質上ノ價值

第三 工業上ニ及ボシタル或ハ及ボスベキ効果

以上ノ三項ハ本區出品審査上最モ重要ナル項目ナリト雖モ本區ノ如キ複雑ナル出品ニ對シテハ此三項ヲ以テ足レリトスベキニアラズ故ニ左ノ五項ヲ以テ參考審査項目トナシ以テ審査ノ補修ヲナセリ

一 製作販賣高

二 販路ノ廣狹

三 案出者並ニ擴布者ノ經歷

四 從來ノ受賞

特許品意匠品實用新案品審査報告

五 將來有望ナルヤ否ヤ

二百九十

今回ハ以上ノ項目ノ下ニ審査擬賞シタルモノニシテ其審査ノ結果ニヨリ評論スルコト左ノ如シ

第一部 機械工業品部

主任審査官

塚 本

信 治

(一) 羽二重織機 本區中最モ多數ニ出品セラレタルハ織機ニシテ殊ニ巧妙ナル運轉ヲ示シタルハ羽二重織機ナリ此レ奥羽地方ハ蠶絲ノ重要ナル生産地ナルヲ以テ之ヲ織製スルニ方リ從來ノ手織ニ依ルヨリモ力織機ニヨルハ大ニ生産費ヲ減ズルノ利益アルヲ以テ各地方ニ羽二重織製ヲ目的トスル會社ノ勃興ヲ見ルニ至リ從テ此需用ヲ滿サンガ爲メ發明者ガ羽二重織機ノ發明ニ盡粹スルノ結果タルヲ疑ハズ而シテ此等發明ノ結果東北地方ニ於ル羽二重製織上ニ一大改革ヲ招致シ福島、山形其他各縣ニ於テ此等發明ノ力織機ヲ採用シタル羽二重製織會社ノ勃興ヲ來シ幾百萬ノ投資者ヲ生ジ東北地方ヲシテ日本羽二重ノ主要ナル産地タラシムルニ至ラシメタルハ實ニ此等力織機發明ノ賜ニシテ發明ハ工業ノ進歩ヲ助長スルコトノ現實ナル例證ヲ現實ニ示シタルモノナリ而テ我日本ノ發明界上特筆スベキ一大生面ヲ發展シタルヲ疑ハズ此良發明ニ第一着手ノ功ヲ奏シタルハ山形縣齋藤外市ニシテ同氏ノ織機ハ不幸ニシテ今回ノ共進會ニ出品セラレザリシモ其功績甚ダ顯著ナルモノアリ氏ノ發明ノ導火線ハ終ニ今回ノ共進會ニ於ケルガ如キ發明羽二重織機多數ノ優秀ナル出品ヲ見ルニ到ラシメタルモノニシテ此等出品織機ハ各其特徴ヲ有シ將來益々社會ノ歡迎ヲ受ケ羽二重織成上ニ多大ノ効果ヲ奏スルヲ疑ハズ

出品織機中審査ニ當リ最モ良好ナル織布上ノ成績ヲ得タルハ山形縣合資會社米澤鐵工場ノ出品ニ係ル高柳式力織機ニシテ其發明ハ緯絲整調裝置ニアルモノナリ織機全部ノ製作甚ダ優秀ニシテ調節最モ良好ナリ解紆卷取打込開口毫モ遺憾ナク實用上ニ於テ優位ヲ占ムルモノナリ若シ廣ク此種ノ良織機ノ使用セラルハアラバ本邦ニ於テ精巧ナル絹織物ヲ織成スルニ何等ノ遺憾ヲ感ゼザルベク織物界上ニ貢獻スルコト甚ダ大ナルベシ又山形縣平田米吉出品平田式力織機ハ其製作及製品亦佳良ナリ其發明ハ正確ニ經絲ノ伸度ヲ一定ニ保タシメ容易ニ其伸度ヲ加減シ得ベク又經絲ノ緩ム場合ニ之ニ應ジテ送出シテ調節セシムル者ニシテ正ニ解紆裝置ニ關スルモノナリ而テ出品者ハ從來最モ其織機ノ擴布ニ努メタル結果該織機ノ使用セラルハ範圍甚ダ廣ク自ラ鐵工場ヲ經營シ多數ノ職工ヲ使役シ熱心ニ其製作ニ從事シ事業甚ダ盛大ナル者ニシテ多數ノ織機ヲ當業者ニ供給シタル其功勞大ニ賞スベキ者トス之ニ次グハ福島縣二階堂篤彌出品桂冠式力織機ニシテ其發明ハ篋棒卷取其他各部ニ關シ甚ダ緻功ナル發明ニシテ發明上甚ダ優位ヲ占ム其案出ノ勞察スルニ餘リテ而テ此織機ハ當時大ニ當業者ノ歡迎ヲ受ケ已ニ本機ヲ使用スル羽二重製織ヲ目的トスル數會社ノ成立ヲ見ルニ至ル前途甚ダ有望ナリトス然レドモ今回ノ出品ニ際シ少シク期ヲ後レタル爲メ据エ付ケ仕掛ケ其他凡テニ於テ急速ナリシ故カ有害ナル震動ヲ生ジ織味不充分ニシテ本機ノ特徴ヲ完全ニ發揮スルニ至ラザリシハ出品者ノ爲メ切ニ惜マザルヲ得ズ又岩手縣千葉伊平出品千葉式力織機ニ於テハ發明者ガ發明ニ熱心ナルノ結果卷取裝置ニ於テ經絲送出裝

特許品及匠品費用新案品審査報告

二百九十一

置ニ於テ發明上ノ苦心甚ダ歴然タルヲ見ル發明者ノ熱心ナル甚ダ賞スベキモノナリ而シテ機械ノ構造ニ於テハ甚ダ其當ヲ得タルモノナレドモ少シク遺憾ヲ感ゼシハ其製作ノ不正確ナリシ爲發明上ノ特徴ヲ發揮スルニ到ラザリシトニシテ爾來益々奮勵シ製作上一層ノ注意ヲ拂フアラバ社會ノ需用者ヲシテ満足セシムルヲ得ベキハ明カナラン又福島縣大石嘉作出品徳山式力織機ニ於テハ其卷取裝置ヲ以テ發明ノ要點トナスモノニシテ卷取作用甚ダ完全ナリ而テ製作亦良好ニシテ織機全部ノ構成遺憾ナク完備シ調節良好ニシテ織布上ノ成績甚ダ優等ナリ然レドモ此織機ノ社會ニ出デタルハ實ニ最近ノトニシテ未ダ普及スルニ至ラズ益々奮勵シテ事業ヲ擴張スルアラバ其成効期シテ待ツベキモノアラン以上ノ織機ハ今回出品セラレタル薄地絹織製用ノ織機ニシテ將來羽二重製織上ニ多大ノ効果ヲ奏スベキヲ疑ハズ然レドモ羽二重ノ製織タル元來甚ダ困難多キ技術ニシテ此難技術ヲ力織機ノ作用ニヨリテ完全ニ成功スルニハ更ニ幾多ノ改良ヲ經サル可カラズ今回ノ出品中其織機ノ織製ニ係ル羽二重ニシテ已ニ精練後優良ナル練羽二重ヲ得ベキ世評ヲ博シタル織機ナキニ非ズト雖モ之ヲ手織羽二重ノ優等品ニ比スレバ品質上遜色アルヲ免レズ此レ織機ノ卷取打込解紆開口等ノ作用上手織ニ比シテ微妙ナル相異アルガ爲メナルベシサレバ世ノ發明者タルモノハ徒ニ空想ニ走ラズ自ラ先ヅ手織ヲ練習シ其織心地ヲ力織機ニ移スノ覺悟ヲ以テ更ラニ一大奮發ヲ爲サルベカラズ又自動停止裝置ノ如キモ今回出品ノ羽二重織機ニ於テハ之ヲ裝置シタルヲ見出サマリシ思フニ羽二重織機ニ對シテ木綿織機ニ於ケル自動停止

裝置ヲ其儘適用セバ徒ラニ工女ノ煩雜ヲ増スノミニシテ何等ノ効果ナカルベシサレバ更ラニ一層巧緻ナル微妙ナル停止裝置ノ發明ノ現出ヲ希望セザル可ラズ此二件ハ小官ガ今回ノ審査ニ當リテ特ニ發明者ニ熱望シタル所ニシテ次回ノ出品ニ於テハ必ズヤ此等ノ缺點ヲ改良セラレタル完全ナル出品アルヲ疑ハザル所ナリ

(一) 木綿織機 木綿織機ノ出品セラレタルハ其數四點ナリ其一ハ青森縣鹿内豐吉出品足踏織機ニシテ打込數多ク織布良好ニ又其停止裝置等甚ダ完備スルト雖モ運轉ニ動力ヲ要スルコト大ナル弊アルヲ免レズ一層構成並ニ製作ニ注意スルアラバ社會ノ歡迎ヲ受クルコト疑ナカラシ其二ハ青森縣中川原貞機出品三挺杵力織機ニシテ織布中自働的ニ換杵セシムルモノナリ其構成上ノ考案甚ダ良發明タリト雖モ製作上一層ノ注意ヲ拂フニ非レバ換杵作用ニ完全ナル效果ヲ奏スルコト難カルベシ其三ハ山形縣加藤彌三郎出品足踏織機ニシテ其四ハ岩手縣森健忠五郎出品力織機ナリ此兩機ハ共ニ構成上ノ缺點少ナカラズ更ニ一層ノ奮勵ヲ要ス

(二) 製絲器械 奥羽六縣ハ本邦中最モ養蠶製絲ノ盛大ナル地方ニシテ到ル所トシテ製絲工場ヲ見サルハナシ小官ハ數年前出張ヲ命ゼラレ此地方ヲ一巡シ各種ノ工業ヲ視察シタルコトアリシガ其際ニ於テ腦裡ニ強キ印象ヲ與ヘタルハ製絲業ニ關スル發明ノ希望ナリトス原來製絲ニ於テハ絲質ノ均等優秀ヲ期スベキハ勿論ノコトニシテ從テ一工場ニ於テ凡テ等一ノ器械ヲ用ヒテ熟練セル女工

特許品意見書用新案品審査報告

ニ依リテ製絲セハ其製品ノ良好ナルベキハ當然ナリ此レ製絲工場ナルモノ、各地方ニ於テ勃興シタル原因ナルハ明カナリ然レドモ更ニ之ヲ考セバ大ニ顧慮ヲ要スルモノ少ナキニアラズ工場經營ニ於テハ幾多ノ不便不利ヲ有ス其第一ハ多數ノ女工ヲ一屋ノ下ニ聚ムルコトニシテ此レガ爲メニ寄宿舎ヲ要シ又ハ通勤セシムルトスルモ途上徒ラニ時間ノ損失ヲ生ジ又其監督上幾多ノ困難ヲ有ス加之工女ヲシテ操業ニ熟練セシムル爲メニ幾月ノ練習ヲ要スル等ノ無益ノ勞アリ且工場ノ經營上ニ於テモ冗費ヲ要シ製絲ノ料金ヲ多大ナラシムルハ疑ヲ入レザル所ナリ然レドモ若シ製絲上ニ多大ノ動力ヲ要スルモノナランニハ或ハ必ズ工場經營ニ依ラザル可ラザル理由アリト雖モ元來製絲上ニ要スル動力ノ極メテ小ナルモノニシテ一工女ノ取扱ヒ得ベキ口數ニ對シテハ一手一足ノ力ニテ餘リアルモノナリ此等ノ事實ヨリ考察スルニ今假リニ茲ニ一ノ簡單ナル製絲器械ノ發明セラレ、アリテ一婦女子ノ容易ニ且輕便ニ取扱ヒ得ベク操業ニ多クノ熟練ヲ要セザル而テ器械製絲等一ナル良好ナル絲ヲ製スルヲ得ベク且ツ廉價ニシテ各箇人ノ容易ニ購買スルヲ得ベキトセバ前記ノ如キ工場經營ノ徒勞ヲ避ケ且ツ農家ノ婦女子ハ農業ノ餘暇ニ於テ隨時製絲スルヲ得ベク工場通勤ノ無益ナル時間ノ浪費ト農家婦女ノ最モ嫌忌スル束縛トヲ避ケルヲ得テ製絲上ニ多大ノ便益ヲ與フルハ當然ニシテ蠶業ノ發達上甚ダ有益ナルベキヲ信ジタリ而テ爾來歲々閱スルコト已ニ數年後ノ今日ニ於テ始メテ此理想ニ最モ近キ良發明ヲ今回ノ共進會ノ出品中ニ見ルヲ得タルハ小官ノ最モ満足スル所ナリ且其出品トハ即チ福島縣合資會社

内池商店ノ出品セル足踏製絲器械ニシテ本器ノ擴布ハ正ニ余ノ理想ヲ現實ニ實行スルモノナリ本器ハ特許第九八三〇號接緒器ト特許第七一八三號ノ絞振器トヲ裝設スルモノニシテ器械全部ノ構成整然トシテ操業ニ最モ便利ニ者鍋火爐取梓聯動ノ構成完備シ全部ノ釣合甚ダ當ヲ得タリ又操業ニ長キ訓練ヲ要セズ如何ナル婦女子モ數日ニテ使用ニ熟練スルヲ得ベシ且價格低廉ナルノ故ヲ以テ個人ノ購買ニ勝ルハヲ疑ハズ又實驗審査ノ成績ニヨレバ其製絲ノ絲質最モ良好ニシテ優ニ器械製絲ヲ凌駕スベシサレバ本器ノ發賣日ノ未ダ淺キニ係ラズ已ニ幾千臺ノ販賣ヲナシ本器ニ依リテ製出セラレタル生絲ハ當業者ノ檢査ニ於テモ常ニ品位優等ノ成績ヲ得ツ、アルモノニシテ將來本器等ノ廣ク發達地方ニ行ハル、アラバ必ズヤ煩雜ナル工場經營ノ製絲法ヲ一變スルノ時機アラン次位ニ屬スルハ山形縣筒井信夫出品製絲用足踏器ニシテ其發明ハ接緒器ニ係ルモノナリ考案良好ニシテ實用ニ適スルヲ疑ハサレドモ未ダ社會ニ多大ノ貢獻ヲナシタルヲ聞カズ一層ノ奮勵ヲ要スルモノアラン

(四) 繭乾燥器 蠶業上ニ於テ繭乾燥法ノ最モ大切ナルハ甚ダ明カナル所ニシテ乾燥法ノ良否ハ直チニ繭ノ品質ニ關係ヲ及ボスモノナリ從來ニ於テ已ニ各種ノ乾燥器ノ存在セザルニアラズ然レドモ今出品中最モ良好ナル構造ヲ有シ當業者間ニ已ニ乾燥ノ結果ノ良好ナルヲ認メラレタルハ福島縣大沼平兵衛出品岡村式生繭乾燥器ナリトス構造ノ簡單ナル爲メ價格比較的低廉ニシテ需用者ニ満足ヲ與フベキ良乾燥器タルヲ失ハズ出品中ニ於テモ多クノ買約ヲナシ得タルハ正ニ本器ノ社會ニ歡迎セラレ、コ

トヲ示スノ實證ニシテ將來廣ク使用セラル、時機ニ達セバ蠶業上ニ多大ノ貢獻ヲ爲スヲ疑ハズ益々奮勵セラレシコトヲ希望ス

(五) 養蠶具 養蠶具ニ關スル發明ノ出品ハ其數多カラズ然レドモ福島縣内池商店出品蛆害繭鑑別機ノ如キハ物品ノ性質上多大ノ需用ヲ有セザリシト雖モ其効果上甚ダ有益ナル發明ナリトス又福島縣渡邊俊綱出品籠蠶壘ノ如キハ製作良好ナリト雖モ未ダ多大ノ効果ヲ奏シタルヲ聞カズ一層ノ奮勵ヲ要スルモノアラン其他數點ノ養蠶ニ關スル出品アリシト雖モ未ダ特ニ賞スベキモノヲ見出サザリシハ甚ダ遺憾ナリ

(六) 各種製造機械 出品製造機中指ヲ屈セラル、ハ山形縣伊藤平治出品豆麥切碎機青森縣小山田德進出品輕便味噌製造機秋田縣後藤市平出品小羽割機等ナリ此等ハ良發明ニシテ特徴アル効果ヲ有ス當業者ガ其操業ニ使用スルアラバ幾多ノ利益ヲ得ベキハ明カナリ然レドモ未ダ社會ニ廣ク行ハル、ニ至ラザルハ残念ナルコトニシテ出品者ハ擴布ニ一層ノ努力ヲ要スルモノアラン

(七) 農具 農具類ノ出品中第一ニ指ヲ屈セラル、ハ福島縣高橋佐平出品除草器ニシテ發明者カ發明ノ擴布ニ熱心ナルノ結果豐年車ノ名ヲ以テ各府縣ニ於テ盛ニ歡迎セラレ又製作ノ簡易ニシテ價格ノ低廉ナルガ故ニ需用者ニ満足ヲ與ヘツ、アルモノナリ本器ハ東北地方ニ於ケル農具ノ發明上最モ成功シタルモノニシテ農夫ノ勞ヲ減ジ作業ヲ容易ナラシメ農界ヲ裨益シタル其効甚ダ大ナルモノナリ又福島

縣齋藤庄五郎出品齋藤犁ハ已ニ世ニ好評ヲ博シツ、アルモノナリ製作上ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ需用者ヲシテ益々満足セシムルアラバ事業ノ盛大期シテ待ツベキモノアラン又秋田縣小田斌出品馬耕犁ハ製作良好ニシテ實用上甚ダ適當ナルモノナリ然レドモ未ダ社會ニ廣ク行ハル、ニ至ラザルハ遺憾ナリトス右以外ニ於テ農具ノ出品少ナキニアラズ然レドモ未ダ社會ニ何等ノ効果ヲ奏セズ特ニ賞スベキ價值ヲ見出サザリシハ遺憾ナリ又稻扱器ニ於テハ福島縣藤井久太郎出品稻扱器福島縣山高合名會社出品稻扱器ハ製作良好ナルモノニシテ實用ニ適スルヲ疑ハズト雖モ擴布上ニ一層ノ奮勵ヲ希望セザルベカラズ

(八) 雜品器具 器具類ノ出品中ニ於テ福島縣齋藤國吉出品消毒用噴霧器宮城縣大泉宗治出品大泉式測量機械ノ如キハ製作良好ニシテ實用上ノ効果甚ダ優リタルモノナリ之ニ次テ岩手縣三上良太郎出品自働打鐘器青森縣葛西藤三郎出品葛西錠福島縣大内清次郎出品錠福島縣山田彦三郎出品調帶福島縣齋藤駒吉出品瓶キルグ拔岩手縣齋盛祖宗出品柿皮剝機岩手縣國分八郎出品紀念鐵瓶秋田縣石川友吉出品自在鉗鐵瓶秋田縣柴田政太郎出品果樹缺岩手縣澤口理助出品木製消火器福島縣鈴木直惠出品實効瓦福島縣神谷亥三雄出品帛紗等ハ其發明ニ於テ考案ニ於テ或ハ意匠ニ於テ甚ダ良好ナリト雖モ未ダ特記スベキ効果ヲ奏セザルモノニシテ益々奮勵ヲ要スルモノアラン

第二部 化學工業品部

主任審査官

川

今回ノ共進會ニ於テ化學工業ニ關スル發明品ノ出品甚ダ少ナカリシハ遺憾ナリシト雖モ福島縣橋本與

吉出品香蠟燭附ハ發明甚ダ良好ナリ晒白シタル木蠟ニ礦物性油ヲ混和シタルモノニシテ普通蠟燭ニ於テハ分解シテ惡臭ヲ發シ易ク寒冷ニ遭フテ凝固シ又温熱ノ爲メニ軟化シ易キ弊アルモ此蠟燭油ニ於テハ礦油ヲ利用シタル結果斯ノ如キノ缺點ヲ補足シタルヲ以テ現時支那朝鮮等ニモ其販路ヲ開クニ至リタリシハ誠ニ賞スベキモノトス

水産審査報告

審査官 梶 川 温

奥羽六縣ノ聯合共進會モ各縣歲次ニ開設シ本會ハ第六回ニシテ玆ニ一周ノ終リヲ告グ本會ヲ以テ既往數回ノ開設ニ比スレバ物産ノ増殖改良陳列場ノ規模陳列ノ體裁裝飾其他萬般ノ設備著シキ進歩ニシテ殆ンド第二回第三回等ニ比スレバ全ク面目ヲ新タニセリ是レ即チ時運ノ進化ニ伴フ結果ニシテ必然ノ勢ナラン然レドモ水産業ノ如キハ尙ホ新タニ開發スベキ事業或ハ在來ノ事業ニシテ改良ヲ加フベキ者モ亦少シトセス殊ニ太平洋ニ面スル福島、宮城、岩手、青森ノ四縣ハ水産業ニ對シテハ最モ好位置ヲ占メ幾多ノ富原ヲ有スルヲ以テ今日此四縣ノ當業者ハ大ニ力ヲ盡スベキノ秋ナリ又タ日本海ヲ受クル山形秋田ノ二縣ノ水産業ガ今日尙ホ遲々トシテ進マザルハ全ク位置ノ宜シキヲ得ザルニ歸スルモノアルモ是等ハ一部ノ偏見ニシテ或ハ位置ノ如何ニ基ク處モアラン然レドモ是ガタメ絶望スベキモノニアラズ

ズ今日以後ノ漁業ハ遠洋的漁業ニシテ沿海漁業ハ只ダ此二縣ノミナラズ一般ニ衰退シツ、アリ二縣ノ當業者ガ遠洋漁業ヲ經營スルニ於テハ敢テ位置ノ如何ヲ問フノ必要ナカルベシ遠洋漁業ヲ起サント欲セバ此地方ニテ遠洋漁船ノ碇繋場ニ充ツベキハ山形縣加茂港ヲ除ケバ殆ンド天然ノ碇繋場ニ充ツベキ適當ノ港灣ナキヲ以テ勢灣形ヲナス海岸ヲ修築シ人工ヲ以テ碇繋場ヲ造ラザルベカラス今日適當ト認ムルトコロハ秋田縣南秋田郡ノ戸賀灣女川灣由利郡小砂川灣山形縣飛鳥ノ如キヲ選バザルベカラス是等ノ海岸ニ修築ヲ加ヘ防波堤ヲ設クレバ三十噸内外ノ帆船ハ容易ニ繫留スルヲ得ベシ今日迄遠洋漁業ノ端緒ヲ啓カザルハ或ハ安全ナル碇繋場ヲ得ザルニモ因ルベシ碇繋場ヲ修築スルハ遠洋漁業ヲ誘導スル階梯ニシテ此地方ニ於ケル目下ノ急務ナリ奥羽六縣ノ水産業ニ對シテハ鯨、鮫、鮪、鰹ノ如キハ遠洋的ニ經營スベキ漁業ナリ此他ニ殊ニ奥羽ノ當業者ニ勸告スルコトハ鰹魚ニシテ奥羽六縣ノ沿岸ニハ尙ホ充分鰹漁ヲ擴張スベキ餘地多シ鰹漁ハ個人的漁業ニシテ大資本ヲ要セズ之ヲ勸誘スルニモ亦甚ダ容易ナレバ鰹漁ノ勸誘ハ當面ノ仕事ニシテ鰹ハ悉ク輸出スルヲ以テ是ガ擴張モ亦タ目下ノ急務ナリ鰹魚ノ如キモ品質ハ九州地方ノ産ニ比スレバ稍々劣ルトコロアルモ奥羽地方ハ鰹ノ棲息場ニシテ鰹漁ハ有望ノ漁業ナレバ大ニ奮勵スベシ鮎海參ハ奥羽地方ノ特産トモ云フベキ水産物ナリシガ昨今濫獲ノ爲メ蕃殖ヲ害シ舊時ノ如ク盛ナラザルハ遺憾ニ堪ヘザルトコロナリ此際採捕ノ制限ヲ設ケ之ヲ嚴守厲行セシメテ蕃殖ヲ謀リ此地方ニ於ケル重要輸出品ノ聲價ヲ永遠ニ保有スルノ方法ヲ設ケベシ今日太平

洋ニ面スル四縣ノ重要品ノ產出額及價格ヲ左ニ掲グ

經節

縣別	三十九年		三十八年	
	數	價額	數	價額
福岩青宮全	一七一,一四五	四〇四八一二	八六,四四五	二五二,〇三七
島手森城總額	九一,八一〇	二一七,五八七	六九,六二五	一四六,二六一
福岩青宮全	一二四〇〇	六四三〇	四,八四六	三,六六八
島手森城總額	一一〇,〇七三	二六〇,五九二	二一〇,〇三〇	四六六,〇八九
全總額	一,七五三,六五〇	五〇九五,〇四四	二,五四〇,四三三	六,四七三,八九〇

福岩青宮全	三十九年		三十八年	
	數	價額	數	價額
島手森城總額	一五〇〇	二,九四〇	三七〇	九九九
島手森城總額	二〇,七〇三	四八,九〇六	二〇,五〇七	三〇,六〇一
島手森城總額	五〇〇	三五〇	二五〇	二五〇
島手森城總額	七,五六五	二〇,四三三	一四,二九〇	三六,八〇二
島手森城總額	一一二,四九九	二五〇,〇八九	一一一,四三四	二四七,五九九

宮城	田作
四四〇八	一七三五
	二七,六二五
	一二,三三一

福岩青宮全	三十九年		三十八年	
	數	價額	數	價額
島手森城總額	一五,五六〇	一四,〇〇四	二,七七〇	一,二七五
島手森城總額	三六,三〇二	一六,七三一	三七,七三九	一九,三一〇
島手森城總額	二四,六〇〇	一〇,五〇〇	二二,四五〇	九五,五六
島手森城總額	二,五七二	一,五八二	一,三四六	一,〇四八

福岩青宮全	三十九年		三十八年	
	數	價額	數	價額
島手森城總額	五,六六〇	六,六二二	三六,七八七	五二,九三三
島手森城總額	三五五,九九一	五一七,八五八	二二九,六三三	二九〇,〇六三
島手森城總額	一八七,四二七	一九九,六四二	一八三,〇五七	一九七,二六八
島手森城總額	二二,三五〇	二二,三五〇	一一,八〇〇	一四,八七〇

福岩青宮全	三十九年		三十八年	
	數	價額	數	價額
島手森城總額	五,三八九	一七,一九四	三,六五二	一〇,九七二
島手森城總額	一,三二〇	七,九二〇	二,四一二	五六,四八
島手森城總額	三,七二一	二四,〇〇五	九六五	三五,四〇
島手森城總額	一一,一五八	四,一七二		

水産検査報告

三百一

三百

山形	海參	三百三
----	----	-----

福宮	岩手	青森	山形	秋田
島城	手島	森手	形森	田形
鮑	鮑	鮑	鮑	鮑
1,080	2,590	3,534	1,080	2,590
2,817	781	1,426	2,817	781
1,203	420	2,619	1,203	420
3,008	1,195	1,063	3,008	1,195

福宮	岩手	青森
城島	手島	森手
淡菜	淡菜	淡菜
7,180	4,500	6,423
3,036	2,850	1,855
5,092	3,550	6,963
1,672	2,822	1,396

岩手	宮城
貝柱	貝柱
600	2,065
480	2,044
500	2,780
400	3,785

福島	八百	六,000
----	----	-------

國富ノ増減ハ專シ海外貿易ノ消長ニ基クモノナレバ輸出品ヲ盛ナラシムルハ目下ノ最急務ニシテ吾人ハ須臾モ忘ヘルカラズ
 又内地ニ於ケル魚類ノ需要ハ近年著シク増進シ其供給ハ需要ニ應ズル事能ハサルノ状態ニシテ隨テ價額モ頗ル騰貴セリ今ヤ交通ノ便ナルト製造法ノ進歩ハ例令僻陬ノ地ニ於テ漁獲セシ魚類ト雖モ鮮魚ニテ都市ニ輸送セラレ若シ交通ノ不便ナル地方ニ於テハ悉ク製品トシテ市場ニ顯ハレ昔日ノ如ク一朝大漁ニ際シテ價格ノ暴落スルガ如キ憂ナシ如斯ク陸上ニ於ケル販賣並ニ製造ニ活動機關ノ發達セシヲ以テ是ニ伴フ漁業が大ニ進歩シテ漁獲ノ益々増進スルニ至ラバ水産業ノ利益モ殆ンド測ルベカラズ與羽地方ノ水産業者ハ幸ニ本會ノ効果ヲ將來ニ發揚セラレシコト希望ニ堪ヘズ左ニ縣別出品點數及人員合計表ヲ掲グ

縣別水産製造物出品點數及人員合計表

縣別	第三十四類	第三十五類	第三十六類	第三十七類	第三十八類	合計
宮城縣	1,100	99	38	68	23	1,328
福島縣	1,077	83	38	59	20	1,377
岩手縣	1,161	145	38	68	20	1,532
出品人員	1,100	99	38	68	23	1,328
合計	4,448	381	142	222	66	5,263

水産調査報告

青森縣	101	20	55	4	5	25
秋田縣	98	16	48	6	9	24
山形縣	99	7	55	4	6	26
合計	463	32	138	19	35	100

區類別品種ハ左ノ如シ

第五區水産

- 第三十四類 乾腊物(明鮑、灰鮑、海參、鰻、鱈、田作)
- 第三十五類 燻乾物(鱈節、鮪節、燻製品)
- 第三十六類 海藻(昆布、石花菜、エゴ、海苔)
- 第三十七類 雜用品(魚粕、食鹽、寒天)
- 第三十八類 鹽藏及醃藏魚類

本會水産物出品ノ區類別品種ト陳列ノ體裁ニ關シ一言セントス秋田縣ニ開設セシ第五回ノ出品規則ニハ水産物ハ第三區トシテ第二十二類ヨリ第二十五類ニ涉リ之ヲ四類ニ分チタルガ本會ハ第五區トシテ第三十四類ヨリ第四十類ニ涉リ之ヲ七類ニ分チ鹽藏及醃藏魚類、漁具、漁船、水産業ノ方法成績ノ三類ヲ追加シテ品種ヲ増加セリ殊ニ漁具、漁船、水産業ノ方法成績ノ二類ヲ追加セシハ奥羽地方水産業ノ

概要ヲ知ラシムルニハ必要ナル追加トスルモ鹽藏及醃藏魚類ヲ加ヘシハ稍々遺憾ナキ能ハズ元來奥羽ノ沿海ニテ多數ニ捕獲スル魚類ニシテ鹽藏或ハ醃藏シ一産物トナルベキモノハ極メテ少シ鹽藏ニ適スベキ魚類ヲ舉グレバ鮪、鰻、鮭、鱈等ニシテ鮪ハ從來片前或ハ鋤身トシテ多少ノ産出アリシガ今日ニ至ツテハ多クハ鮮魚ノ販賣ト鮪節ノ有利ナルヲ知ツテ之ガ原料ニ供セラレ鹽藏品ハ殆ンド跡ヲ絶タントス鰻ハ鹽藏ニ適スルモ此地方ノ産ハ灣内産ニ比スレバ比較的脂肪ニ乏シキヲ以テ寧ロ乾魚(鰻刺ノ如キモノ)トスルガ適當ナラン鮭鱈ハ如何今日ノ漁獲高ニテハ到底鹽魚トスルノ餘裕ナカルベシ況ヤ醃藏魚類ニ至リテハ一種ノ嗜好品ニシテ多數ノ需要供給ヲ得ルコトハ到底望ムベカラズ現ニ本會第三十八類ノ出品狀況ヲ看ルニ出品數僅ニ四十五點ニシテ其人員ハ三十九人アリ加之ナラズ之ヲ縣別ニ陳列セシヲ以テ其縣ノ陳列棚ニ鹽藏一二點アリ奇零ノ物品ガ處々ニ點在シ是ガ爲メ却テ聯合共進會ノ陳列場ノ體面ヲ失フノ感アルハ寔ニ惜ムベシ然ラバ之ガ獎勵ノ必要ナキ乎絶對ニ出品ヲ擯斥スルニアラズ斯ル製品ハ歲次開催スル一縣或ハ一郡ノ共進會品評會等へ出品セシメテ一地方ノ産物トシテ獎勵スレバ足ル苟モ各縣聯合ノ共進會等ニ陳列シテ優劣ヲ争フノ價值ナシ爾來出品物ハ博覽會聯合共進會一縣一郡共進會又ハ品評會等系統的ニ陳列ノ種類ヲ豫メ選別シテ出品セシムルヲ要ス又タ本會水産物ノ陳列法ハ縣別トシ是ガ爲メ同種類ノ製品ニシテ各縣各別ニ割據陳列セラレタルヲ以テ觀覽者ヲシテ比較鑑別スルノ便益ヲ失フハ遺憾ナリ又タ海苔ノ如キハ多ク露出シテ陳列シ或ハ硝子壇ニ挿入シ又ハ板

ニ點綴シ殆ンド商品トシテ海苔ノ保存法ヲ知ラザルモノ、如シ如斯キ性質ノ製品ヲ曝露シテ陳列スルガ如キハ出品者ノ意思ガ那邊ニアルヤ殆ンド解釋ニ苦シムトコロナリ又漁具漁船ノ陳列モ一ニ、蠶網ヲ除ケバ他ハ陳列ト云ハンヨリ只ダ放置シタルニ過ギズ如斯キ物品ハ陳列法ノ如何ニ因テ其効用ヲ發揮シ初メテ觀覽者ニ裨益ヲ與フルトコロノモノナリ然ラザレバ只徒ラニ陳列面積ヲ塞グニ過ギズ元來ノ出品ハ篤志ノ人ニシテ特種ノ物品ニアラザレバ出品スルモノ甚ダ少シ廣ク其効用ヲ知ラシムルハ共進會ノ如キ場合ヲ利用シ又觀覽者モ此場合ニ依テ初メテ其効用ヲ知リ利益ヲ得ルモノナレバ共進會ノ効力モ亦多ク此場合ニ存セリ爾來此等ノ出品陳列ニハ殊ニ注意ヲ要ス近來博覽會共進會等ニ出品スルモノハ只一片ノ賞譽ヲ得ルヲ第一ノ目的トシ自己ノ事業ニ關スル工場ノ設備製品ノ産額取引ノ關係者現在自家營業ノ状態ヲ明瞭ニ表示シテ之ヲ公衆ニ紹介スル所謂廣告ノ機關タルコトヲ忘却スルガ如シ是等ハ誤レルノ甚ダシキモノニテ廣告タルノ趣旨ヲ了解セバ將來ノ出品ニハ營業状態ヲ明瞭ナラシメ衆指衆目ヲ惹ク方法ヲ攻究シテ陳列スベシ一片ノ賞譽ヨリモ却テ廣告ノ利益ガ必ズ大ナラン

第五區第二十四類

本類ノ種目ハ明鮑、灰鮑、海參、鰻、鱈、田作ニシテ重要ナル清國輸出品ニ屬シ本類ノ出品點數ハ各類中ニテ最モ多敷ヲ占ム鰻ハ又殊ニ多シ是ニ次ギ明灰鮑、田作、海參ニシテ鱈ハ甚ダ少シ鰻ハ皆

二番鰻ニシテ岩手、青森ノ二縣大部ヲ占メ宮城、山形是ニ次グ岩手、青森ハ近年ノ改良ニ係リ青森ノ如キハ東津輕下北二郡ハ漸次改良ノ効果ヲ奏シツ、アリ本會出品ノ如キ製品略ホ一定シテ粗惡ノ製品ヲ認メズ殊ニ悉ク輸出向ニシテ把東ノ風格他ニ異リ南清地方ニテハ把東ノ形容ヲ意味シテ之ヲ排鮑ト稱セリ岩手縣ノ鰻ハ克ク齊一シ頗ル賞スベキ點アルモ只内地向ヲ主トシ結束等モ殊ニ整備セリ固ヨリ損得ノ關係アルヲ以テ容易ニ誣ユルコト能ハザルモ將來ハ可成輸出向ニカテ盡サレンコト國家ノ利益トシテ殊ニ希望スルトコロナリ宮城、山形ノ産モ輸出向トシテ改良ヲ獎勵セラレンコトヲ望ム

明灰鮑ハ青森、岩手、宮城、福島ノ諸縣ヨリ出品シ青森縣ノ出品ハ大形ニシテ形狀、品質青森産ノ特色ヲ顯ハン良品ト云フベシ又明灰折衷ノモノモ亦佳ナリ岩手縣ノ如キハ昨今鮑ノ出品殆ンド跡ヲ絶タントトセシガ本會ハ鮑ノ出品殊ニ多ク悉ク中形ノ肉厚キ灰鮑ニシテ南部固有ノ形狀品質ヲ發揮セリ昨今灰鮑ノ腸臟ヲ附スルハ夏期ニ腐敗ノ憂アルヲ以テ市場ノ人氣ヲ落セリ腸臟ヲ去ルハ結局ノ利益アランカ福島、宮城二縣モ從來多額ノ産出アリテ品質形狀モ良好ナリシガ昨今ハ産額モ稍減少セルモノ、如シ鮑類ハ捕獲上制限禁止ヲ嚴守勵行シテ國産ヲ永遠ニ保護スルハ目下ノ急務ナリ

海參ハ青森縣ノ出品ニシテ疣立製造良好ナリ岩手縣ノ産ハ形ハ小ナルモ疣立チ密ニシテ品質モ亦佳良ナリ只ダ鹽分ヲ含ムモノアリ是等ハ製造上殊ニ注意ヲ要ス清國ノ倉庫ハ通風ノ宜シカラザルト光線ノ映射少ナク且ツ土間ニ蓄積スルヲ以テ倉庫内常ニ濕潤ノ空氣ヲ以テ充タサレ貯藏場トシテハ不適當ナ

ルヲ以テ乾物ニ若シ鹽分ヲ含バ忽チ水分ヲ吸收シテ微ヲ生ジ腐敗速カナラシムルノ憂アリ是レ只海參ノミナラズ清國輸出乾燥物ニハ殊ニ注意ヲ要ス宮城縣産ハ形體ハ小ナルモ疣立細密ニシテ良品ナリ從來此三縣海參ハ乾鮑ト同一ニ夙ニ貿易市場ノ立物ニシテ南部産ト稱シ價額ノ標準物ナリ然ルニ一時酷捕濫獲ノ結果殆ンド族滅ニ垂ントシ是等ノ製品ハ跡ヲ市場ニ絶タントセシガ近年當業者モ蕃殖保護ノ念ヲ起シ昨今共進會等ノ出品モ亦漸ク多キヲ加ヘタリ今日ト雖モ尙ホ市場ニ上ルモノニシテ往々一個一匁以下ノモノアリ只ダ目前ノ小利ノミニ役々トシテ國産ノ衰滅ヲ顧ミザルガ如キ寔ニ痛嘆ニ堪ヘザルトコロナリ今日以後ハ官民一致シテ採捕ニ禁止制限ヲ設ケ嚴酷ニ取締リ禁ヲ胃スモノハ毫モ假借スルトコロナク處罰スベシ

奥羽地方ノ鱈漁業ハ近年遠洋ニ近海ニ適當ノ設備ヲナシテ經營セシモ鱈ノ産額ハ豫想ノ如ク増加セズ又多クハねずみ敵ニシテ品位ハ中等ニ屬スルモ一層奮發セバ産額ハ必ズ増進スベシ本會ノ如キモ點數ノ少キノミナラズ裁切ノ拙劣ト鱈ノ洗滌不充分ナルヲ以テ色澤鮮カナラズ實ニ看ルベキモノナシ他ノ製品ニ比シ此地方ノ鱈ハ殊ニ改良ヲ要ス鱈漁業ノ發達ト共ニ鱈ノ製造ニモ注意セザレバ其効ナカルベシ田作ハ從來此聯合縣内ニテハ産出極メテ少シ是ガ材料ハ豊富ナリシモ多クハ肥料ニ供セラレシガ本會ニハ此種ノ出品頗ル多數ナリ殊ニ青森、岩手、宮城三縣ノ出品ハ品格能ク一定シ内外ノ需要ニ適スル佳品ナリハ粘ニ供セシモノヲ一變シテ輸出品トナスニ至リシハ時勢ノ然ラシムルトコロニシテ近來

ノ進歩ト云フベシ以後ハ煮干鰻モ加ヘテ出品スルノ覺悟スベシ

第三十五類

本類ノ種目ハ鰹節、鮪節ニシテ福島縣ノ出品最モ多ク次ハ岩手縣、宮城縣ニシテ青森縣之ニ次グ福島縣ノ節ハ範ヲ靜岡縣燒津ノ型ニ取り風格略ホ齊一シ就中石城郡江名村ハ改良ノ趣旨一般ニ貫徹シ品位ニ格別ノ等差ナク眞ニ改良ノ實ヲ擧グルモノト云フベシ

岩手縣ノ鰹節ハ全ク改良ノ域ニ達セザレバ尙一層ノ奮勵ヲ要ス鮪節ニ至ツテハ多數ノ出品殆ンド品格一定シ全般ニ製造技術ノ熟達セシヲ徵スルニ足ルモノアリ此際鰹節モ鮪節ト同一ノ効果ヲ收メテ大成ヲ期スベシ

宮城縣ノ節ハ夙ニ改良ノ端ヲ啓キシモ或ハ土佐系ニ投合シ又ハ伊豆系ニ附和シ動モスレバ房州型ニ款ヲ送ル等其系統一ナラズ元來改良ノ目的ハ製品ノ齊一ニアレバ改良着手ノ初メニ何レノ系統ニ因ルカヲ選定シテ其系統ヲ全般ニ普及セシムルニアリ系統が一ナラザレバ縱令改良スルト雖モ其縣特有ノ製品ト稱スルニ至ラザレバ改良ノ効モ亦少シ岩手縣ノ如キモ初メヨリ燒津系統ヲ模範トシテ燒津地方ヨリ指導者ヲ聘シテ數年間一致一系ノ下ニ鼓舞獎勵セシヲ以テ今日ノ結果ヲ看ルニ至レリ宮城縣ノ出品ニ一二ノ良品アリシモ概シテ歩調齊一ナラザルトコロアリテ功ヲ一篋ニ缺クノ感アリ

青森縣ノ鰹漁ハ近年著シク發達シ八戸郡ノ沿革ハ殊ニ鰹漁船モ多シ然レドモ節ノ製造ハ未ダ幼稚ニシ

テ本會出品ノ如キモノニノ良品アルモ概シテ品位ノ等差甚ダシ殊ニ此地方ノ鯉ハ肉軟ク脂肪多ク節製
造ニハ最モ困難ナレバ脂肪ヲ適度ニ去ルト云フコトハ製造上最モ注意ヲ要ス燒津系統ニ依テ改良スル
方適當ナラン幼稚ノ時代ニ方針ヲ一定シテ普及セシメ青森節ノ名聲ヲ將來ニ博取スベキ覺悟ヲ要ス

第三十六類

本類ノ種目ハ昆布石花菜惠胡海苔ニシテ昆布ハ岩手、青森二縣ノ沿岸ニハ生殖セシモ從來出品トシテ
ハ甚ダ少シ本會ニハ岩手縣ノ出品殊ニ多ク一種ノ花折仕立アリ長切風ノ仕立アリテ概シテ北海道ノ本
場ニ比スレバ品格ハ劣ルモ細工昆布刻昆布ノ材料トシテハ適當ナリ是等ノ出品ガ俄カニ増加セシハ近
年需要ノ増加ニ促サレ餘力ヲ利用シテ採收ヲ勉ムルニ因ルモノナラン石花菜ハ奥羽産ハ伊豆産ニ比ス
レバ品質ハ劣ルモ近年寒天ノ輸出増加スルニ隨ヒ原料ノ需要ハ倍々急ナルヲ以テ之ニ應ズル供給ヲ謀
ラザルベカラズ青森、岩手ノ二縣モ亦タ寒天ノ製造ヲ開始スルニ至リ採收者ノ増加ト共ニ採收量モ亦
増進セリ青森縣下北郡ノ産ハ品質稍ヤ良好ナリ概シテ此地方ノ産ハ洗滌乾燥ニ注意スベシ
惠胡ハ山形縣飛鳥青森縣北津輕郡小泊ノ如キハ產地ニシテ品質モ亦佳良ナリ
寒天製造ニハ石花菜ト共ニ混用スルヲ以テ將來是等ノ採收ニハ大ニ勉ムベシ
海苔ハ奥羽地方ニテハ宮城縣本吉郡氣仙沼ハ從來ノ產地ニシテ此他ノ縣ニハ稀ニ看ルトコロナリシ
モ本會ニハ秋田縣ヲ除キ他ノ縣ニモ多少ノ出品アリ然レドモ宮城縣ノ出品ハ多數ナルノミナラズ品質

製造比較的良好ナリ只ダ惜ムラクハ奥羽地方ノ海苔ハ氣候水質等ノ關係上概シテ香味ニ乏シキ感アリ
然レドモ産出區域ノ漸次擴張スルハ需要増加ノ情勢ニ促サレシモノナラン只ダ倒ミヲ注意シテ少シク
厚漉キトシ十二月下旬頃ニ東京ニ出セバ必ズ新年ノ菘直トシテ需要多カルベシ又貯藏品トスルニハ海
苔ノ稍ヤ成長シタルモノヲ厚漉キトシテ焙爐ニテ能ク乾燥シ罐詰トシテ密封スルヲ要ス如何ナル良品
ノ海苔ト雖香味ヲ失フモノナリ海苔ハ乾燥貯藏ニ最モ注意スベシ

第三十七類

本類ノ種目ハ魚粕、食鹽、寒天ニシテ鯉ハ從來三陸産ト稱シ宮城、岩手、青森ノ三縣ヨリ産出スル
モノハ良品トシテ名聲東京深川肥料市場ニ噴々タリシガ近年鯉不漁ノ爲メ昨今ノ市場ニハ寂寞タリ然
ルニ昨年ハ適々鯉ノ豐漁ナリシヲ以テ本會ノ鯉粕出品ハ殊ニ多ク出品ノ大半ハ中羽赤粕ニシテ三陸本
場産トシテ舊時ノ盛況ヲ追想スルニ足ル小脊黒鯉ハ近年田作煮干類ノ發達セシヲ以テ多ク是等ノ材料
ニ供セラレ此種ノ粕ハ比較的少數ナリ粕ニ供セシモノガ食品ノ材料ト變ゼシハ此地方ニ於ケル水産業
ノ進歩ヲ徴スルニ足ルベシ

食鹽ノ產地トシテ此聯合縣内ニテ鹽田面積ノ大ナルモノハ宮城縣牡鹿郡渡ノ波ニシテ出品モ亦多シ此
他ノ縣ニモ一二點ノ出品アリ概シテ本會出品ノ食鹽ハ水分ガ比較的多シ水分ノ多キハ貯藏上ニ甚ダ不
利ナリ採鹽ノ時充分水分ヲ滴下セシメテ完全ノ製品トナスベシ福島縣小名濱町鈴木藤三郎ノ出品ハ機

械的製鹽裝置ヲナシ食鹽モ亦良好ナリ專賣ノ結果食鹽ノ品質ハ多少改善セルモノ、如シ
 寒天ハ從來奧羽地方ニテ產出セザリシガ近年青森縣ニ於テ之レガ製造ヲ開始シ漸次擴張シ福島岩手ノ
 二縣モ之レニ亞デ創始シ本會ノ出品ヲ看ルニ青森縣ノ出品ハ全體ヨリ觀察スレバ品位ノ等差甚ダシク
 未ダ製法ノ全般ニ至ラザルトコロアリ福島縣ノ出品モ一點ノ精品アリ他ハ品位劣レリ岩手縣ノ出品ハ
 中等ノ製品ナリ奧羽地方ノ寒天ハ製造尙ホ幼稚時代ニアレバ此際製造者ノ良習慣ヲ養成シテ時勢ニ陷
 ラヌヤウ奨誘スベシ

第二十八類

本類ノ種目ハ鹽藏及醃藏物ニシテ出品極メテ雜駁ナリ元來奧羽地方ニハ斯ル製造ニ該當スル魚類ニ乏
 シク隨テ製造セント欲セバ鹽鮭鹽鮭鱒鹽鱒ニ過ギズ是等モ近年交通機關ノ發達ト一ツハ鮮魚ノ需要増加
 セシヲ以テ鹽藏トシテ得失償ハザルベシ本會ノ出品モ纔カニ鮭ノ燻製ト鮭鹽引ノ一二點アリ他ハ舉ゲ
 テ評スルノ價值ナシ

第三區第三十一類

奧羽地方ノ罐詰業ハ何レモ小規模ニシテ機械ノ完備セシ工場ヲ有スルモノナク多クハ副業ニ過ギズ是
 レ以テ從來此地方ノ製品ニシテ罐詰市場ニ聲價ヲ得タルモノモ亦タ少シ概シテ幼稚ノ境界ヲ脱セザル
 ノ状態ナリ只ダ鮑水煮ハ品質ノ優良ナルト又タ比較的產額モ大ナルヲ以テ清國輸出品トシテ近年頭角

ヲ顯ハセリ製造方法モ亦タ他ノ罐詰ニ比シテ進歩セリ奧羽ノ罐詰業ハ今日大ニ改良ヲ施スベキ時期ニ
 シテ最先ニ工場ノ設備ヲ整理スルニ在リ工場全備セザレバ目下ノ技術者ト雖到底良品ヲ製出スルコト
 能ハザルベシ畢竟奧羽地方罐詰業ノ振興セザルハ技術ノ拙劣ニ歸セズシテ寧ロ工場ノ不備ニ歸ス當業
 者ハ宜シク現今ト將來ヲ考ヘ内地ハ勿論販路ヲ海外ニ向フテ伸張スルコトヲ勵ムベシ左ニ本會出品ノ
 罐詰ニ關スル審査評語ヲ掲グ

本類ノ罐詰ハ魚貝鳥獸肉果實蔬菜ノ類ニシテ頗ル雜駁ナリ調味法ハ醬油味付水煮砂糖漬粕漬等ニシテ
 最モ良品トシテ看ルベキモノハ鮑水煮罐詰ナリ福島宮城岩手青森四縣ノ産ハ罐詰ニ恰好ノ品質ニシテ
 概シテ非難ノ少ナキ罐詰ナリ殊ニ岩手縣ノ鮑ハ形體色澤液汁等モ佳ナリ北寄貝ノ罐詰一二點アリ貝類
 中罐詰トシテ此種ハ最モ適セルヲ以テ將來有望ノ罐詰原料ナラン鰹鮭醬油味付、或ハ水煮罐詰モ多少
 ノ出品アリシガ概シテ切方不適當ナルト内容量ノ少ナキハ遺憾トスルトコロナリ小鳥ノ照燻ハ山形福
 島其他ノ縣ヨリ出品アリ概シテ調理宜シキヲ以テ形容味共ニ佳良ニシテ其儘食膳ニ供スルモノナリ又
 タ罐ヨリ取出シテ更ニ調味ヲ加フレバ口取物ノ取合セニモ適セリ秋田縣ヨリ公魚鱒鮒ノ佃煮罐詰ノ出
 品アリ公魚鱒ハ秋田地方ニ多産スルヲ以テ内容量ヲ一定シ尙ホ醬油ヲ選擇セバ需要モ必ズ増進スベシ
 奧羽地方ノ醬油味付罐詰ニ對シテ一言センカ此地方ノ醬油ハ多ク未熟ニシテ諸味臭キ傾アルト食鹽ノ
 關係上往々苦味ヲ含ムモノアリ之ヲ罐詰ノ調味用ニ供スレバ原料ニ關セズ不味ニ陷ラシムルノ憂アリ

罐詰ノ調味用トシテハ醬油ノ選擇ハ殊ニ必要ナリ

果實ノ砂糖漬ハ最モ多數ノ出品アリ楓棹、梨、林檎、かりん、桃等ニシテ楓棹、梨、かりんハ殊ニ多數ノ出品アリ罐詰原料ノ種類トシテハ適當ナルモ往々酸味ノ強キモノアリ或ハ全ク無味ナルモノアリ是等ハ採收期ノ適度ヲ得ザルニ基クモノニシテ葉實ヲ罐詰トナスニハ第一果物成熟ノ度ヲ計リテ採收シ未熟ト過熟ノモノヲ混合スベカラズ若シ之ヲ混合スルニ於テハ過熟ノモノハ罐内ニテ崩壞シ殆ンド其形容ヲ失フ未熟ノモノハ形容ハ完存スルモ肉堅ク且ツ酸味甚ダシク爲メニ罐詰ノ果物ヲ不味ニ歸セシムルモノナリ殊ニ奥羽地方ノ果物罐詰ニ關シテ常ニ遺憾トスルトコロハ概シテ砂糖液稀薄ニシテ罐詰果物ノ趣味ヲ失ハントセリ或ル罐詰果物ノ如キハ酸味強クシテ匙箸ニ掛クルニ堪ヘザルモノアリ又糖液稀薄ノ爲メ果物ノ味ヲ全フセザルモノアリ(俗ニ云フ)如斯キ罐詰ニテハ廣ク販路ヲ求ムルコト能ハズ纒カ一地方ノ需要ニ過ギザルベシ

蔬菜ノ罐詰トシテハ松茸最モ多シ奥羽地方ノ松茸ハ關西地方ノ産ニ比スレバ概シテ香味ニ乏シキ感アリ本會出品ノ松茸ハ罐詰ノ原料トシテ少シ成長期ノ過ギタルモノ多シ罐詰材料トシテハ纒カニ地上ニ舊出スル稗小ノモノヲ適當トス成長期ヲ計テ採收スルハ最モ必要ノコトナリ此他粕漬ノ如キモノアリシモ奇零ノ出品ニシテ舉ゲテ評スルノ價值ナシ
左ニ出品人員縣別表ヲ掲グ

出品點數及人員合計表

	點	數	人	員
宮城縣		三五		一二
福島縣		九		六
岩手縣		三四		一六
青森縣		三三		一〇
秋田縣		三六		一六
山形縣		四九		二二
合計		一九六		八二

漁船漁具審査報告

審査官 山 脇 宗 次

本類ニ屬スル出品ハ漁船及網具、釣具ノ外釣鉤、網地細絲及副漁具ヲ含ミ其出品人員五十一名出品點數二百四十點ナリトス今之ヲ左ニ類別報告スベシ

一、漁船

漁船漁具審査報告

縣別	出品點數	授賞數				出品人員
		一等	二等	三等	四等	
宮城縣	三					三
岩手縣	三					二
計	六					五

漁船ノ出品ハ以上示スガ如ク其點數僅カニ六點トス然レドモ内西洋形帆船四點ヲ占メタルハ從來嘗テ見ザル所ノ現象ニシテ宮城岩手兩縣當業者ガ如何ニ漁船改良ニ熱中セルカヲ知ルニ足ルベク又事實ニ於テモ右兩縣ガ此種ノ漁船數ニ於テ全國ニ冠タルヲ見ル想フニ右兩縣ハ夙ニ外國臘謁獸獵船ノ刺激ヲ受ケ該獵業ニ從事スルモノ多カリシト一ハ天然ノ地勢陸上ノ交通不便ニシテ運輸往來ハ海路ニ依ルコト多ク殊ニ沿岸良港灣ニ富メルヲ以テ從來西洋形帆船ヲ有スルモノ多ク從テ帆船ヲ操縦スベキ海員ニ乏シカラザルヲ以テ一般漁業ノ狀態西南地方ニ比較シ不進歩ノ狀態ニアルニ拘ハラズ時勢ノ變遷ニ依リ一躍漁業ニ西洋形船ヲ用フルニ到リタルモノナルベシ而シテ明治三十三四年頃ニアリテハ普通ノ運搬船ヲ冬期ノ目技鱈漁業ニ一時利用スルニ留マリシガ如此姑息ノ方法ヲ以テシテハ到底充分ノ目的ヲ達シ得ザルヲ悟リ三十九年頃ヨリ漁業專用船ヲ製造スルニ至リ四十年ニ至リ俄然其數ヲ増加スルニ至レリ精確ナル統計ノ徵スベキモノナキヲ以テ其數ヲ詳知スルヲ得ザルモ四十年十月ノ調査ニ依レバ宮

城、岩手兩縣ニ於テ漁業ニ使用セル帆船ハ既成ノモノ及製造中ノモノヲ合セバ約五十艘ニ及ベリ此等漁船ノ多クハ總噸數二十噸未滿ノモノ即チ所謂不登簿船ニシテ夏期ノ鱈漁業冬期ノ鱈目拔漁業ニ使用スルモノタリ今ヤ本邦漁業ハ沿岸ヨリ遠洋ニ推移發展セザルベカラザル必要ニ迫ラレ且ツ政府ニ於テモ夙ニ遠洋漁業獎勵法ヲ制定シ極力之ガ獎勵ニ努メツ、アリ而シテ遠洋漁業ヲ發展セシメンニハ其第一義トシテ漁船ノ改良ヲ要ス而モ日本形漁船ハ根本的ノ形狀構造ニ於テ遠洋漁船タルニ適セズ頻年日本形漁船ガ難破覆没ノ厄ニ際會スルモノ多キヲ以テ日本形漁船改良ノ聲到ル處ニ喧シト雖モ日本形漁船ハ如何ニ考案ヲ回ラスモ終ニ局部局所ノ改良ニ留マリ根本的ニ其弊ヲ絶ツヲ得ザルベシ故ニ遠洋漁船トシテハ西洋形船ヲ採用スルノ必要ヲ見ル然レドモ西洋形船ト雖モ適當ニ設計構造セラレタルモノニ在ラザレバ漁業上並ニ航海上不便ニシテ危險アルハ勿論ノコトタリ凡ソ遠洋ニ出漁スル船舶ハ暴風怒濤ニ遭遇スルコト屢々ナルベキハ數ノ免カレザル所ナルヲ以テ其設計構造ハ特ニ注意ヲ要ス然ルニ當業者ノ多クハ尙ホ舊慣ヲ脱セズ極メテ淺吃水ノモノヲ設計シ又適當ニ經費ヲ節約スルノ結果頗ル粗弱ノモノヲ建造スルハ甚ダ憂フベキ現象ニシテ如斯ハ假令其形ヲ西洋形船トナスモ其危險ハ日本形漁船ト選ム所ナキニ終ルベシ今岩手地方ニ於テ製造セル漁船ニ就キ四十年十月調査セル農商務省囑託員春日信市氏ノ報告ニ徵シ其構造上ノ缺點一二ヲ指摘セバ左ノ如シ

(一)不登簿船(總噸數二十噸未滿)ヲ檢スルニ其中八九ハ梁ト肋骨トノ配置不可ニシテ船體中三四ヶ

所ヲ除キ甲板梁ハ肋骨ト同位置ニアラズ從テ梁ト肋骨トノ接合
ナク唯梁ハ比較的弱キ梁受板ノ上ニ乘リ徑八分ノ三吋位ノ鐵打
込ミ釘一本ヲ以テ固着スルノミ

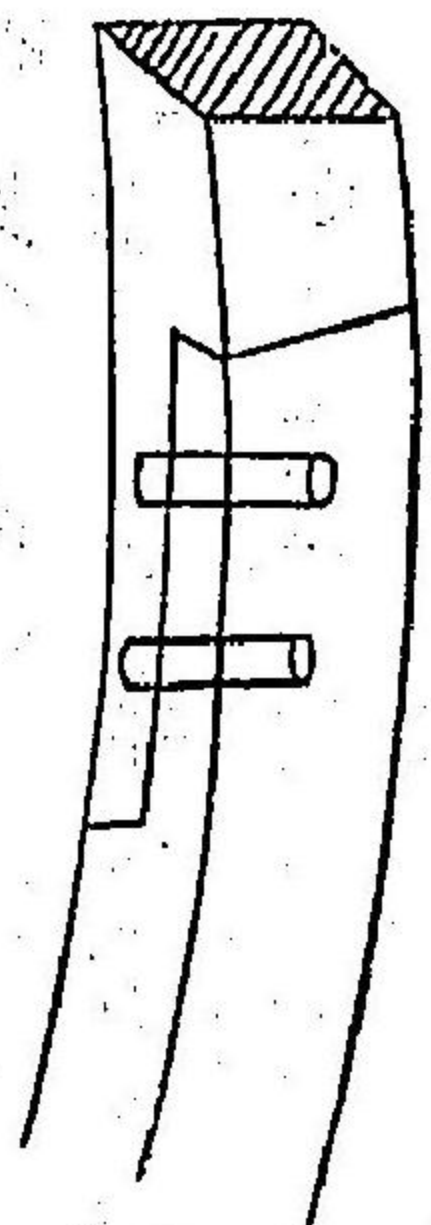
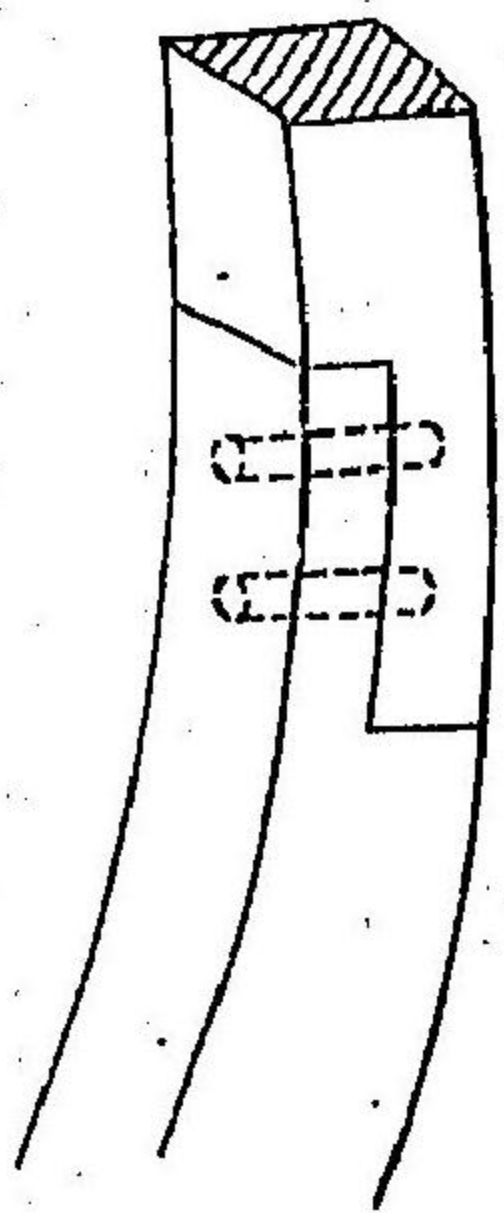
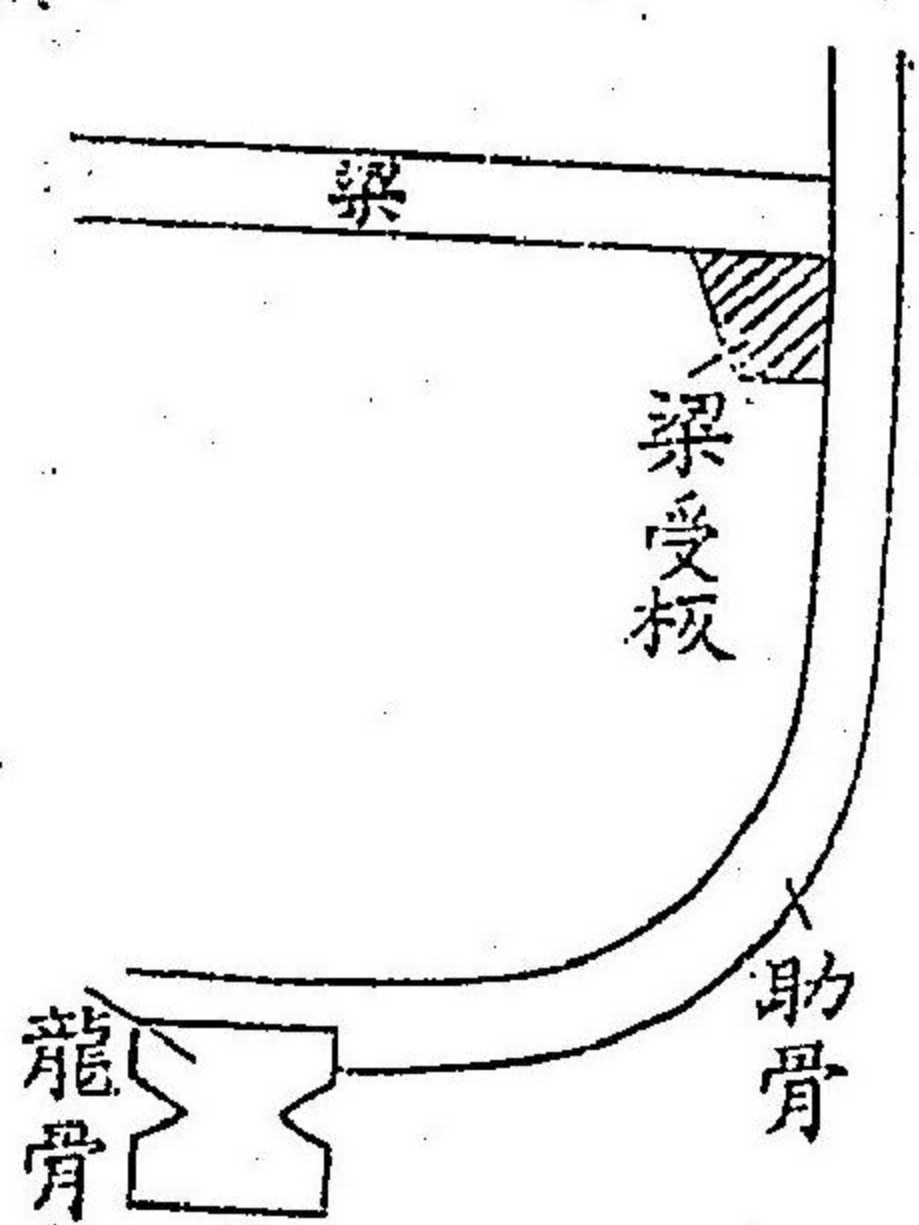
(註) 右ノ如クシテハ該部ニ於ケル強力非常ニ薄弱ナレバ梁ハ
肋骨一本置ニ於テ肋骨上ニ置キ木船検査規定ノ定ムル所ニ隨
ヒ適當ニ敲釘ヲ以テ該部ヲ緊着セザルベカラズ

(二) 某船ノ肋骨ノ接合ハホリゾントタルスカーフトシ徑八分ノ五
吋櫓木栓二本ヲ以テ固着ス

(註) 木栓二本ニテハ肋骨ノ他ノ部ヨリ接手ノ部分非常ニ薄
弱ナレバ少クトモ二本以上タラザルベカラズ

(三) 某船ノ肋骨ノ接合ハ縦ノスカーフト爲シ徑八分ノ二吋ノ鐵
打込釘二本ヲ以テ固着ス

(註) 肋骨ノ受ケル重ナル迫力ハ横ナレバ縦ノスカーフトヲ採
用スルトキハ是非共添材ヲ附セザレバ該部ノ迫力ニ堪ユル
能ハズ且ツ打込釘ノ代リニ一本ノ敲釘ヲ使用スルヲ可トス



(四) 某船ノ低船尾樓ト重甲板トノ接合部ニ於ケル諸縦通材ハ少シノ延長モナク總テ其場ニ於テ切り放
シトナレリ

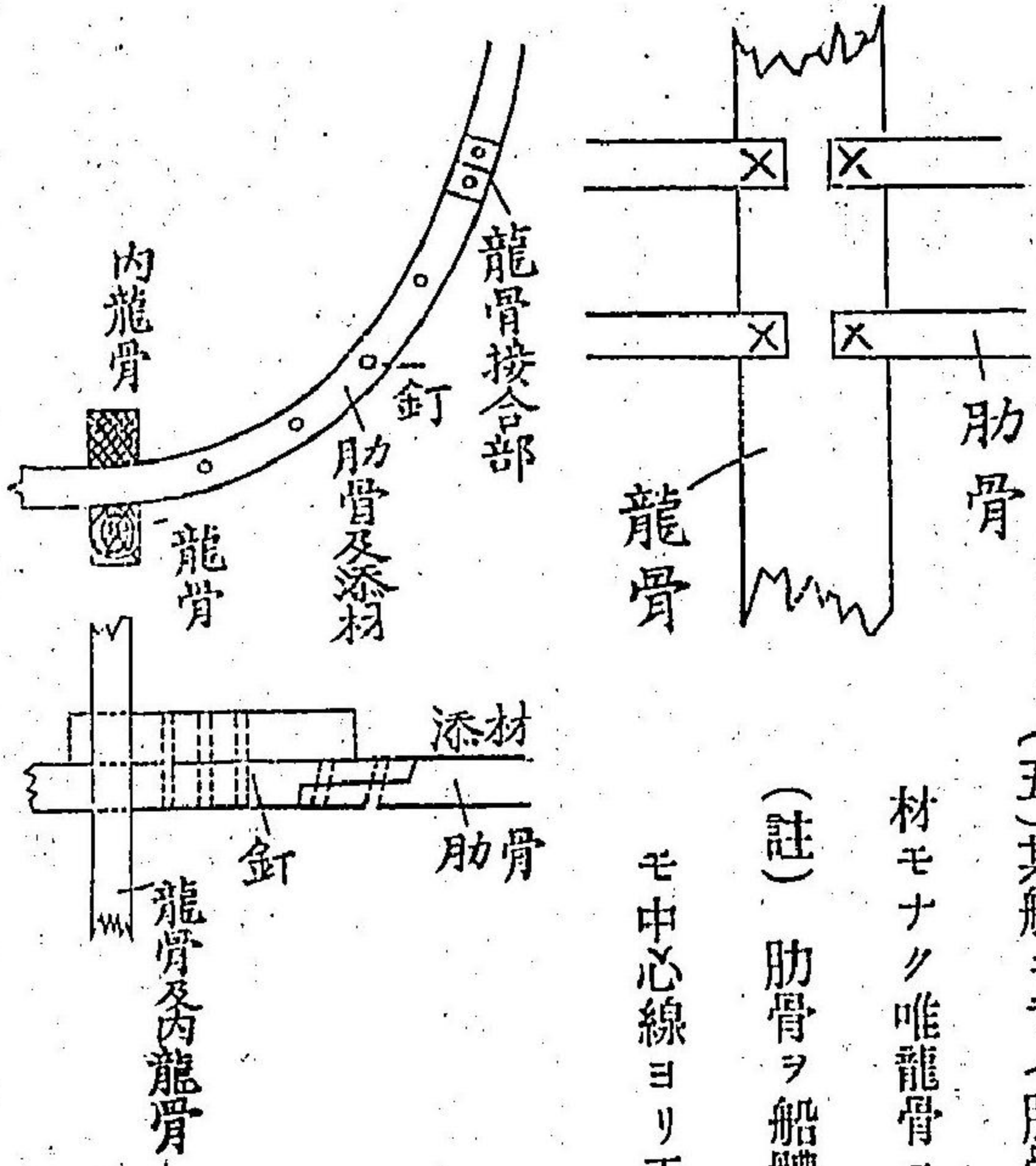
(註) 構造上急激ナル材料ノ變化ハ其部ニ非常ニ多クノ迫力ヲ來スヲ以テ諸縦通材ハ検査規程ノ定
ムルガ如ク少クトモニ肋骨心巨以上延長セザルベカラズ

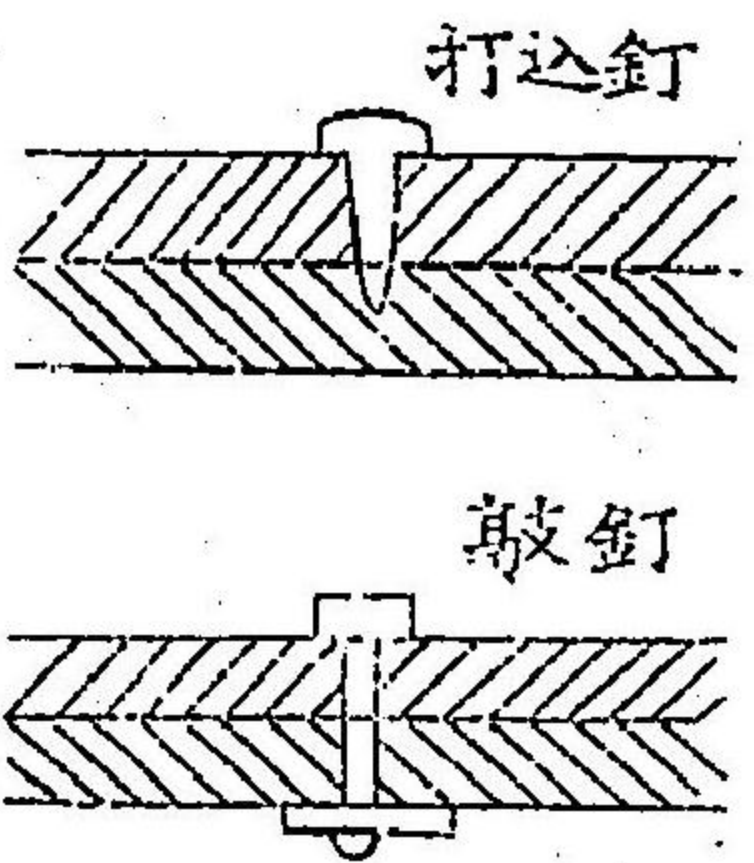
(五) 某船ニテハ肋骨ノ大部分ハ總テ船體中心線上ニテ衝接ト爲シ添
材モナク唯龍骨ニ一本ノ鐵打込釘ヲ以テ固着スルノミ

(註) 肋骨ヲ船體中心線ニテ接合スルハ強力上不可ナレバ少クト
モ中心線ヨリ五寸以上延べザルベカラズ

(六) 某船ニテハ上圖ノ如キ肋骨ノ接合ヲ爲セ
リ此添材ハ何等ノ意味ナシ

(註) 添材トハ衝接兩材ニ跨テ始メテ其効
果ヲ有スルモノナリ





(七) 船大工ノ或ル者ハ打込釘ハ敲釘ヨリモ木材中ニアリテ其錆具合ヨク接合ノ効果反テ大ナリト語レリ

(註) 塗水留^{アカ}ト強力トヲ誤解シタルモノニシテ錆付キタルハ反テ強力ヲ減退ス

(八) 其他外板及甲板ノ接續破目並ニ節重要材料ニ埋木ヲ使用シタル諸接合部固着ニ於ケル釘ノ不足ナル等枚舉ニ暇アラズ

以上ハ唯構造上二三ノ缺點ヲ指摘スルニ留マルト雖モ此一斑ヲ以テ全體ノ構造如何モ想像シ得ベク如斯シテ建造セラレタル船ガ如何ニ粗弱ノモノタルカヲ知ルニ足ル可シ之レ固ヨリ船主ノミノ罪ニ歸スベカラズ造船者ガ技能ニ乏シキニ因ルコトモ亦大ナル原因ナリト信ズ

尙ホ茲ニ注意スベキハ其船舶ノ重要寸法ナリ之ニ就キ前示春日囑託員ノ報告ニ依ルニ前記小形帆船ノ總テハ検査規程ニ所謂適當比例ニシテ長深ノ比十倍以上甚ダシキハ十三倍ニ達スルモノアリト云フ當業者ガ何故ニ斯ル淺吃水ノ船舶ヲ建造スルヤ思フニ其多クハ從來ノ日本形船製造ノ慣習ニ依ルモノナルベク且無風ノ時ニ際シ艦ヲ用フル場合ニ深吃水ノモノヨリ有効ナリト云フニアルベシ然レドモ既ニ船舶ヲ西洋形ト爲ス以上ハ之ニ艦ヲ用ヒントスルガ如キハ其思想ニ於テ根本的誤謬アリ又假令艦ヲ用フル必要アリトスルモ之ヲ用ヒテ其効力幾干アルベキヤ又假令効力アリトスルモ淺吃水ノモノト深

吃水ノモノト幾干ノ差アルベキヤ予ハ之ニ因リ生ズル差ノ極メテ些少ニシテ船舶進行ノ遲速ハ寧ロ浸水部ノ形状ニ依ルモノナルヲ信ゼント欲ス殊ニ帆船ニ艦ヲ用フル場合ノ如キハ甚ダ少ナカルベキニ於テヤ如カズ當業者ハ此ノ些少ナル効力ニ對シテ云爲センヨリハ危険ニ向テ注意ヲ拂ハンコトヲ切望シテ止マザルナリ

過當ニ淺吃水ノ船舶ハ船體強力上不安ナルノミナラズ又甚ダ危険ナルヲ免カレズ左ニ參考ノ爲船舶ノ轉覆ニ就キ簡單ニ其理由ヲ説明セントス

今圖ニ示セルガ如キ甲乙ナル船幅並ニ總重量ヲ同フセルニ隻ノ船ニ就テ考ヘンニ船ヲ起サントスル力即復元力 GZ (三圖)ハ全ク G_m ニ依テ變化スルモノニシテ此ノ G_m ヲバ(メタセンター)ノ高ト云フ而シテ船ノ形状並ニ「バラスト」ノ位置ニ依リテ其高サヲ異ニスルモ同一ノ船ニアリテハ船ノ傾斜ニ對シテハ變化ナキモノト認メテ差支ナシ

$$GM = BM = BG$$

$$B_m = KB = D$$

K = 係數

B = 船幅

D = 排水量

然ルニ甲乙船ハ假定ノ如ク船幅及排水量容積ハ同一ナルヲ以テ B_m ハ甲船及乙船共ニ等シ故ニ兩者ノ G_m ノ差ハ全ク B 及 G ノ位置ニ依ルベシ而シテ大ナル G_m 從テ大ナル復元力ヲ得ントセバ此場合ニ於テハ B 即チ浮力中心ヲ上ゲ G 即チ船ノ重心點ヲ下ゲザルベカラズ

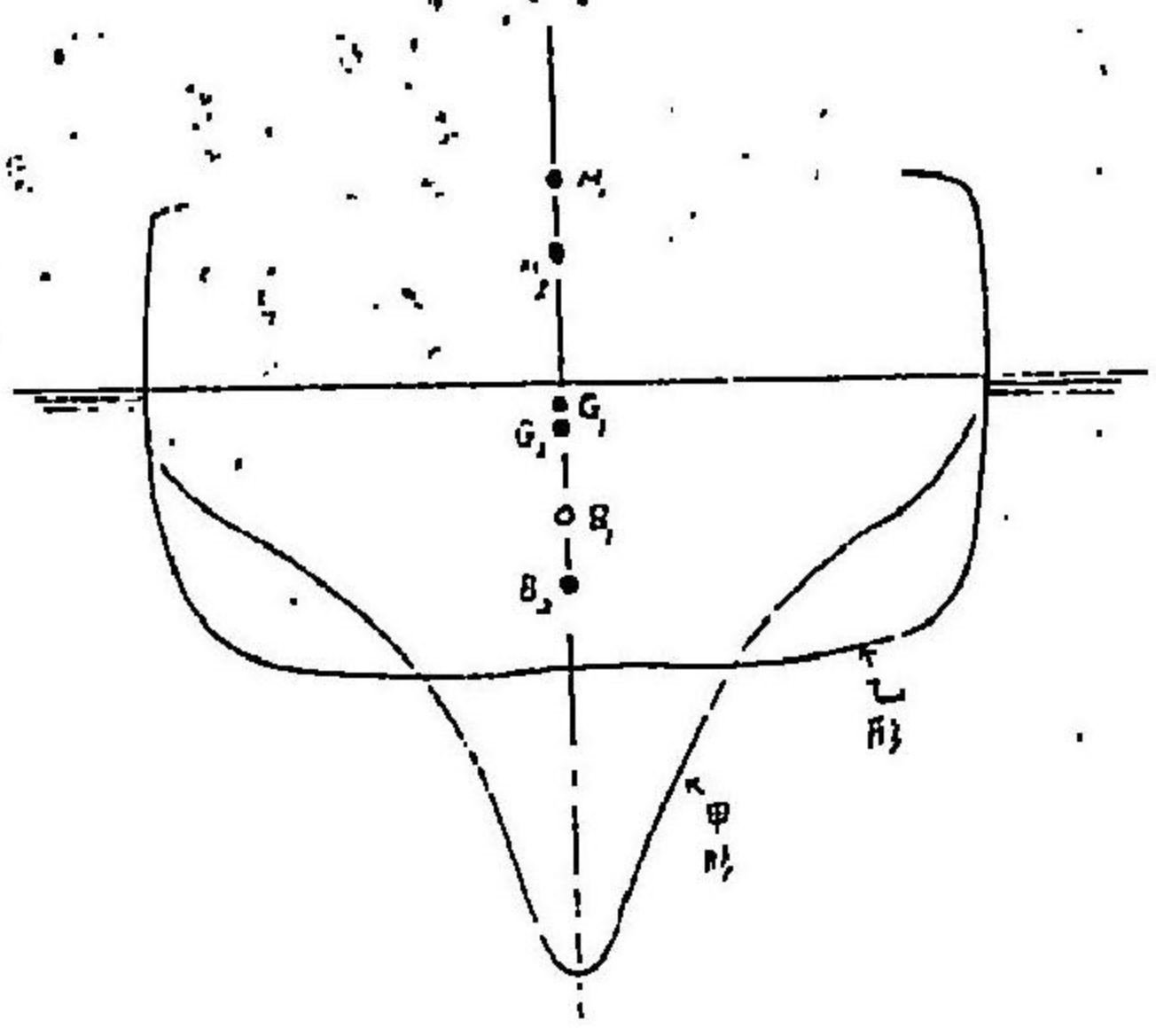
第一圖ニ示スガ如ク「バラスト」ヲ積マザルトキハ一般ニ G ハ B 上ニアリテ甲形ハ乙形ヨリモ反テ G_m ノ高サ少ク不足ナルベシ但シ此場合ニ於テハ甲及乙船共ニ第二圖ノ場合ニ比シ G_m 從テ復元力(GZ)ハ少ナシ

第二圖ニ示スガ如ク船ガ「バラスト」ヲ積ムトキハ反對ニ G ハ B ノ下ニ來ル(尤モ「バラスト」ノ種類及重量ニ依ルモ兎ニ角「バラスト」ノナキモノニ比スレバ僅カク「バラスト」ヲ積ムモ尙ホ G ハ B ノ下ニ來ラントス)從テ此場合ニ於テハ甲形ハ乙形ヨリハ大ナル G_m 從テ復元力ヲ持チ得而シテ此等ノ比較ハ第四圖ニ依テ示スガ如シ

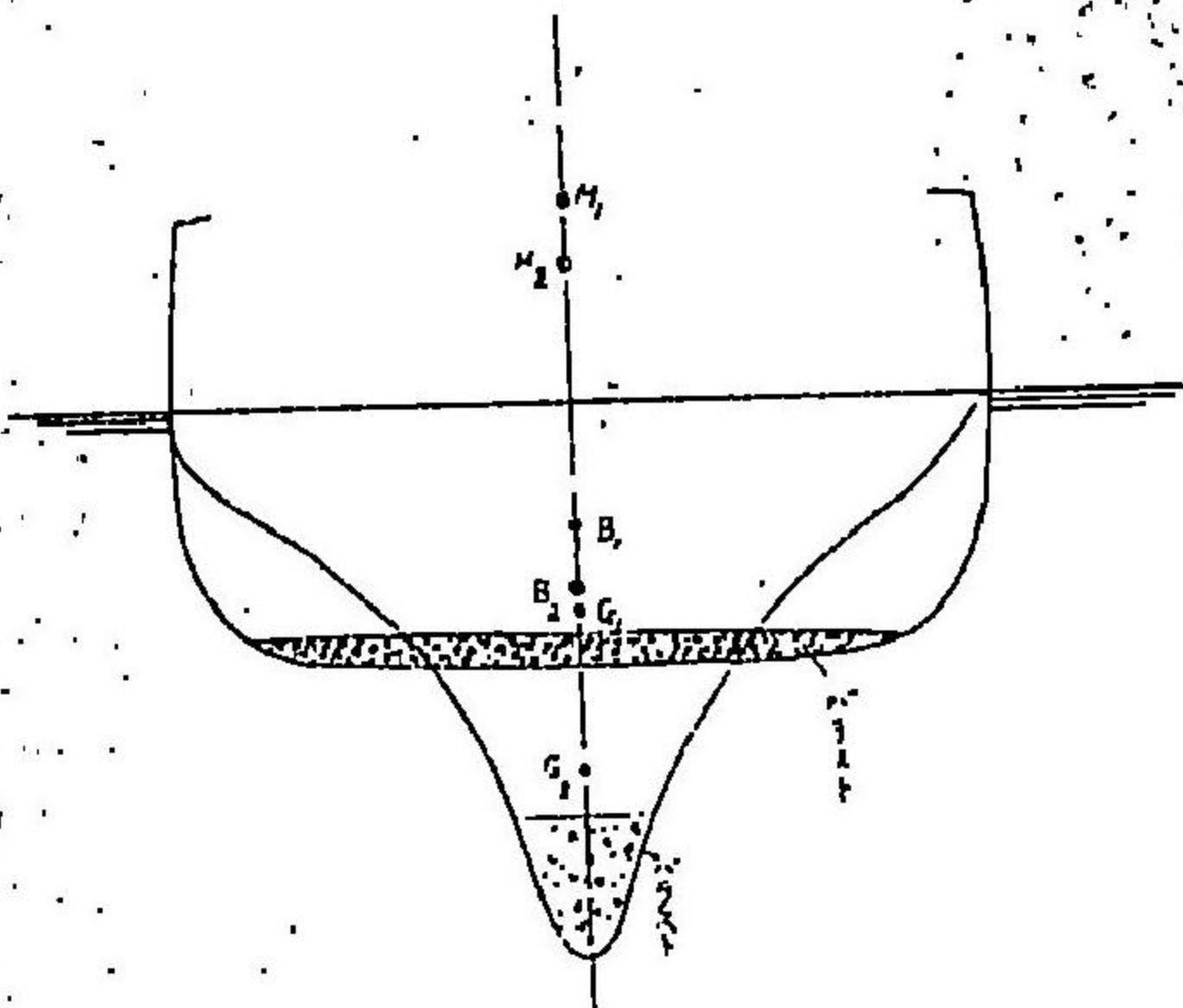
今回出品四點中上述ノ缺點ヲ有スルモノ二點ヲ見タルハ頗ル遺憾トスル所ナリ即岩手縣古館武兵衛出品第二八幡丸同大西平太郎出品熊野丸ノ如キ之レナリ
今右二隻ノ重要寸法ヲ示セバ左ノ如シ

第二八幡丸 熊野丸
長 四五呎五吋 四五呎五吋

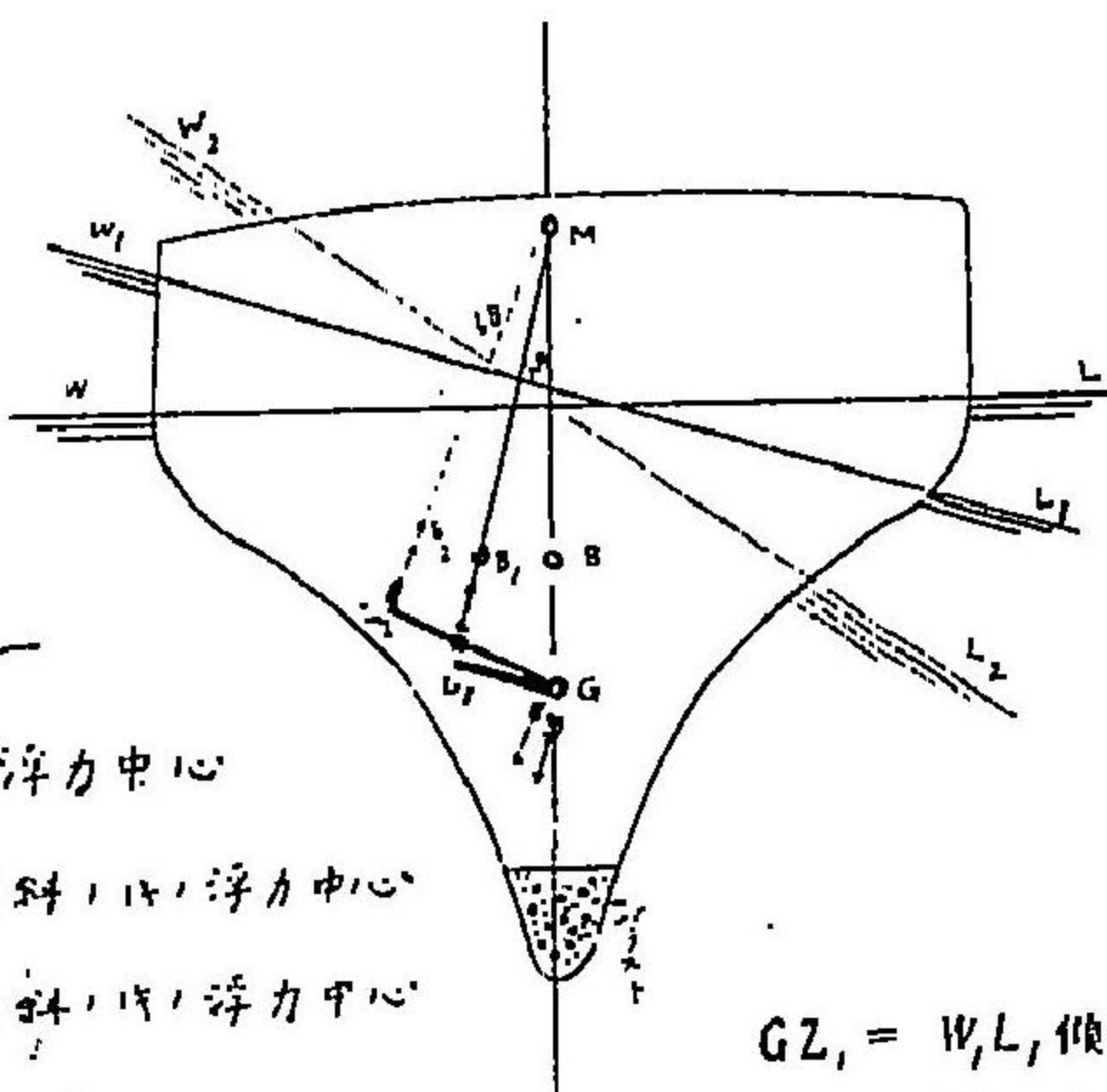
第一圖



第二圖



第三圖



M = ノクセンター

B = 静止バ、浮力中心

$B_1 = W_1 L_1$ 傾斜バ、浮力中心

$B_2 = W_2 L_2$ 傾斜バ、浮力中心

G = 船ノ重心

GM = ノクセンターノ高

$GZ_1 = W_1 L_1$ 傾斜對 M ノ復元力

$GZ_2 = W_2 L_2$ 傾斜對 M ノ復元力

第一圖ノノクセンターノ高
第二圖ノノクセンターノ高

幅 一四呎七吋二分ノ二

一四呎七吋二分ノ一

深 五呎二吋

四呎一吋

總噸數 一八噸

一八噸

右ノ外ノ二點即岩手縣古館武兵衛出品第三八幡丸及宮城縣白石廣造出品洪榮丸ハ設計構造共ニ稍良好ニシテ前者ハ遠洋漁船検査規程第二節及木船検査規程ニ合格シ後者ハ木船検査規程ニ合格スルモノナリ又白石廣造ノ添付書類ハ本船ノ設計仕様ヲ詳記セルノミナラズ艗脚獸獵業ニ關スル一切ノ事項ヲ網羅説明シタルハ當業者ノ參考ニ資スル所尠ナカラザルベシ

左ニ右ニ隻ニ付其重要寸法ヲ示ス

洪榮丸

第三八幡丸

長 八〇呎

五一呎

幅 二二呎

一五呎

深 九呎一二吋

六呎六吋

總噸數 一〇〇

二七噸五一

日本形漁船ハ其形狀構造等ニ於テ根本的缺點ヲ有スルヲ以テ如何ニ改造ヲ加フルモ到底遠海出漁ノ用ニ供スベカラザルハ前既ニ陳ベタル所ナリト雖ドモ沿岸使用ノモノトシテハ頗ル便利ナルヲ以テ日本

形船トシテノ特徴ヲ滅却セザル範圍ニ於テ改造ヲ加フルモ亦必要ノコトナリトス即チ肋骨及甲板ヲ設ケ又帆装ヲ西洋帆若ハ支那帆ニ改ムルガ如キ之ナリ今回ノ出品物ニ於テハ肋骨ヲ設ケ一ハ甲板ヲ張レリ然レドモ前者ノ肋骨ハ棚板ノ部分ニ止マリ左右互ニ連絡ヲ缺クヲ以テ船體強力上何等ノ利益アルナク却テ無用ノ材料ト勞費ヲ使用シ且船體ノ重サヲ増セルノミ又後者甲板ヲ張レルモノハ効力ノ認ムベキモノアルモ船首船尾ノ一小部分ニ止マルガ故ニ此等モ漁業上支障ナキ限リ多クノ部分ニ増設スベキナリ尙ホ茲ニ注意スベキハ本類出品物ノ如キ模型ヲ以テスルハ性質上止ムヲ得ズト雖ドモ今回ノ出品物ハ其製作頗ル粗製不正確ニシテ出品物トシテ價值ナキノミナラズ審査上頗ル遺憾アルヲ免ガレズ故ニ將來此種ノ出品ヲ爲スモノハ詳細ナル設計仕樣書及圖面ヲ以テシ若クハ之ヲ添付センコトヲ望ム終ニ望ミ一言スベキハ今回聯合ノ六縣中宮城、岩手ヲ除クノ外漁船ノ出品ナキノミナラズ西洋形船ノ如キハ事實ニ於テモ一隻ダモ之レアルヲ聞カズ之レ或ハ良好ノ港灣ヲ有セザルニモ因ルベシト雖ドモ又一ハ當業者ノ見聞狹ク且進取ノ氣象ニ乏シキニ職由セズンバアラズ今ヤ沖合漁業用船トシテ西洋形帆船又ハ之レニ石油發動機ヲ据付ケタルモノ續々各地ニ製造セラレ漁業上ノ面目ヲ一新セントスルトキニ當リ福島外三縣ニ於テハ未ダ其聲ダモ聞カサルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ去レバ宮城、岩手ノ如キハ益其發展ニ努ムベク他ノ四縣當業者ノ如キモ奮勵一番漁業界ノ大勢ニ鑑ミ敢テ他ニ後レザルコトヲ期スベキナリ

因云 本報告ヲ草スルニ當リ農商務省囑託員工學士春日信市氏ノ助力ヲ得タルコト少ナカラズ茲ニ記シテ謝意ヲ表ス

二、漁具

出品表

縣別	出品點數	授賞數				出品人員
		一等	二等	三等	四等	
宮城縣	一五				四	一三
岩手縣	一				四	一
秋田縣	七				四	七
福島縣	三				一	一
山形縣	一				九	一
計	二七				二二	二二

右ニ表示スル如ク漁具ノ出品ハ青森ヲ除キ他ノ聯合五縣ニ互ルト雖ドモ其ノ出品點數ハ僅カニ二十七點ナリトス而シテ刺網及延繩類ハ概ネ現品ニテ他ハ皆模型出品タリ模型ニテ示セルモノ、内宮城縣點大網筒伏網岩手縣角網等ハ最モヨク整頓シ觀者ヲシテ一目其性質ヲ瞭然タラシメタリ實物ヲ以テ出品セル刺網延繩類モ其構造概シテ良好ナルヲ認ム今出品物ノ二三ニ就テ其得失ヲ指摘セバ宮城縣縮卷網ノ如キ其用法ノ複雑ニシテ且ツ多人數ヲ要シ運用漁具トシテ頗ル不便ナリ宜シク他ノ巾着網類ニ則

漁船漁具審査報告

リ尚ホ一段ノ工夫ヲ要ス又筒伏網ノ如キモ如上ノ缺點アルノミナラズ使用區域ハ地勢ニ依リ局限セラ
 ル鰯ヲ捕獲スル目的ノ爲メニハ棒受網等ノ輕便ナルニ如カズ岩手縣角網ノ布設方法ヲ改メタルガ如キ
 宮城縣出品ノ網繩ノ鈎間ヲ狹クシ目拔繩ニ浮子沈子ヲ減少シテ使用ニ便シ又鮮刺網及山形鯉鱒建網ニ
 浮力ノ増加ヲ計リシ等ハ有益ナル改造トシテ目スベキカ凡ソ漁具ノ浮子沈子ハ其目的ヲ達シ得ル限リ
 ニ於テ最小限ヲ用フルハ經濟上竝ニ使用上最モ肝要ノコトタリ又目拔繩ノ如キ浮子ノ非常ニ破損スル
 モノニアリテハ硝子製ノ浮子ヲ用ヒンコトヲ望ム左ニ出品物ノ主ナルモノニ付解説スベシ

鮪大網 宮城縣阿部一郎出品

本網ハ其組織大ニシテ宮城縣下ニ於ケル重要漁具タリ左ニ其構造ヲ示ス

一 網

- 一 身網ノ結ビ方及編製方ハ第貳圖ニ記載ス
- 一 壹番圍垣網及横切り網ハ一丈目二十一掛百八十五尋ヲ百四十二尋ニ縮結ス
- 一 二番圍垣網ハ一丈目二十掛ヨリ岸ニ至ルニ隨ヒ其深サニ應ジテ掛ケ目ヲ減ジ百六十尋ノ網ヲ
 百二十尋ニ縮結ス
- 一 浮子筒
- 一 浮子筒ハ杉丸太材ヲ以テ製作シタル物ニシテ製材用ニナラザル節ノ多キ處ヲ用フ

一 杭筒	長サ 一丈五尺	徑 四尺五寸
一 沖ノ目筒	長 一丈五尺	同 五尺
一 中ノ口筒	同 二丈五尺	同 五尺
一 鍵ノ鼻筒	同 一丈二尺	同 四尺
一 鯨筒	同 一丈三尺	同 四尺
一 大尻手筒	同 一丈二尺	同 三尺
一 小崎鼻筒	同 九尺	同 三尺
一 貳番鼻筒	同 一丈	同 三尺
一 參番口筒	同 七尺	同 二尺五寸
一 重筒及尻筒	同 六尺	同 二尺
一 重筒及尻ニ 附スル竝筒	同 六尺	同 一尺八寸
一 前圍小崎筒	同 六尺	同 二尺乃至 一尺五寸
竝筒ハ沖方面ヘ大ナルモノヲ使用ス		四十九個
合計百二十二個		

碇籠及石重量

漁船漁具審査報告

一 碇リ籠ハ柴ヲ束ネテ輪環ヲ造リ網ヲ以テ米俵ノ小口ノ如ク編ミ此ノ中ニ岩石ヲ入レタルモノニシテ其ノ重量ハ筒ノ大小ニ依リ差異アリ左ニ各筒ニ付キ輪形ノ尺度及岩石ノ重量ヲ示ス
 杭筒沖ノ目筒中ノ口筒鯨筒及各鼻筒ハ大綱構造上重要ナルガ故如何ナル激浪ニテモ其位置ヲ變更セザラシメンガ爲メ其ノ碇ノ重量ハ他ノ碇ニ比シ大ナルモノヲ用フ

名	稱	輪環ノ直徑	輪縁ノ太サ	岩石ノ重量
一	杭筒碇	一丈四尺	四尺	四十石
一	沖ノ目筒碇	一丈五尺	五尺	六十石
一	中ノ口筒碇	一丈五尺	五尺	六十石
一	鯨ノ鼻筒碇	一丈二尺	三尺	二十五石
一	大尻手筒碇	一丈一尺	二尺五寸	二十石
一	貳番鼻筒碇	一丈一尺	二尺五寸	二十石
一	小崎鼻筒碇	一丈一尺	二尺五寸	二十石
一	重筒尻筒碇	一丈乃至九尺	二尺	八石
一	前圍用碇	八尺	一尺八寸	六石

外碇三十六枚
内碇二十四枚

合計二百二十七枚 岩石ノ石數一千百六十五石目

桁網及碇網

一 笠筒桁網ハ杭筒ヨリ「高ニコメ」筒ニ至ル三十尋ノ間ヲ徑三寸五分ノ太綱二本揃ヒニ用ヒ之ニ並ミ筒七枚ヲ付シ「高ニコメ」筒ヨリ「裏ニコメ」筒ノ間(重筒)ヲ同徑ノ綱四本揃ヒニシテ筒二十五枚ヲ附シ殊ニ浮力ヲ助ケシメンガ爲メ小唐竹中央ノ太サ周リ三尺長サ二十五尋即チ重筒ノ長サニ準ジテ束ネタル小核ト稱スルヲ捲キ付ク「裏ニコメ」筒ヨリ沖ノ目筒ニ至ル間三十尋ノ處ハ同徑ノ綱二本揃ヒニ用ヒ此ノ間ニ並筒七枚ヲ附ス全長八十五尋之レヲ笠筒桁ト稱ス
 杭筒ヨリ鯨筒ニ至ル間三十尋ノ處ハ同徑ノ綱二本揃ヒニ用ヒテ筒五枚ヲ附シ之ヲ上ノ口桁ト稱ス
 鯨筒ヨリ高四ツ筒ニ至ル間ハ綱二本揃ヒニシテ三十五尋トシ並筒六枚ヲ付シ高四ツ筒ヨリ裏四ツ筒ニ至ル間十五尋ノ處(即チ尻)ハ綱二本揃ヒニシテ筒九枚ヲ附シ裏四ツ筒ヨリ鍵ノ鼻筒ニ至ル二十尋ノ間ハ綱二本揃ヒニシテ筒四枚ヲ附スルナリ之ヲ尻桁ト稱ス

碇網	徑	長サ	本數
杭筒網	四寸	十九尋	四房
沖ノ目筒網	〃	〃	〃
鯨筒網	三寸	〃	〃

漁船漁具審査報告

中ノ口網	四寸	十九尋	四房
鍵ノ鼻網	四寸	〃	二房
小崎鼻網	三寸	〃	〃
二番鼻網	三寸	〃	四房
大尻手網	三寸	〃	二房

以上列記セル筒ニ用ユル碇網ハ直立セシムルヲ要スルガ故ニ海ノ深サヲ測リテ深サニ等シキ長サヲ用ユルナリ少シニテモ弛ミヲ置カザルモノトス

簀筒尻繫網 二寸五分 二十五尋 百四十房

但シ深サノ三割五分乃至四割増トス

前圍小崎碇網 二寸 長サハ海深三割増トス 百二十房

合計二百八十四房

魚見櫓

一、魚見櫓ハ長サ八尋太サ四尺五寸周リノ杉丸太材ヲ以テ土臺ヲ組ミ其中央ニ長サ七尋太サ一尺五寸ノ杉長木ヲ以テ櫓ヲ組ミ立テ之ニ魚見ニ熟練シタル漁夫二名ツ、毎日輪番ニ登櫓セシメ魚ノ網中ニ入り來ル哉ヲ注視スルナリ其位置ハ最モ魚ノ見安キ碇筒ト杭筒ノ間ニ繫留シ置クナリ

船

引キ船 引キ船ハ中ノ口筒ノ處ニ繫留シ置キ魚ノ網中ニ入ル哉引立網ヲ引揚ゲテ大口前ヲ閉塞スル任務ニ用ユ

筒合船 高船 沖ノ目船

以上三艘ハ身網ヲ繰起スニ用ユ

大網建設法

大網ヲ建設センニハ魚類ノ灣内ニ回游シテ將ニ外海ニ出遊セントスル要衝ヲ選ミテ之レヲ設置スルモノニシテ豫メ身網ヲ配置スベキ地勢ヲ考ヘ陸上ノ樹木或ハ岩ノ岬角等ノ交叉點ヲ選ミテ目標トシ一定不動ナル杭筒ノ位置ヲ定メ同時ニ前圍ノ終點タル元洲ヲ定ムルモノトス大網ハ杭筒、沖ノ目筒、中ノ口筒及碇筒ノ四箇筒ヲ基礎トシテ建設スルモノナレバ右四箇筒ハ家屋ニ於ケル大黒柱ノ如ク實ニ大網ノ大黒柱ナリ故ニ如何ナル激浪潮流等ニテモ流動セザル様碇網ニ弛ミヲ置カズ注意シテ据付クルナリ各筒ノ方位及間隔ハ杭筒ニテ定ムルモノニシテ先ヅ杭筒ヲ適當ノ位置ニ据付クルヤ次ニ沖ノ目筒ノ位置ヲ定ム沖ノ目筒ハ杭筒ヨリ元洲ヲ見通シタル直線上ノ杭筒ヲ距ル二十八尋ヲ隔テ、据付クルナリ中ノ口筒ハ杭筒ヨリ二十三尋沖ノ目筒ヨリ二十三尋ヲ隔テ、鍵ノ鼻筒モ同一ノ碇ニ繫ギテ据付クルナリ此ノ中ノ口筒ト沖ノ目筒トノ間ハ大口前ナルヲ以テ三十尋ノ間隔ヲ取ラザルベカラズ然レドモ身網ノ

桁ヲ配置スルトキハ兩方ヘ引キ張ラル、ガ爲メ非常ニ延長ス故ニ豫メ之ヲ見込ミ置キ二十三尋ノ間隔ニ据エ付クルナリ然ルトハキ身網ノ桁ヲ配置シタル後ハ豫定ノ大口前即チ三十尋トナル次第ナリ次ニ鯨筒ハ杭筒ヨリ三十尋中ノ口筒ヨリ二十八尋ノ位置ニ据エ付ク右ノ如ク四箇ノ筒ヲ据エ付ケ終ルトキハ宛モ海上ニ長サ三十尋幅二十八尋ノ四角形ヲ作成スルナリ之レ即チ身網ヲ配置スル一定ノ基礎タルナリ而シテ豫メ陸上ニ製作シ置キタル篋筒桁及尻桁ヲ圖ニ示セルガ如ク其ノ各端ヲ右四箇ノ筒ヘ堅ク結ビ付ケ楕圓形ニ配置シ各筒毎ニ碇ヲ投ジテ身網全部ノ桁周リヲ一定ノ場所ニ据付ケ然ル後兼テ結合セ置キタル網ヲ入ル、ナリ

因ニ身網ノ配置ハ楕圓形ニシテ兩端ヲ少シク偏ムルヲ以テ魚ノ網中ニ入ルヤ擽形ニ游泳スルヲ以テ網外ニ脱出セザルモノトス

前圍ハ魚道ヲ遮リテ身網ニ入ラシムル爲メ設ケタルモノニシテ其配置方宜シキヲ得ザルトキハ却テ魚ヲ外海ヘ逸出セシムルコトアリ故ニ其配置ニ至大ノ注意ヲ要ス中ノ口筒ヨリ大尻手筒ニ至ル間ヲ一番圍トス而シテ三番口筒ニ至ル間ハ一直線ニ配置スルヲ要ス蓋シ其間ヲ些少タリトモ彎曲ナラシメンカ魚溜方面ヨリ進行シ來ル魚ハ爲ニ其進行ヲ遅々タラシメ或ハ外方ヘ逸セシムル恐アレバナリ故ニ此間ハ最モ魚ノ游泳ヲ早カラシムルヲ肝要トス三番口筒ヨリ大尻手筒迄ノ間ハ稍ヤ彎曲ヲ劃シテ配置セシムニ番鼻筒ハ沖ノ目筒ト小崎ノ鼻筒トヲ見通シタル直線ニ一番圍ヨリ十六尋ヲ隔テ据エ付クルナリ而

シテ二番圍ハ元洲迄一直線ニ配置ス一番圍ヨリ二番圍水切筒ニ至ル二十六尋ノ間ニ横切リテ配置シテ魚溜リヲ構成ス蓋シ身網ノ操縦中引立網ニテ口前ヲ閉塞スルヤ垣網ヲ傳フテ來游スル魚ハ身網ニ入ル能ハズシテ引返スコトアリ然ルトキハ小崎垣網等ノ配置上魚溜リニ來ルナリ而シテ再ビ垣網ヲ傳フテ身網ニ入ラシムル装置トス假リニ魚溜リノ設ナキトセンカ身網ニ入ル能ハズシテ戻リタルトキハ外方ニ逸出スベシ故ニ魚溜リハ定置漁網ニハ缺クベカラザル設備ト云フベシ

小崎ハ沖ノ目筒ヨリ三十尋ヲ隔テ、鼻筒ヲ据エ付ケ桁ヲ配置ス其配置法ハ二番圍ト並行セシメ或ハ並行線ヨリ少シク鼻筒ヲ外方ヘ開カシメテ据エ付クルモアリ

使用法

大網ヲ使用スルニハ漁夫三十五人ヲ要シ漁夫頭ニ大謀ナル者アリ大網漁業ノ萬事ヲ指揮ス漁夫中ヨリ魚見ニ熟練シタルモノヲ選ミテ毎日輪番ニ櫓ニ登ラシメテ魚ノ入網ヲ注視セシム而シテ魚ノ網中ニ入り來ルヤ引キ船ニ合圖シテ引立網ヲ引揚ゲシメ大口前ヲ閉塞シ魚ノ脱出ヲ防グ然シテ漁夫ハ各三艘ノ船ニ分乗シ筒合船ヲ中央ニ高船ハ高前沖ノ目船ハ裏方面ヘ三艘合ヘ引キ網ヲ以テ相連鎖シテ尻網ヨリ操リ起シ織網ニ至リテ魚ヲ取り揚グルナリ而シテ網ヲ操リ起スニ際シ漁夫ハ船ノ一方ニノミ偏シテ重キ網ヲ起スガ故船ノ傾斜甚ダシカラシム故ニ筒合船ヨリ「スギリ」ト稱スル網ノ一端ヲ尻ノ「ハサミ」筒ニ繋ギ網操起シテ進行スルニ隨ヒ暫次網ヲ延長セシム然ルトキハ船ノ傾斜ハ勿論船ノ遲速ヲ防ガシム

端網ハ魚ノ重筒ヲ超逸スルヲ防クニ用フ
 端網四寸日四十掛長八尺四反合
 總網(長九尋) 壹反
 内管反ニ枚ニ切リ二枚ナリ
 合ニシテハ各頭ニ付リ十反
 重筒四寸日四十五掛尖三ツ掛長九尋 四反
 重筒四寸日五ツ掛長九尋 壹反
 魚取網四寸日四十五掛長七尋 二反
 等 壹反
 側目網四寸日五ツ掛長七尋 七反
 一尺二寸日四十掛長十尋 六反
 側目一尺二寸日十掛長十尋 二反
 二尺日三十七掛長十尋四反
 側目二尺日十掛長十尋二反
 三尺四寸日二十五掛長十五尋 六反
 三尺四寸日二十五掛長十五尋 二反
 五尋 二反
 十掛 同
 筋網ハ抗筒下沖ノ目筒結着
 大筋網ハ抗筒下懸ノ鼻ノ結着

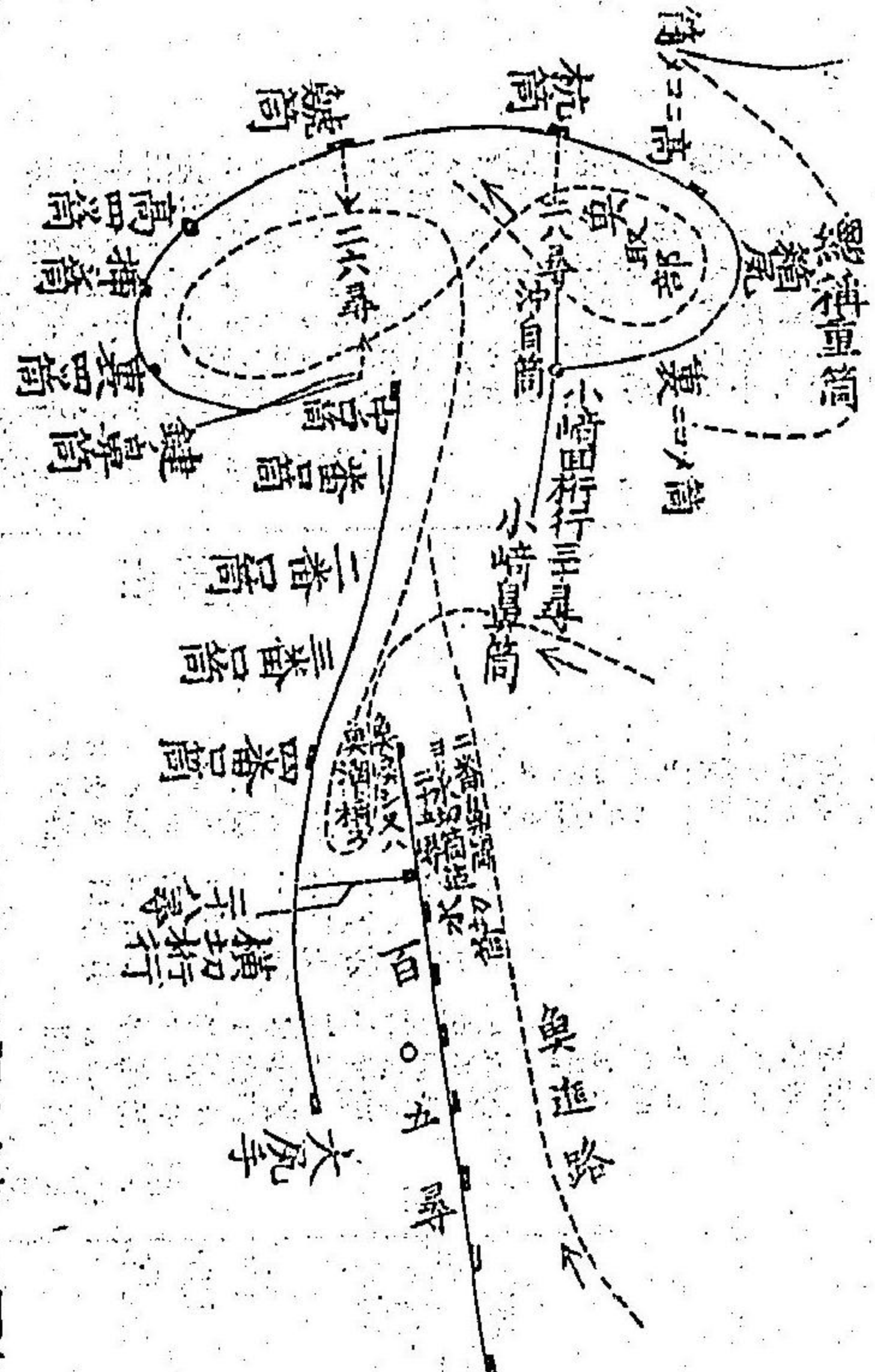
鮮大網身網 結び合



大前網 三尺四寸日 三反合 三尋
 大網 四尺日 二反合 二尋
 前口 三尺四寸日 三反合 三尋
 筋網 四尺日 二反合 二尋
 網 三尺四寸日 二反合 二尋
 尾網 四尺日 二反合 二尋
 長十尺日十五掛 十掛 同 四反
 長十尺日十五掛 十掛 同 四反

出島人 阿部 市郎
 宮城縣莊原郡田代濱

因ニ網起船ノ沖ノ目筒ノ筋網ニ達スルヤ引キ船ハ直チニ引立網ヲ投シテ口前ヲ開放スルモノナリ
 角網 岩手縣高川徳次郎ノ出品ニ係ル本網ハ從來ノ角網又ハ行成網金折網等ノ同趣向ノモノナレドモ
 構造布設ノ方法ニ於テ見ルベキ點少ナカラズ即チ夫レ等ハ必ズ見張船及中船ヲ附セルモ本網ハ其必要
 ナク唯魚群ノ網ニ入リシ時ヲ見計ヒ起シ船ヲ出シ網ヲ起セバ足ル又他ハ網ヲ起スニ漁夫二十人以上ニ
 シテ一時間ヲ要セシニ本網ハ十人乃至十八人ニテ約三十分ヲ要スルノミ且ツ彼レハ少許ノ魚群入ルモ
 直ニ網ヲ起サレバ之ヲ逸スル患アリシモ本網ニハ其患ナキノミナラズ網ヲ起ス場合ニモ左右何レモ
 自由ナルガ故風浪潮流ノ影響ヲ蒙ルコト少ナン左ニ參考ノ爲メ圖ヲ以テ之ヲ示ス



筋 大 網
 出島人 阿部 市郎
 宮城縣莊原郡田代濱

鮪 卷 網

宮城縣小島雄吉出品

三百三十八

一、構造 卷網ハ五寸目百掛(蛙股)ニ幅ニシテ綿絲三ツ合三十本撚ヲ以テ作り延長二十八尋切ヲ以テ一車トス

浮子ハ桐ニシテ長八寸厚八分幅三寸五分乃至四寸ノモノ一尋ニ三枚ヲ付シ浮子網ハ徑四分棕梠三ツ打トス沈子ハ藁繩徑二分五厘ノモノ二本ノ間ニ石ヲ挟ミ之ヲ細繩ヲ以テ包構シ一尋ニ付四個ヲ附ス而シテ一隻ニ付十一車ツ、二隻ニツキ二十二車此延長五百五十間ヲ用フ

二、魚捕部ハ周回百二十間内すと(魚捕)二十間(徑五厘絲)一本合二寸五分目百掛十尋切網地四反ヲ縦目ニ用フ(俗ニづきんたてあげト稱ス)次ニつむき(麻網四寸目百掛十尋切縫合シテつむき麻網ニ接續セ)ヲ接合シ次ニはさき網麻三ツ合百掛蛙股七寸目ヲ四反三十五尋切縫合シテつむき麻網ニ接續ス舌網ハはさき網ノ構造ト差違ナク百掛一反十尋ヲはさき網ノ中間ニ接合シ周圍ヲ麻繩二本ヲ以テ周ラシ四隅ニ引繩付ヲ壺トナシ置ク引繩ハ三十尋(徑五寸)ノ麻三子打ノ網ヲ用フ袖網ハ卷網ノ構造ト差異ナシ

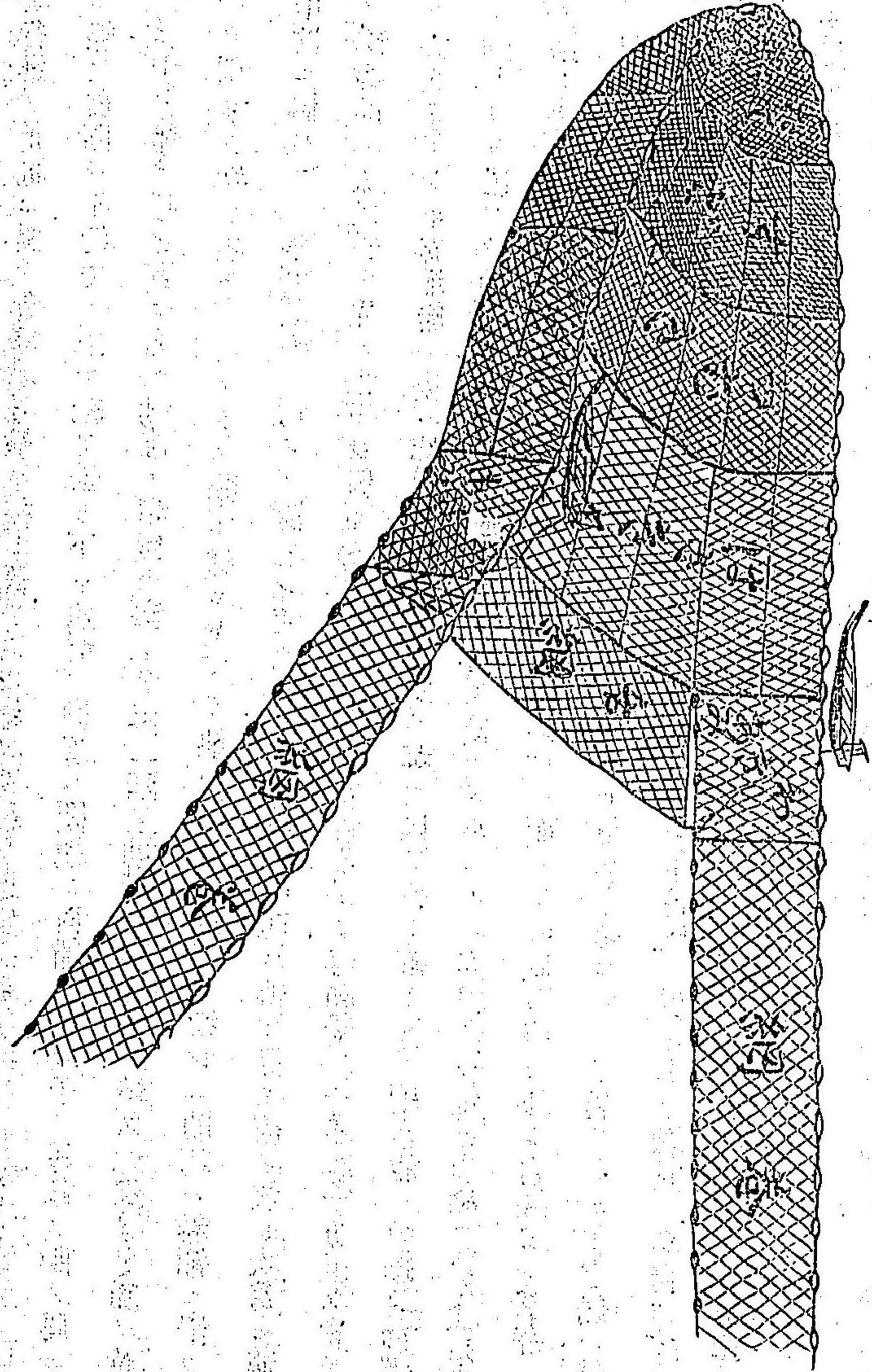
鮪卷網ハ三隻ヲ以テ一組トス即チ卷網船二隻此乘組員二十四名すと網船一隻此乘組員二十四名計五十名ヲ要ス

使用法 漁場ハ二十尋以下ノ處ニシテ沖合ニ於テ魚群ヲ認メタルトキハ各船互ニ注意シ漁長ノ指揮ニ

從ヒ其行進ノ前面ニ於テ卷網船各船ニ積ミ置キタル網ヲ連續シ適當ト認メタルトキ漁長ノ命ヲ合圖ニ左右ニ船ヲ展開シ全速力ヲ以テ網ヲ張り下シ魚群ヲ圓形ニ圍繞シ兩船共ニ浮子ノ縁端ヲ洞ノ間ニ結縛ス而シテすと船ヲ呼ビ寄せ先ツ潮流ノ如何ヲ察シテ第二圖ノ袖網ト卷網ヲ連續ス此際すと船ノ位置ハ横ニシテ潮下ニ網ヲ張下スモノトス張下終ルヤすと船ハ潮上ニ助錨ヲ投シ(助錨ハ卷網ニ沿フテ卷網ノ中間ニ置ク)テ風浪潮流ノ爲メニ流サレザル様ニすと船ノ中間ニ結ビ置キ網ノ流レ次第ニ適宜ニ錨網ヲ繰延得ル様仕置キ先ニ張下シ置キタルすと網ノ一方ニスガリ卷網船ノ一隻モ一方ニスガリテ準備整へ終リタルトキ卷網船一隻ハ袖網ヲ付ケタル所ヲ解キ口ヲ付ケ解キタル網ヲ能ク整理シ袖網ニ合ス様ニ潮上ヨリ流シテ袖網ト卷網トヲ連結シ準備ヲ整へタルトキハ卷網ノ一隻ハ卷網ヲ引キ寄せ圍ヲ狹クス斯クテ魚ハ不止得すと網ノ方ニ向ヒテ進ミ行クベシ而シテ海底ニ張り下シ置キタル舌網(則兩袖網ノ間)ヲ通過シはさき網ヲ大半進ミタルヲ確メタルトキすと網ニスガリ居リタルすと船ハ漁長ノ合圖ヲ以テ舌網ノ前後兩端ニ付キタル引揚繩ヲ全力ヲ以テ引キ舌網ヲ引キ上ゲ繰詰メ魚群ヲすと網ニ追込ム此際卷網ノ一隻モ漕ギ來リ三角形ニ取付網ヲ次第々々ニ繰リ上グルトキハ魚水上ニ游泳スルニ至ルヲ以テ鈎ヲ以テ捕獲ス

鮫網ハ宮城縣唐桑村漁業組合及外二名ヨリ出品アリ其構造略同ジ左ニ之ヲ示ス

三百四十



項目	出品人	網地
浮子繩	歌津村 最知源四郎	綿糸五寸三分目十二掛二百四十四目 半(一反)ニ網成シ後掛染トシ堅張日 乾シタル後網目ヲ附シ目通網ヲ通シ 浮子及目通繩等ヲ附シ足繩ト足繩ヲ 目通繩サゲ糸等ヲ附シ製作ス
繞ケ絲	唐桑村 漁業組合	綿糸六號一七號ヲ以テ製ス五寸目乃 至五寸五分目十三掛乃至十四掛百七 十目長十六尋ヲ一反トス
下ケ絲	大島村 村上作右衛門	綿糸七號五寸四分目十二半掛百七十 目半長十八尋半ヲ一反トス
浮子		磁寶子二子然リ徑一分五厘長十尋ニ同 上
沈子		綿糸六號乃至七號長十一尋網地上緣 ヲカハル
根付繩		綿糸八號長一尺乃至一尺一寸網地ト 足繩ヲ連結スルモノ網目六ヶ毎ニ一 條計二十五條
浮標		漆材廻リ三寸四分長六寸總數二十五 枚
鉛石		珠形ノ石一箇百八十匁位ノモノヲ礎 石ニテ繩ヲ結トシ一把ニ二箇ヲ用付 ス
漁獲		ワラニ子撚徑一分五厘長四十尋ノモ ノ二條
漁獲		ワラ製二百八十尋ノモノ二條
漁獲		ワラ製二百五十尋一三百尋 二條
漁獲		柏四ツ割六尺廻リ長六尺ノモノ二個
漁獲		柏四ツ割長六尺廻リ五尺中央ニ長四 尋九サ六寸竹竿ヲ用フ
漁獲		七貫目内外ノモノ二個
漁獲		五貫目内外ノモノ二個
漁獲		檫皮
漁獲		蕪十二月中旬一翌一月中旬
漁獲		一萬尾
漁獲		一萬尾

漁船漁具審査報告

三百四十一

使用法 肩幅一丈内外ノ漁船ニ漁夫十人乗組出漁ニ先チ網百車(網二反ヲ一車トス)ノ各箇ノ浮子繩及沈子繩ヲ繋ギ合セ一車毎ニ掛石四箇宛ヲ結ビ付一延ト爲シテ船ニ繰リ込ミ漁場ニ至リ浮標ノ下端ニ錨繩ヲ結ビ付ケ錨ヲ附シ沈子繩ヲ結ビ附ケ各此網ヲ張り下ゲ船ヲ漕グニ從ヒ順次網ヲ張り下ゲ浮標ヲ結ビ付ケ位置ヲ認定シテ其儘放置シ歸帆ス之ヲ引キ換ユルニ翌日又ハ翌々日天候ヲ見計ヒ浮標ノ一端ヨリ船中ニ取リ上ゲ更ニ用意シタル別網ヲ張下ス

宮城縣 菊池由之助出品鮮刺網ハ浮子方百二十尺沈子方百尺横幅六尺八寸ニシテ之ニ浮子八十五枚ヲ付シ一反トス浮子繩及沈子繩ハ徑一分ノ藁繩ニシテ浮子ハ「ウルシ」材ニテ長四寸徑二分トス沈子ハ使用ノ際小石五六十目ノモノ三箇ヲ附ス使用法ハ一定ノ漁場ヘ目標ヲ付シ張り置ケモノトス本網ハ從來浮子六十枚ナリシヲ魚掛リ惡カリシ故八十五枚トシテ漁獲多クナリシト云フ

目拔繩 宮城縣木村幸治末永孫太郎ヨリ出品アリ元來目拔ハ水深二百三十尋乃至百八十尋ノ海底ニ棲息シ其漁場ハ金華山附近ニテハ金華山ヨリ二十六哩ノ沖合ニシテ北スルニ從ヒ陸近ク南スルニ隨ヒ遠シ潮流西南ニ去ルトキハ漁獲多ク北沖ニ去ルトキハ少ナシ彼岸最後二十日間計リハ漁夫雪白水ト稱シ海水黒褐色トナルトキハ漁獲全クナシト云フ今延繩ノ構造ヲ示セバ左ノ如シ

木村 幸治 出品	末永孫太郎 出品
一鉢幹繩 長十七丈五尺一寸	一鉢幹繩 長三十三丈二尺

釣鈎總數	百〇二本	釣鈎總數	百四十八本
枝繩ノ長	一尺五寸	枝繩ノ長	一尺七寸五分
浮子距離	二丈八尺九寸	浮子距離	一丈六尺五寸
浮子數	六枚	浮子數	十六枚
浮子長	四寸四分	浮子長	七寸五分
浮絲長	一寸四分	浮絲長	三寸
鈎ノ長	一寸六分	鈎ノ長	一寸四分
鈎ノ距離	一尺七寸	鈎ノ距離	一尺八寸
重リ石	二箇二百目内外	重リ石	四箇 一箇二百二十枚
重リ石距離	浮子三枚	重リ石距離	十一丈三尺六寸
重リ絲長	一丈二尺	重リ石絲長	一丈

尾長鮪延繩 宮城縣唐桑村漁業組合出品ナリ其構造ハ幹繩麻絲三子撚リ徑一分五厘長八百尋兩端ハぼんでんニ連結セシムルニ便ナル谷壺形トシ枝繩ハ上麻ニ子撚リ徑五厘長四尋二尺トス一端ハ輪トシ幹繩ニ連結セシムルニ便ナラシム總數百六十本トス

「うきやま」ハ麻ニ子撚徑一分長三尺一寸乃至六尺枝繩一本置ニ幹繩ニ結付ス

浮標 桐材長二尺七寸廻リ七寸位ニシテ總數八十個トス

ぼんでん 丸竹二丈位ノモノ一端ニ白布又ハ笹葉ヲ付ス幹繩ノ終始ニ付スルモノトス

漁船漁具査査報告

使用法ハ普通ノ浮繩ニ異ナルコトナシ

鯛鮫延繩 秋田縣齋藤吉造出品

構造法

幹枝繩原料 南京絲、麻絲及苧絲ニシテ右撚ニ子合長二百五十尋一枚ニ付六十匁乃至八十匁迄トス、
鈎ノ原料 鐵ニ錫鍍金シタルモノニシテ其重量鯛ハ四匁五分ヨリ五匁六匁ヨリ六匁五分
此延繩ハ 鯛鮫ヲ一時ニ漁獲スル目的ニシテ構造サレタルヲ以テ枝絲ヲ一本毎ニ變更シテ附スモノナ
リ

鯛鈎ノ枝絲ハ八尺ヨリ九尺ニシテ四尋ヨリ六尋半ノ距離ヲ有ス

鯛鈎ノ枝絲ハ綿絲七號乃至八號ノモノ長五尺ヲ附シ其先端ニ約一尺餘ノ亞鉛線ヲ付ケ而シテ鈎ヲ附ス
此繩ノ稱言

鯛繩ヲ小鈎ト稱シ此小鈎二本毎ニ鯛鈎一本ヲ附シタルモノヲ一本小鈎ト唱ヘ鯛鈎二本ニ小鈎一本ヲ附
シタルモノヲ二本「ズク」ト稱ス

使用法、漁期、漁法

長サ七尺二寸位ノ川崎船ニ四人乃至五人乗込ミ冬至ヨリ寒迄ヲ漁期トシ沿岸ヨリ一里半乃至二里以內
ノ海面三十尋ヨリ八十尋ノ所ヲ漁場トシ一隻二十四枚ヨリ三十枚ヲ用意シ日出前出漁シ穴子繩ヲ延ベ

餌料ヲ得テ後本繩ヲ延ブ此穴子ハ主ニ鯛ニ使用ス鯛ノ餌料トシテハハツ目鰯ケンサキ鳥賊(方言サイ
ナガ)鰯等ニシテ鯛ハ鯛鮫(めざめ)ノ兩者ニ用フ此繩ハ總テ濱茄子ヲ以テ染ム
鯛延繩 秋田縣青山淺治郎、竹内久七ヨリ出品アリ構造稍相同ジ左ニ之ヲ示ス

構造

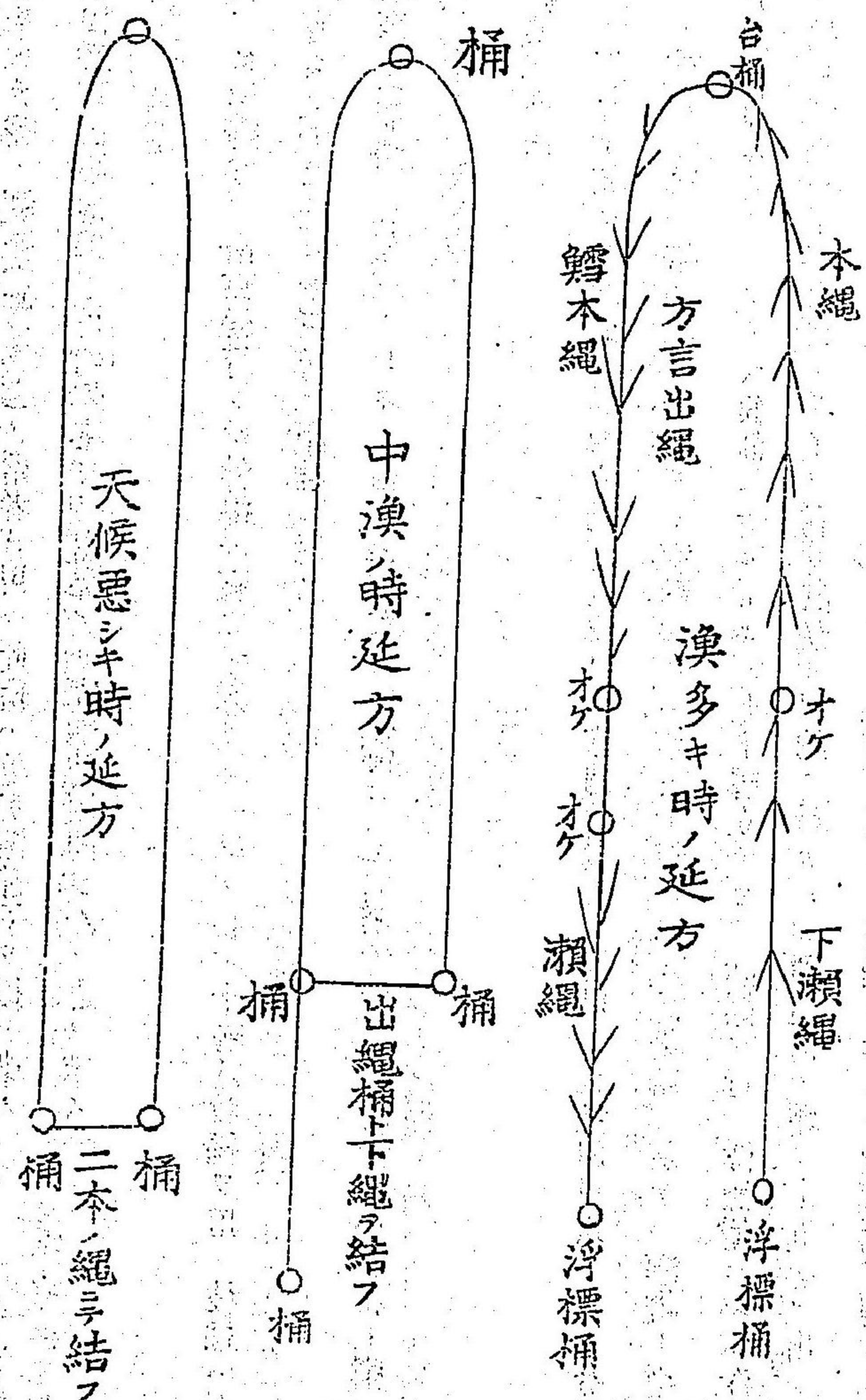
幹枝繩原料、金引麻苧、南京絲等トシ幹繩ハ麻ニ子撚リハ一鉢ノ長七十尋八枚絲ヲ用ヒ枝絲ハ金引麻
徑三厘長一尋ニシテ二尋ヨリ三尋ノ距離ニ附ス

鈎鈎ハ鐵製鍍金(亞鉛)五匁三ツヒネリ(但シ角鯛鈎ノ瀬繩ニハ六匁以上トス)沈子ハ小手石ト稱シ三百
目ノモノヲ一鉢ニ一箇ヲ附ス

使用法、漁期、漁法

冬至ヨリ翌年三月下旬迄ヲ漁期トシ内盛期ハ大寒ヨリ寒開前後トス漁場ハ大抵四里以上ノ沖合ニシテ
百三十尋ヨリ百八十尋一帶ノ場所ナレドモ寒開ヨリハ百五十尋ニ至ル此場所ニ於テハ瀬繩ト稱スルモ
ノヲ行ヒ角鯛ヲ捕獲スル事アリ天候靜カナルトキハ九十尋立テヨリ瀬繩ヲ行ヒ浮標樽ニハ水深二倍ノ
繩ヲ付シ一端ニ一貫乃至三百目ノ沈子ヲ付シ其傍ヨリ鈎ノ付カザル瀬繩程ノ繩ヲ十五尋ヲ出シ本繩ト
連絡シ順次延フレバ百二十立ニ至ル夫レヨリ百八十尋ノ所ニテ臺桶ト稱スル浮標樽ヲ附シ而シテ元
延ベタル繩ト平行シテ歸リ來リ瀬繩ノ所ニテ止メ而シテ又瀬繩ヲ附シ浮標ヲ付ケ最初ノ所ニ至リ又浮

(圖畧法繩延)



總テ沖合ヨリ陸地ニ向フテ延ブルモノヲ逆延ト云ヒ陸方ヨリ沖合ニ向フモノヲ順延ト稱セリ繩ヲ六十

枚ヨリ七十枚ヲ延ブルハ小寒ヨリ寒開迄ニシテ其後ハ五六十枚ヲ普通トス
漁船ハ川崎船長六尋以上七尋二三尺ノモノヲ使用シ一隻通常七八人乗組ムモノトス
餌料ハ冬至ヨリ小寒迄ハ鱒ニシテ以後ハハツ目、章魚、烏賊、鹽藏鰻等トス
三、網地

出品表

縣別	出品點數	授賞				出品人員
		一等	二等	三等	四等	
福島縣	一一					一一
岩手縣	七七					一一
秋田縣	九七					一一
計		二	一	一	一	一一
		四	一	三	一	一一
		七	二	四	一	一一
		一三	四	八	一	一一
		一八	六	一	一	一一

備考 秋田縣出品ハ盡ク實子網ナリ

前記出品中最モ多キハ綿絲網ニシテ全出品ノ八分ヲ占ム其多クハ手編ニシテ機械製ハ極メテ少シ其他
ハ麻網地及實子網トス綿子網ハ價額低廉ニシテ且摩擦及腐敗ニ抵抗スル力強キヲ以テ近來其需要頗ニ
増加セシニ依ルベシ唯其出品物ヲ檢スルニ網目ニ大小アリ又結節完全ナラザルモノ多ク殊ニ麻網地ハ
其原料廉惡ニシテ且ツ原絲ノ太サ及ビ撚リ不整ナルヲ遺憾トス實子網ハ原料良好ナラズト雖モ製品ニ

漁船漁具審査報告

至リテハ見ルベキモノ少ナカラズ
四、釣 鈎

出 品 表

縣 別	出品點數	授 賞				出品人員
		一 等	二 等	三 等	四 等	
秋 田 縣	九 七					二
青 森 縣	二					一
岩 手 縣	七					一
計	一〇六					四

出品物ハ概シテ良好ニシテ殊ニ燒鈎及鍍金鈎ノ多數ヲ占メタルハ喜ブベキ現象ナリトス就中青森縣佐藤金五郎出品擬餌鈎類聚品及秋田縣木村幸之助出品中延繩用鈎鈎ハ共ニ見ルベキモノトス
以上ノ外本類ニ入ルベキ出品ニシテ福島縣ヨリ麻絲二點及船曳揚器一點岩手縣ヨリ鰹漁用撒水器一點ノ出品アリタレドモ特ニ記スベキ點ナシ

第四十類 水産業方法及成績

本類ニ屬スル出品ハ青森ヲ除クノ外他ノ聯合五縣ニ互ル今之ヲ表示スレバ左ノ如シ

縣 別	出品點數	授 賞				出品人員
		一 等	二 等	三 等	四 等	
計	一〇					九

縣 別	出品點數	授 賞	出品人員
福 島 縣	一		一
宮 城 縣	三		一
岩 手 縣	一		一
山 形 縣	四		一
秋 田 縣	一		四
計	一〇		九

前記出品點數十點中内九點ハ養殖事業ニ係ル鮭鱒人工孵化ノ如キ其成績未ダ顯著ナラザルモ方法設備共ニ稍宜シキヲ得又山形縣ノ鰹魚養殖ノ如キ個々ノ事業トシテ之ヲ見レバ規模極メテ小ナレドモ各戸之ヲ飼養スルヲ以テ集メテ以テ地方重要ノ物産タリ本業ノ如キハ農家ノ副産トシ又池、沼、湖川ノ便アル所ニテ普ク之ヲ營マンコトヲ望ム其他宮城縣ノ牡蠣及海苔養殖ノ如キ共ニ其成績ノ見ルベキモノアリ今回ノ共進會ニ於ケル聯合各縣ニ於テハ魚類ノ蕃殖ニ利用スベキ水面尙乏シカラズ宜シク一層ノ奮勵ヲ以テ斯業ヲ發展セシメンコトヲ切望ス今出品ニ徴シ其大要ヲ左ニ示ス

十和田湖養魚成績 秋田縣 和井内貞行

一、養魚ノ起源 十和田湖ハ口碑ノ傳フル所ニヨレバ大同年間ノ噴火口ノ一大湖水トナレルモノニシテ東西ニ長ク南北ニ短シ湖ノ水ハ東流シテ子ノ口川トナリ十餘町ニシテ銚子ノ瀧ヲ作り直立三十五尺其下流ヲ奥入瀬川ト稱ス然ルニ該瀑布ハ非常ノ急落ナルヲ以テ魚類ノ湖上ヲ妨ゲ往昔ヨリ湖中魚

介ヲ産セズ唯鯉ノ夥シク棲息スルノミ明治十七年出品人始メテ鯉鮒嘉魚等ノ放養ヲ試シニ其成育頗ル佳良ナルヲ以テ年々之レガ放流ニ努メ明治三十五年鯉魚ノ放養ヲ企圖シ爾來漸次魚族ノ蕃殖ヲ増加シ以テ今日ニ至レリ

一、十和田湖 十和田湖ハ秋田縣鹿角郡七瀧村ニアリテ海拔四百五十メートル東西三里南北二里半周圍大凡十一里餘其最深キ所五百尺以上ニシテ岸邊淺キハ僅々二三尺ニ過ギズ湖内水清ク魚類ノ蕃殖ニ適ス

一、孵化場 孵化場ハ湖水ノ西南字追手地内ニアリテ孵化室稚魚育養池事務室ノ三棟アリ湖岸ヲ相離スル事三十間トス孵化室ハ間口三間奥行四間(十二坪)育養池ハ間口四間奥行六間(二十四坪)事務室ハ間口四間奥行三間(十二坪)ニシテ木羽葺平家造リトス

一、孵化器 孵化器ハ「アットキンス」式ニシテ幅一尺一寸深サ八寸長サ六尺ノ孵化槽十八箇並ハ方一尺ノモノ一千二百枚ヲ用ヒ外ニ幅三尺深サ一尺長サ十二尺ノ育養池槽六箇附屬セリ

一、放養魚類ノ種類

鯉 五萬七千六百尾 自明治十七年至明治四十年
 鮒 二千尾 自明治二十五年至明治二十九年
 嘉魚 四百七十六尾 自明治二十一年至明治二十四年

金魚 五十尾 明治二十五年
 鱒 三十九萬二千尾 自明治三十三年至明治四十年
 鮭 五萬尾 明治三十七年
 鰻 一石 明治三十八年
 和井内鱒 三百五十二萬尾 自明治三十五年至明治四十年
 一、湖魚ノ捕獲數量及鱒採卵數

年次	鯉	鮒	鱒	和井内鱒	ヤマメ
明治三十年	六二八				
同三十一年	七六六				
同三十二年	二六九	三、一四八			
同三十三年	一二五	九、八八二			
同三十四年	三四七	六、三五〇	二七一		
同三十五年	一九六	五、六二〇	三三六		
同三十六年	七六	一〇、八五八	一、七七五		
同三十七年	三三	五、七七〇	一、一六八	一三、五六三	
同三十八年	六六	六、一七〇	一、六九四	一二、七五二	
同三十九年	六六	八、〇五三	三、〇〇〇	一、五五五	
同四十年	二八				三、四七〇

右捕獲シタル親魚ノ内採卵用ニ供セシモノ及ビ採卵數左ノ如シ

年 別	魚 種 類	尾 數	採 卵 數
明治三十五年	鱒 (雌雄共)	一六一	五五、〇〇〇
明治三十六年	〃	二二〇	一一〇、〇〇〇
明治三十七年	〃	八七二	三七〇、〇〇〇
明治三十八年	和井内鱒	一、四〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
明治三十九年	〃	一、七〇〇	三、二〇〇、〇〇〇
明治四十年	〃	二、三九九	六四〇、〇〇〇
			(内和井内鱒三萬六千位)

但シ三十五年三十六年及ビ三十七年中捕獲シタル親魚ハ當湖下流ノ瀑布ヲ開鑿シテ魚道ヲ開通シ湖上セシメタル鱒ナリトス而シテ三十八年以來ノ漁獲シタルモノハ自家放養シタルモノニシテ現時ニアリテハ卵ヲ他ヨリ仰ガズ却テ他ノ需ニ應ズルノ域ニ達セリ玆ヲ以テ將來益々規模ヲ擴張シ年々千萬以上ノ孵化放流ヲ計畫中ナリ

一、親魚ノ選定法 親魚ノ選定ハ和井内鱒四歳以上ノモノニシテ精卵ノ熟スルモノヲ選ミ其未ダ熟セサルモノニアリテハ活淵ニ放養シ暫ク其熟スルヲ待ツテ採卵ス此ノ如クシタルモノハ卵子發育稚魚成育等凡テ經過良好ナリ

一、採卵法 切開法ニシテ雌三尾ニ對シ雄三尾ノ割合ナリ

一、卵子發育狀況 毎歳經過良好ニシテ發眼ハ採卵後平均三十日發生ハ採卵後平均七十日投餌ハ採卵後百三十日トス

育水温度ハ平均攝氏八度ニシテ死卵ハ發眼前ニ多ク發眼後ハ稀ニ死卵ヲ生ズルノミナリ死卵死兒ハ一割三步位ニシテ其原因ハ弱卵不受精卵親魚ノ稚キモノニヨル

一、投餌ノ方法及其種類 投餌ハ孵化後鶏卵ノ蛋黃ヲ與ヘ約一週間ヲ過グレバ鶏卵麥粉ヲ煉固メ一時間半位蒸シ後大根卸ニテ粉碎シ五厘目金網ヲ通シタルモノ一日三四回ツ、之ヲ與フ爾後二週間ヲ經レバ麥粉ヲ牛乳ニテ煉リ固メタルモノヲ一週間次ニ馬ノ肝臟ヲ麥粉ヲ以テ煉リ固メ一日四五回ツ、一週間次ニ肝臟ノミ一日五六回ツ、一週間之ヲ與フ然ル後湖水ニ放流スルヲ例トス天候ニヨリ平日ヨリ魚兒食進ムトキハ一時ニ多量ヲ與ヘズ數回ニ分與ス凡テ投餌中ハ給水量ヲ増シ殘餌ハ日々羽毛ヲ以テ流シ腐敗セシメザル様注意シ餌料ノ種類ハ前記ノ外ニ大豆馬蹄薯等ヲ試用セリ

一、放流ノ狀況 放流ハ投餌後平均四十日魚兒ノ體長平均一寸五分前後ノモノヲ放流ス最モ三四日前ヨリ天候ヲ豫測シ育水温ト湖水温トヲ測リ晴天無風ノ日ヲ選ミ孵化場前放流ノ箇所ニ數多ノ刺網ヲ張リ下シ成魚ノ來游ヲ豫防シ玆ニ放流ス

一、放流魚ノ發育狀況 毎歳放流魚兒千尾ヲ選ビ之ニ標識ヲ付シ發育ノ狀況ヲ檢スルニ放流後經過至極良好成長速ニシテ魚體肥滿ナリ成長度ハ毎歳十月中ノ調査ニヨルニ當歳魚體長五寸餘體量四十匁

二歳魚體長一尺一寸體量百二十匁三歳魚體長一尺五寸體量二百二十匁四歳魚體長一尺八寸體量三百七十匁體高四寸五歳魚體長二尺體量六百匁體高五寸ナリ

一、現況一斑分與卵及其箇所

年 別	種 別	卵 數	分 與 個 所
明治三十七年	鱒	九萬粒	秋田縣仙北郡田澤湖養魚場
同三十八年	和井内鱒	二十萬粒	青森縣水産試驗場
同三十九年	同上	二萬粒	岩手縣稗貫郡太田村
同四十年	同上	五萬粒	青森縣水産試驗場
同四十一年	同上	十萬粒	秋田縣仙北郡田澤湖養魚場
同四十二年	同上	十萬粒	宮内省日光養魚場
同四十三年	同上	四十萬粒	秋田縣仙北郡田澤湖養魚場
同四十四年	同上	五十萬粒	秋田縣水産試驗場

一、養魚經濟一斑

自明治十九年至同二十九年 創業費トシテ支出金額 一、〇五五、四一〇

年 度	養 魚 費	捕 魚 費	事 務 所 費
明治三十年度	八〇、七二〇	三八八、二二一	三三〇、〇〇〇

同三十一年度	三三四、一七〇	四九四、一八四	三六〇、〇〇〇
同三十二年度	一五八、〇二一	二〇六、一七九	三六〇、〇〇〇
同三十三年度	四〇〇、一七六	三一九、九三〇	三六〇、〇〇〇
同三十四年度	二五七、四二四	四四四、九〇九	三六〇、〇〇〇
同三十五年度	三一、〇二七	二一四、一五七	四二四、八〇〇
同三十六年度	八二九、二四三	一六五、二七四	三九一、一七〇
同三十七年度	七四四、五〇五	一八五、三四八	四五四、五三一
同三十八年度			五二九、八四二
同三十九年度			

合計支出金 一一、六四〇、六九〇

内

創 業 費	一、〇五五、四一〇
養 魚 費	三、一一五、二八六
捕 魚 費	三、八九九、六五一
事 務 所 費	三、五七〇、三四三
魚類賣却代	三六〇、三二〇

明治三十年度

漁船漁具審査報告

明治三十一年度	五〇九、八二〇
同 三十二年	一六五、一五〇
同 三十三年	一一一、八二八
同 三十四年	三四三、八二八
同 三十五年	二八八、〇五〇
同 三十六年	一七七、七六八
同 三十七年	二七六、四〇四
同 三十八年	四二六、四四六
同 三十九年	二、六七五、六一八
合計收入金	五、三三五、二一四
差引不足金	六、三〇五、四七六 (是ハ年ヲ追テ償還ノ見込)

一、創業以來ノ經營一斑 明治十七年以來十和田湖ニ於ケル養魚ハ其筋ニ相當ノ手續ヲナシ毎歲鯉魚ヲ巡視セシメ蕃殖上保護ヲ充分ニシ尙ホ湖水使用ノ件ニ付テハ明治二十三年八月中秋田青森兩縣廳ニ出願シ許可ヲ得更ニ明治二十六年十月十四日秋田青森兩縣連署ヲ以テ免許セラレタリ而シテ之ト

同時ニ明治二十九年迄捕漁ヲ禁セシガ其放養ノ鯉魚年ヲ逐フテ各湖岸ニ顯ハル、ニ至リ同三十年始メテ鯉ノ捕獲ヲ試ミタリ次デ三十三年ヨリ鯉魚ノ捕獲ニ從事セルニ鯉ノ捕獲僅カニ六月下旬ヨリ八月迄ニシテ秋冷ニ伴フテ深キ湖底ニ潜伏シ加フルニ一度網ヲ使用セシ箇所ニハ再ビ顯ハル、コトナク漸次其漁獲ヲ減シ天然蕃殖速カナラザルヲ以テ茲ニ鯉魚ノ蕃殖ヲ謀ルノ適切ナルヲ感ジ明治三十三年十二月始メテ日光中宮洞湖ヨリ鯉卵ノ配布ヲ受ケ三十四年四月中育養鯉魚三萬五千尾長一寸五分ノモノヲ放流ス而シテ三十二年中當湖下流ニ魚道開通湖上セシメタル鯉魚ニ付三十五年以來捕獲採卵ヲ試ミタルモ同種魚ニテハ到底充分採卵ノ見込ナキヲ以テ明治三十五年十二月北海道水産試験場ニ乞ヒ膽振國千歲郡支笏湖ニ産スル「カバチエツボ」ノ魚卵ヲ分與セラレシニヨリ之ガ人工孵化ヲ行ヒシニ其結果良好ニシテ同三十六年五月中體長二寸内外ノモノ三萬餘尾ヲ放流セリ該魚ヲ北海道以外ニ移殖シタルハ蓋シ十和田湖ヲ以テ嚙矢トス依テ其紀念トシ當湖産ノ鯉ヲ和井内鯉ト改稱ス續テ翌三十七年日露戰爭紀念トシテ更ニ一ノ人工孵化場ヲ新設シ爾來同場ニ於テ人工孵化ヲ施行シ來リシモ尙事業擴張ノ爲メ第一第二第三等ノ孵化場ヲ増設ス明治三十五年漁業法發布セラレ、ヤ從來ノ慣行ヲ以テ區劃漁業ノ免許ヲ出願シ同三十七年二月十日其免許ヲ受ケ同年十二月青森縣上北郡藤岡村相坂川産鯉卵ノ人工孵化ヲ行ヒ三十八年四月魚體一寸五分ノモノ五萬尾ヲ放流ス而シテ前年日光中宮洞湖ヨリ移殖セル鯉魚ハ同年ニテ已ニ五年目ニシテ秋季産卵期ニ臨ムモ別ニ群ヲナシテ顯ハ

ル、コト無ク稀ニ二三尾ヲ網獲セルノミナリシガ「カバチエツボ」魚ハ之ニ反シ産卵期ニ際シ（十月
中）三箇年目ニシテ元ト放流ノ湖岸ニ雄雌共ニ大群ヲナシテ來遊セリ元來「カバチエツボ」魚ハ支笏
湖ニアリテハ大ナルモ一尺二寸前後ニ止マリ其以上成長セザル由ナルモ十和田湖ニアリテハ至極該
魚ノ生育ニ適スルモノ、如ク其成長迅速ナリ

鮭蕃殖ノ方法及成績ニ就テハ福島縣新田川鮭蕃殖組合及岩手縣津輕石村鮭留漁業者ヨリ出品アリ左ニ
其大要ヲ示ス

新田川鮭蕃殖組合 本組合ハ相馬藩ノ遺制ニ基キ鮭鱒等ノ蕃殖ヲ圖リ兼テ水産ノ改良發達ヲ企圖スル
ノ目的ノ下ニ原ノ町高平村ニ居住シ舊來ヨリノ慣行ヲ有スル漁業者百七十名ヲ以テ成リ組長副組長
會計川頭ノ役員ヲ置キ事 執行ニ任ジ且ツ事業ノ施設方法ニ關スル機關トシテハ商議員會ノ制ヲ設
ケ諸般ノ事務ヲ處理シ孵化場、治水、魚付林ノ保護及ビ事務所基本財産蓄積等ニ要スル經費ハ老魚
ノ賣却代金ヲ以テ之ニ充テ剩餘アルトキハ之ヲ組合員ニ配當シ若シ不足ヲ生ズルトキハ組合員平等
ニ負擔シ以テ圓滿ナル事業ノ發達ヲ計レリ

天然産卵場保護方法 從來ノ天然産卵場ハ一箇所ナリシ爲メ折角産卵シタル箇所ヲ再ビ他ノ親魚ノ爲
メニ攪亂セラル、ヲ以テ三十九年ヨリ川口ヨリ約千間餘ヲ距リタル上流ヲ五區以上ニ分チ各區間ハ
五百間以上毎ニ簞又ハ網ヲ以テ遮斷シ一區域ニ於テ充分産卵セシメ順次他ノ區域ニ及バシムルノ裝

置トス面シテ親魚充分産卵シタルトキニ於テ曳網ヲ以テ之ヲ捕獲シ尙ホ産卵未済ノモノハ之ヲ採卵
シテ人工孵化場ニ送致ス

人工孵化方法

- 一、採卵場ノ位置 福島縣相馬郡(新田川沿岸)高平村大字泉字惣ヶ澤同郡原ノ町大字下澁佐字後川
- 二、孵化場ノ位置及ビ採卵場ヨリノ距離 孵化場ハ福島縣相馬郡原ノ町大字上澁佐字前屋敷ニシテ採
卵場ヨリ距離約十六町アリ
- 三、孵化場ノ面積 二十四坪
- 四、孵化器ノ種類及ビ孵化場内ニ於ケル配置 孵化器ハアツトキンス式ヲ用ヒ長サ一間幅一尺五寸深
一尺三寸ノ孵化槽ヲ五列二段ニ裝置シ一枚ニ千二百五十粒ヲ入ルベキ孵化盆十枚ヲ一枠トシ一槽内
ニ四枠五萬粒ヲ收容ス
- 五、飼養池ノ位置面積 飼養池ハ孵化場ノ東側六坪並ニ孵化室内床下二十一坪
- 六、水源及距離流水經過地ノ模様 水源ハ湧水ニシテ孵化場トノ距離六十二間餘アリ其間水樋ヲ以テ
孵化室内ニ通ズ
- 七、水質 清冷無臭反應中性
- 八、孵化水濾過法 日間ニ孵化場ニ入ル水量 濾過槽ハ縱六尺横三尺深三尺ニシテ三區劃トシ砂利及

木炭ヲ以テ濾過ス水量ハ一時間百八十石トス
鮭産卵孵化 (明治四十年)

- 一、親魚漁期ノ終始及一日最多最少ノ漁獲尾數 親魚ノ捕獲ハ十月二十二日ニ始メテ十一月三十日ニ終ル一日ノ最多ハ七十七尾ニシテ最少ハ二尾ナリ
- 二、採卵用親魚ノ雄雌數 採卵ニ供シタル親魚ハ雌魚百九十九尾雄七十六尾ナリ
- 三、採卵用親魚ノ體長體高體量

區分	最 大		最 小		百 尾 平 均
	體 長	體 高	體 長	體 高	
體 量	三 尺 一 寸	一 貫 六 百 匁	二 尺 一 寸	七 寸 五 分	二 尺 九 寸
體 高	七 寸 八 分	一 貫 六 百 匁	七 寸	七 寸 五 分	七 寸 五 分
體 量	一 貫 六 百 匁	一 貫 六 百 匁	八 百 五 十 匁	一 貫 百 匁	一 貫 百 匁

四、孕卵數 二十尾ノ平均卵粒二千六百五十粒ニシテ卵ノ重量百八十匁アリ但シ二十尾ノ平均體長二尺七寸體量九百匁ノモノヨリ採卵ス

- 一、採卵法及孵化場ヘノ輸送法 卵ノ熟シタルモノヲ選ビ「アスファルト」ヲ塗抹シタル鐵葉製採卵盆ニ卵ヲ捲取シ汚物血液等ハ海綿ニテ取り去リ次ニ雄魚ノ精液ヲ注ギ鳥毛ヲ以テ除々ニ混合セシメ少量ノ水ヲ注ギ蓋ヲナシ二十分間餘ヲ經テ汚水ヲ棄テ白木綿ヲ以テ張りタル長方形ノ運搬盆ニ積ミ數

層ヲ運搬箱ニ入レ孵化場ニ運送ス(孵化場トノ間五六町ニ過ギズ)

- 二、總採卵數及一日ノ最多最小數 總採卵數ハ五十二萬六千五百粒ニシテ一日中ノ最多十三萬七千九百五十粒最少四千六百粒
- 三、孵化 自十一月二十五日至翌年一月二日
- 四、孵化率及死卵ノ原因 孵化率ハ百粒ニ對スル九十五粒ニシテ死卵原因ハ發眼前ニ在リテ運搬中及金網ノ腐朽シタル爲メ僅少ノ死卵ヲ出シ發眼後ニアリテハ自然幾分ノ斃死ヲ見タルモ特ニ記スベキノ事項ナシ

- 五、稚魚臍囊吸了期 十一月二十五日發生ノモノ十二月下旬ヨリ一月上旬ノ頃迄臍囊吸了ス
- 津輕石村孵化場ハ同村鮭留地曳網漁業者ノ附屬事業ニシテ明治三十七年十二月ノ建設ニ係リ津輕石村大字赤前立澤川ノ中流左岸ニ位シ一ヶ年三十萬乃至四十萬ノ鮭卵ヲ孵化放流スルノ設備ヲ有シ親魚トシテハ津輕石川産ノモノヲ用ヒ殊ニ明治三十九年度ヨリ縣立水産學校生徒實習用トシテ其一部ヲ割キ以テ同校鮭卵人工孵化試驗用ニ供シツ、アリ而シテ此事業タル明治三十七年戰時紀念事業獎勵要項ノ趣旨ニ基キテ企劃シタルモノナリ
- 發眼孵化ノ日數及ビ水温

年 度	自受精至發眼	同上平均水温	自發眼至孵化	同上平均水温
三十七年	八十五日間	三度二分	四十六日間	八度一分
三十八年	百 日 間	二度二分	三十八日間	七度八分
三十九年	九十五日間	二度二分	四十二日間	七 度

備考 當場ニ於テハ毎年十二月ヨリ二月迄ノ間ニ採卵ス
各年度ニ於ケル放流尾數

年 度	放 流 尾 數	摘 要
三十七年	五四、七〇四	上記ノ魚兒ヲ二分シ一ハ津輕石木川ニ他ハ當場前ニ放流セリ
三十八年	一三九、五六五	前年度ニ同ジ
三十九年	二〇六、八六四	前年度ニ同ジ

附記 四十年度ハ本縣水産學校生徒實習ノ用ニ供セシモノ四十五萬粒採卵シテ孵化場ニ收容シ目下孵化中ニ屬セリ

牡蠣養殖ノ方法及成績

宮城縣松島漁業組合外九組合

一、牡蠣養殖場面積及産額 松島灣ハ全面積三百萬坪餘ニシテ牡蠣養殖場最近六ケ年ノ面積及收穫高左ノ如シ

年 次	箇所數	面 積	收 獲		高 格
			數	價	
明治三十五年	二七	三〇五、二〇〇	六五、二三五	一、九五七	
同 三十六年	一九	三八六、二一八	一一三、八八七	三、四一七	
同 三十七年	二六	一六七、四六〇	三八、八三二	一、一六五	
同 三十八年	四四	一一七、三〇五	一一一、五一〇	三、六四五	
同 三十九年	三二	八六、五九〇	二一九、五五〇	六、五八六	
同 四十年	三六	一五九、三九三	一九四、八八〇	五、八四六	

二、養殖方法

(一)場所 松島灣ハ沿岸並ニ諸島嶼ノ周邊及濬ノ一部分ヲ除クノ外ハ泥土深ク至ル所海藻叢生スルヲ以テ蠣苗採取場ハ成ルベク淡水ノ注入スル諸島嶼ノ近傍及濬筋ニ沿フテ海底砂礫ニ貝殻ヲ混ジ泥土深カラズシテ海藻ナク潮ノ流通宜シキ箇所ヲ選ミ養育場ニハ土質砂泥ニシテ潮ノ流通宜シキ場所重ニ濬ヲ選ベドモ泥土ノ箇所ノミヲ有スル漁業組合ニ於テハ貝殻及ビ砂礫ヲ投ジテ地盤ヲ構成シ養育場トナセリ

(二)蠣苗附着材料 同港ニハ七八月頃俗ニ「ニラ」ト稱スル蟲夥シク生殖シ生竹木ナレバ浸蝕サルハヲ以テ冬季ニ伐採シ雨露ニ當テザル様ニ貯ヘ置キタル松雜木等ノ枝木ヲ建込ミシモ近年ニ至リ松雜木等ノ枝木ト細丸太トヲ以テ造リタル棚簀及棹簀等利得ナルニ依リ之ヲ使用スルニ至レリ

(三) 建込期及方法 同灣牡蠣産卵期八年ノ氣候ニヨリ遅速アレドモ五月ニ始マリ六七月ヲ盛期トシ十月ニ至リ全ク産卵ヲ了ル如シ而シテ同灣ハ泥土深キ箇所多キヲ以テ築ノ建込ミ早ケレバ汚泥ヲ蒙リ蠣苗ノ附着數少ナキヲ以テ築ノ建込期ハ各漁業組合一般ニ五月中旬ヨリ六月中旬ノ間ニシテ其附着材料ノ高サハ滿潮時水深ノ半以下トシ風向キヲ鑑ミ成ルベク潮流ニ並行シテ建込ムモノトス

(四) 移殖方法 材料ニ附着シタル牡蠣ハ翌年三四月ノ干潮時ニ養育場ニ移スナリ其時期ニ於テ諸島嶼近傍ニ散在セル岩石介殼等ニ附着セシ稚介ヲモ拾ヒ集メ同時ニ之ヲ移シ時々手入ヲ爲シ二年目若クハ三年目ニ至リ其成長ヲ待ツテ大ナル分ヲ採取シ小ナル分ハ翌年ニ廻シ同一方法ニテ輪採ス

(五) 採取期 宮城縣牡蠣採取期限ハ十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ナレドモ十二月中旬ニ至ラザレバ成熟セザルヲ以テ毎年十二月下旬ヨリ翌年二月下旬迄ニ採取ス

(六) 作業 牡蠣業者年々協議ヲナシ採取期日ヲ定メ各出船シテ採取シ其牡蠣ハ一箇所ニ集メ家族ヲシテ剥身トナサシメ其介殼ハ二日以内ニ養殖場ニ撒布ス而シテ其剥身ハ入札ニテ漁期間ノ契約賣買ヲナシ又ハ小賣ヲナシ終結ニ至リ其實上金ノ内ヨリ各自ノ人夫賃ヲ計算シテ分與シ利益金ノ内ヨリ翌年ノ築代ヲ差引キ殘餘アレバ配當セリ而シテ築材ハ立木ニテ見込買ヲ爲シ伐採シ便宜貯へ置キ時期ニ至リ各自出船シテ建込ミヲナシ養殖上ノ保護ハ交番ニシテ手入ヲ爲スト同時ニ監守セリ

三、養殖事業ト漁業組合

牡蠣ハ松島灣ノ特有産物ニシテ各漁業組合冬季ノ漁業トシテハ唯一ノ事業ナルヲ以テ宮城郡役所獎勵ノ趣旨ニ基キ組合員ヲ督勵シ養殖方法ハ宮城縣水産試驗場ト連絡ヲ通ジ巡回講話又ハ實地指導ヲ請ヒ且年二回漁業組合聯合會ヲ催シ養殖事業ニ對スル評議ヲナシ以テ養殖法ノ改良ヲ謀リ又一面濫獲ノ弊ヲ防ギ其蕃殖力ノ増進ヲ助ケ或ハ切開法ヲ改善シ體質ノ傷害ヲ防ギ益々販路ノ擴張ヲ圖レリ

宮城縣 横田金兵衛

柴海苔養殖ノ方法成績

宮城縣本吉郡氣仙沼町ノ沿岸ハ南方遠ク太平洋ニ關ケ東方山脈連亘スルモ西方一帶平地ニシテ淡水(大川及ビ神山川ノ二川)ノ疏通宜敷ヲ得魚介ノ殖育ニ好適ノ處トシテ認識セラレタルガ安政年間武藏國大森ヨリ海苔養殖ニ經驗アル者數名ヲ備ヒ淡水混交ノ狀恰モ大森ニ彷彿タル字峰ケ峰ヲ選ミ茲ニ粗朶ヲ樹立シタルニ養殖ノ結果豫期ノ如ク甚ダ良好ニシテ明治五年迄ニハ四隣各村ニ普及シ同十八年ニ至リテハ其製造戸數三百有餘ノ盛ナルニ達シタリ然ルニ同年大川口ヲ隣村松岩村字前濱ニ變更セシヨリ淡水ノ調和ヲ缺キ産額頓ニ萎靡シテ平年ノ四分ノ一ニダモ及バズ從業者一時非常ニ困憊スルノ悲境ニ遭遇セシヲ以テ同二十五年ニ至リ同業者相計リ大川ヨリ流水スルノ途ヲ開キタルガ其功果空シカラズ養殖ノ成績昔日ニ劣ラザルニ至ル次ニ同二十年ニ於テ粗朶建直シノ事ヲ發明シ即チ粗朶建込ノ後大凡三箇月ヲ經テ(舊十一月頃)甲區劃場ヨリ海苔ノ充分發育シタルモノヲ未ダ發芽不充分ナル乙丙劃場ニ移殖スル時ハ其ヨリ次第ニ全般ニ播殖シ良好ノ結果ヲ得タリ此ノ方法ハ翌廿一年ヨリ續テ各

地ニ行ハレ輓近容易ニ柴海苔凶歉ノ憂ヲ見ザルニ至レリ養殖ノ方法ハ先ヅ一定ノ區劃場ニ毎年秋ノ彼岸前後ニ柴(雜木ノ小枝ニシテ海ノ深淺ニヨリ長短アレドモ大概三四尺ノモノヲ四五本合セ根元三四寸ノ間ヲ藁ニテ箒様ノ形トナシタルモノ)ヲ「舟通シ」トテ採取ノ際船ノ通路ニ差支ヘナキ程ノ間隔ヲ存シテ一列ニ建込ミ置ク時ハ十月頃ニ至リ發芽シ始メ漸次蕃殖シテ翌年一月ヨリ採取スルニ至ル目下當町ノ製造戸數ハ一百五十戸一箇年ノ産額平均七百七十萬枚其代金三萬三千圓ニ及ブ

山形縣 佐藤理兵衛

相摸村山形市ヲ距ル西方二里ノ僻村ナル夙ニ鯉魚ノ養殖ヲ爲シ仙臺地方ヨリスル魚類ノ輸入ヲ防遏シタリシガ爾後益其方法ヲ擴張シ縣下ハ勿論福島、秋田地方ニモ輸出スルニ至リ今日ニテハ相摸村大字要害ノミニテモ其養鯉戸數二十戸ニ及ビ其他水利ノ便アル用水池ニ幾分ノ養鯉ヲ見ザルモノナキニ至リ養鯉池トシテ使用セル水面五町步餘、之ニ近郷ニ於ケル飼育者ノ水面ヲ合算スレバ數十町步ノ多キニ達シ年々産出スル鯉魚ノ數量ハ一萬貫以上ニ及ベリ左ニ大字要害ノ年次産額ノ狀況ヲ示ス

鯉魚産額表

年次	戸數	數量	金額
明治十年	三	一八〇	一四五
同十一年	三	四五〇	三七〇

年次	戸數	數量	金額
同十二年	四	五〇〇	五〇〇
同十三年	七	五五〇	六〇五
同十四年	七	八五〇	一、一〇五
同十五年	七	一、五〇〇	二、一〇〇
同十六年	七	一、八〇〇	二、二五〇
同十七年	七	一、九〇〇	一、七一〇
同十八年	七	二、一〇〇	一、二六〇
同十九年	五	一、五〇〇	九〇〇
同二十年	六	一、六五〇	一、三二〇
同二十一年	六	一、七五〇	一、四〇〇
同二十二年	六	一、九〇〇	一、五二〇
同二十三年	六	二、二〇〇	一、五四〇
同二十四年	六	二、二〇〇	一、五四〇
同二十五年	六	二、二〇〇	一、五四〇
同二十六年	八	三、五〇〇	二、六二五
同二十七年	九	四、〇〇〇	三、四〇〇
同二十八年	〇	四、〇〇〇	三、六九〇
同二十九年	〇	四、一〇〇	四、五一〇
同三十年	〇	四、三〇〇	四、九四五